



埠頭 65 号



## 目次

### I. 『埠頭 65 号』発刊に寄せて

2023 年度横浜慶友会会長 塚田 光博	.....	8
----------------------	-------	---

### II. 横浜慶友会の活動 (1)

▶ 2023 年度・企画イベント紹介	.....	12
▶ 横浜慶友会・一年の活動	.....	22

### III. 特別寄稿

▶ 犯罪者による被害者への損害賠償の実現に向けて 慶應義塾大学法学部教授 太田 達也	.....	26
---	-------	----

### IV. 2022 年度卒業生 卒業論文概要

▶ マルクス・ガブリエル「新しい実在論」の理論と実践 文学部第 1 類卒 浅井 貞博	.....	30
▶ ペラギウスにおける信仰の在り方について — アウグスティヌスとの比較を通して — 文学部第 1 類卒 磯上 しのぶ	.....	34
▶ 中高年の感情労働のあり方 文学部第 1 類卒 角谷 佳子	.....	38
▶ 女子受刑者における職業訓練の可能性について 文学部第 1 類卒 田島 真由美	.....	41
▶ つながるカフェ — サードプレイスとしての役割をめぐって — 文学部第 1 類卒 吉田 揚子	.....	45

▶ 徳川斉昭の国家構想とその特徴について 文学部第2類卒 伊澤 真弓	47
▶ 石川家の近代における農業経営について 文学部第2類卒 根岸 優子	50
▶ 江戸時代の寺院と舞踏のつながり — 道成寺にまつわる舞踏を中心にして — 文学部第2類卒 盛田 清子	53
▶ 百姓一揆後の村落と「義民」の成立 — 郡上宝曆騒動の事例より — 文学部第2類卒 山内 学	56
▶ アメリカン・ルネサンスの肖像 文学部第3類卒 羽入田 和夫	61
▶ 日本の生産部門のエネルギー転換 経済学部卒 佐藤 勝明	64
▶ 持続発展する地域プランディングの研究 経済学部卒 高橋 渡	67
▶ 期待インフレ率の決定要因 — 行動ファイナンス的アプローチ — 経済学部卒 樋口 浩子	69
▶ アダム・スミスの労働者教育論 — マンデヴィルとの対比を通じて — 経済学部卒 富士原 一大	73
▶ 民泊新法を憲法で診る — 180日規制は合憲か? — 法学部甲類卒 西井 一博	76
▶ 香港返還とアジアの通貨危機、そして現在 — 平穏な返還と返還後の変化 — 法学部乙類卒 小林 賢一	80

## V. 新入会員の声

▶ 新たな出会いを求めて	
文学部第3類 山根 修一	86
▶ 私と慶友会の出会い	
経済学部 安倍 潤子	90
▶ 憧れの慶應義塾大学で法律を学び、社会貢献を目指す	
法学部甲類 西井 朗娘	92
▶ 慶應通信で果たしたいこと	
法学部乙類 澤田 哲男	95

## VI. 入学後の勉強法

▶ 私のレポート課題への楽しみ方	
文学部第1類 高品 敏明	98
▶ 「楽しみながら学ぶ」をモットーに	
文学部第1類 萩原 佳子	102
▶ 未知の学びの場へようこそ	
経済学部 鈴木 陽子	105
▶ 慶應通信 はじめの1年	
経済学部 渡邊 蘭	107
▶ レポート対策・科目試験対策	
法学部甲類 小林 香緒里	111
▶ 私の履修プランと学習法	
法学部甲類 桃野 清美	114
▶ 1年目の履修を振り返って	
—特にスクーリング授業の履修方法の失敗に着目して—	
法学部乙類 岸 伸京	119
▶ 目標に向かってコツコツと	
法学部乙類 盛岡 忍	124

## VII. 自由寄稿

▶ 『現代語訳 文明論之概略』を読む	
法学部甲類卒 小田 忠夫	..... 128
▶ 浜慶から三田会へ	
経済学部卒 竹原 貢	..... 132
▶ 1.26	
文学部第1類 平山 次男	..... 134
▶ 日本刀が彩る歴史探訪（その3）	
文学部第2類 神谷 喜人	..... 138

## VIII. 勉強会活動の振り返り

▶ 総合科目	リーダー 前村 孝子	..... 144
▶ 文学部	リーダー 宮澤 輝明	..... 146
▶ 経済学部	リーダー 野本 一昭	..... 148
▶ 法学部	リーダー 鈴木 佳寿子	..... 150
▶ 卒論サークル	リーダー 渡部 外彦	..... 153
▶ 卒論特別講座	案内役 渡部 外彦	..... 155

## IX. 横浜慶友会の活動(2)

▶ PEN 卷頭挨拶集 2023年度	..... 160
▶ 危機管理における横浜慶友会の基本姿勢	
2023年度横浜慶友会会长 塚田 光博	..... 176
▶ 横浜慶友会規約	..... 178
＜編集後記＞	..... 182



I. 『埠頭 65 号』発刊に寄せて



日吉・独立館前

## 『埠頭 65 号』発刊に寄せて

2023 年度横浜慶友会会长 塚田 光博

『埠頭 65 号』の発刊、誠におめでとうございます。

私が本会に入会したとき、ちょうど『埠頭 50 号』が発刊され、記念号としてその内容も中身の濃いものでした。特別寄稿には、安西塾長（当時）の特別寄稿が掲載され、本会の学習活動を賞賛されるお言葉を頂くほか、歴代会長等から会の歩みを語る座談会が特集されるなど、横浜慶友会の伝統や理念を知ることができます。信頼性のある慶友会として実感したことと記憶しています。様々な周囲の環境も変化していくなか、会の理念や精神は、現在もその流れを継承し続けており、本誌『埠頭 65 号』の発刊は、その証しともいえるでしょう。

本年度は、コロナ禍において実施してきたオンライン中心の活動から、いかに対面活動に向けて復活し、展開していくかが課題でした。

はじめに、リアル行事についてですが、本年 1 月の「新春鎌倉七福神巡り」でスタートし、久しぶりの対面行事では、あちこちで交流の輪が広がり、新スタッフが誕生するなど成果をあげています。17 名もの卒業生を輩出した 3 月の卒業式当日には、学位授与式後に卒業生一同によるお祝いの記念撮影会を実施し歓喜あふれる仲間たちの姿に感銘しました。4 月の三田キャンパスでは、新歓活動が復活し、5 月のリアルの卒業祝賀会には、多くの仲間が参集するなど、対面活動にこそ、仲間同士の強い絆が生まれることを再認識しています。

2 つめに、学習活動ですが、5 月の土曜日の午後にハイブリッドが可能か準備会議にて検証し、以降の勉強会や運営ミーティングにて、その活用

を成功させています。6月の講師派遣講演会は、約3年ぶりのリアル開催ということもあって、学習意欲に満ちた参加者の質疑は、その後の懇親会においても、先生と議論を交わすなど、盛況なものでした。実際の対面学習には、共に学び合う学生本来の姿を見出すことができたものと思います。

3つめに、他の慶友会や三田会との連携を活かした活動が挙げられます。全慶應通信卒業生を対象とした卒業祝賀会では、首都圏の慶友会との協力でオンライン開催を実施しました。本会からは5名の準備委員を選出(1名は委員長)し、記念品の選定や贈呈業務を行うほか、祝賀会の運営やグループセッションに参加するなど、貢献しています。準備委員の皆様には、心より御礼を申し上げます。

続く合同入会説明会も複数の慶友会による新入生向けの説明会を行い、新入会員数も順調に増えています。東京ポニークラスとは、ハイブリッド開催の支援を受け懇親会で交流するほか、神奈川通信三田会主催の卒論発表会では、本会卒業生の5名が発表するなど、近郊の慶友会や三田会等の慶應社中としての連携事業についても、リアル活動を展開させたと思う次第です。

本年は、以上のようにリアル復活へ始動の年でありましたが、今後はコロナ以前の活動を経験してきたベテランスタッフも次第に卒業し、新たなスタッフの活躍が求められるという転機を迎えています。新たな体制のもと、会の運営を担っていくことが当面の課題といえます。新しい会員の方には、ぜひスタッフとして会に参加することをお勧めいたします。

年間誌『埠頭 65 号』は、こうした年間の学習活動の経緯や、講師による特別寄稿、今期卒業生による卒業論文の概要及び会員皆様からの投稿な

どにより構成され、埠頭スタッフの皆様により編集された本会の集大成ともいえる大切な一冊です。会員の皆様には、「浜慶活動を知る」、「勉学の一助となる」、「在学時代の記念となる」など、大いにご活用いただけることを願う次第です。



## II. 横浜慶友会の活動 (1)

---



横浜・ベイブリッジ

## 2023 年度企画 活動について

企画 正岡 純代

2023 年度もコロナ禍により、オンラインの活動を継続することとなりました。3 年余りの経験の蓄積と会長、副会長、スタッフの皆さま、会員の皆さまのご協力のお蔭で、運営、活動ができました。2022 年 11 月の経済学部藤田康範教授の講師派遣は、Webex の利用でしたが、コメントスクリーンを活用しての臨場感あるご講演やメタバースの体験など、これからの中核的なデジタル時代を考える機会となりました。12 月はオンラインならばこそそのクリスマス映画の映像を楽しみながらの忘年会を、文学部第 1 類平山さんの解説で開催出来ました。文学部リーダー宮澤さんのバックアップもありました。

年が明けてからはようやく大学事務局の許可があり、リアル活動が再開されました。1 月「新春鎌倉七福神巡り」、5 月「卒業生をお祝いする会」・「鎌倉五山を巡る散策」、6 月「法学部・大学院法学研究科太田達也教授の講師派遣」を対面で開催し、その都度リアル懇親会もできました。3 年余りできなかった対面の企画を実施できたことで、会員同士の距離も一気に縮まったように感じます。2 月の 2022 年度卒業生によるオンラインミニ講演会は、講師のお一人が三重県在住で、オンラインを駆使しました。1 月以降の対面の活動は、塚田会長、笈川副会長のお力添えが大きいです。

2023 年度は、オンラインの活動から対面の活動への移行の年度となりました。さらに勉強会などではハイブリット開催が始まっています。コロナ禍の経験が、活動の幅を広げたことを実感できる年度になりました。

◆ 2023 年度 年間企画イベント◆

2022 年 9 月「意見交換会」

2022 年度夏期スクーリングを振り返って

2022 年 11 月「経済学部主催講師派遣」藤田康範教授

演題：「コロナ後の日本経済について考える」

2022 年 12 月「クリスマス忘年会」

文学部第 1 類 平山次男さんによる

「クリスマス 思い出の映画」

2023 年 1 月「新年会」

新春企画「鎌倉七福神めぐり」

2022 年 2 月 「ミニ講演会」

法学部甲類卒 西井一博さん、

文学部第 2 類卒 伊澤真弓さんによる講演会を開催

2023 年 3 月 「卒業記念撮影会」

2023 年 4 月 「新入生勧誘活動」

2023 年 5 月「卒業生をお祝いする会」

2022 年度卒業生 17 名のうち 11 名が出席。

卒業生をお祝いしました。

「鎌倉五山を巡る」散策

2023 年 6 月 「法学部主催講師派遣」太田達也教授

演題：「犯罪者による被害者への損害賠償をどう実現するか」

## 【2022年9月17日(土)意見交換会】

「夏期スクーリングを振り返って」と題して、夏期スクーリングでの経験談やアドバイスなど自由闊達な意見交換の場が設けられました。

2022年度は、3年ぶりに夏期スクーリングの対面授業が復活。初めて受講された方、久しぶりの授業を楽しめた方など22名が参加して、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期のグループに分かれてブレイクアウトセッション・スタイルで開催されました。初めての試みとして開催された今回の情報交換会は、参加者の生の声を聞くことができ、有益な情報を得ることが出来ました。これまでのスクーリングアンケートに加えて、今後のスクーリング受講の参考になったこと思います。

## 【2022年11月19日(土)講師派遣】

経済学部・藤田康範教授をお招きして講演会を開催。演題は「コロナ後の日本経済について考える」。休憩を挟んだ2部構成で、前半はコロナ後の資本主義経済について、後半はポストコロナの日本経済の活性化についてお話しいただきました。

特に後半の部では、メタバースについて、どこにいてもコミュニケーションが取れる環境が作れるという話をされ、実際にメタバースを体験する時間も設けられました。コロナの時代を経験したことでデジタルを活用する新しい時代の到来を実感すると共に、これから日本の日本を考えるうえでとてもタイムリーな内容のお話でした。

講演会の参加者は63名、その中には外部の慶友会からの参加者8名も含まれており、先生の人気の高さが知れるところでした。

## 【2022年12月17日(土) クリスマス忘年会】

12月は、「クリスマス 思い出の映画」と題し、文学部第1類の平山次男さんによるクリスマスをテーマにした映画を、映像を交えて解説していただきました。紹介していただいた映画は、「素晴らしき哉、人生！（1946年）」「めぐり逢い（1957年）」「恋におちて（1984年）」「めぐり逢えたら（1993年）」「ラブ・アクチュアリー（2003年）」「ニュー・イヤーズ・イブ（2011年）」など、古いものから近年上映のものまで6本。

映画の内容に始まり、みどころや映画同士の関連などの説明もあり、クリスマス時期に改めて本編を観たいと思える映画ばかりでした。

今回の参加者は27名。後半は、ブレイクアウトセッションで3つのグループに分かれ、一年を振り返って、様々なテーマで思い思いにフリートークを楽しんでいただきました。

## 【2023年1月22日(日) 新年会】

昨年はオンラインで開催した「鎌倉七福神巡り」ですが、今年はようやく大学事務局の許可がおり、リアルでの開催が実現しました。参加者は北鎌倉駅に集合し、約5時間にわたり七福神巡りを楽しみました。

昨年に引き続き、案内役は横浜慶友会OBの中田幹雄さんにお願いし、  
 ①淨智寺（布袋尊）⇒②鶴岡八幡宮（弁財天）⇒  
 ③宝戒寺（毘沙門天）⇒



淨智寺・暁華殿前にて

④妙隆寺（寿老人）⇒⑤本覚寺（恵比寿神）⇒⑥長谷寺（大黒天）⇒⑦御靈神社（福禄寿）と巡りました。

今年は、実際にお参りしながら現地で中田さんの詳しい解説を聴くことができ、移動の道すがらも会員同士の会話が弾み、多くの方とコミュニケーションを取ることができ、親睦を深めるよい機会となりました。

七福神巡りには 23 名、その後鎌倉駅近くのお店で開催された懇親会には 13 名が参加。対面ならばこそ、いろいろな話題で座が盛り上りました。



長谷寺にて

### 【2022年2月18日（土）ミニ講演会】

昨年9月ご卒業の西井一博さん（法学部甲類、三重県在住）と伊澤真弓さん（文学部第2類）を講師としてお招きして、ミニ講演会を開催しました。

参考となる資料を用意していただき、それぞれ 30 分の講演に加えて、質疑応答の時間も設けられ、卒業を目指す会員にとって、参考になるお話をしていただきました。

### 【2023年3月23日(木) 卒業記念撮影会】

3月23日、日吉キャンパスで卒業式が行われました。2022年度は、横浜慶友会から17名の卒業生が輩出されました。あいにくの雨天でしたが、独立館テラスでの撮影には、卒業生をお祝いするスタッフや関係者が駆け付け、素敵な写真を撮ることができました。



### 【2023年5月20日(土) 卒業生をお祝いする会】

日吉キャンパスにおいて、卒業生17名のうち11名に出席していただき、お祝いに駆け付けた会員の方々と共に「卒業生をお祝いする会」が開催されました。開会宣言、塾歌齊唱に続いて、卒業生一人一人に卒業までの道のりや在学中の思い出、学習方法など貴重なお話をさせていただきました。卒業生を代表して佐藤勝明さんより謝辞が述べられ、記念品贈呈、若き血齊唱と続き、閉会の辞では締めくられました。

その後、日吉駅近くのお店に場所を移して、久しぶりにリアルでの懇親会が開催され、卒業生の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。



## ◆謝辞◆

本日は横浜慶友会会員皆様のご臨席の下、このように盛大な卒業祝賀会を催していましたことに、卒業生一同心より御礼申し上げます。また只今塚田会長より卒業の祝辞のお言葉を賜りましたことに、重ねて御礼申し上げます。

我々をこの輝かしい卒業にまで導いて下さいました横浜慶友会の先輩の方々や一緒に勉学に励んだ学友の皆様のお陰で、今日のこのようなステージに立つことができました。また、スクーリングや卒論で指導を頂きました慶應義塾大学の諸先生方からは学問に対する探求の深さを教えて頂き、さらにはいつも支えてくれた家族みんなに、感謝を申し上げたいと思います。今迄本当にありがとうございました。

3月23日に卒業式を終え2か月程経ちますが、今の私の心中は卒業出来た嬉しさと、卒業してしまったという寂しさが混在しております。通信教育は自発的にアクションを起こさないと卒業まで辿り着きません。また一方では慶應義塾大学創設者福澤諭吉先生の教えは「半学半教」の精神を持って勉学をする事です。我々は常に能動的に勉学を取り組む一方で、この横浜慶友会で学友の皆様と互いに教えあう中で勉学を進めて参りました。このような互いに教えあった学友の皆様と4月以降別々の道に進むことになり、少々感傷的になっているのでしょうか。

ここで横浜慶友会に入会した時のことを少し皆様にお話したいと思います。私は2010年10月に慶應通信に入学しました。この横浜慶友会にも2010年10月の総会の時にに入会しました。入会したその日にPENのスタッフとなり、確かその時現在の塚田会長が会長兼PENのリーダーでいらっしゃり、塚田会長からはその時から多大なご指導を頂いておりました。

当時、PENのWEB版配信はされておらず、原稿を各スタッフに書いて頂き、それを編集して金曜日夜に神奈川県民センターで行われる夜間例会で印刷しておりました。PENは印刷する作業に時間が掛かっておりましたが、手伝ってくれた方々が大勢いて、ワイワイガヤガヤと楽しく、あっという間に印刷作業や封筒にレターを入れる作業を終えることが出来ました。最後に郵便物を横浜駅前にある横浜中央郵便局を持って行くだけで、横浜中央郵便局での発送作業が終わったら、近くにある崎陽軒のビアレストランへ直行して、手伝ってくれた皆さんと懇親会を毎回したものでした。私はこの懇親会によって横浜慶友会の皆さんと親睦を深め、同時に慶應通信に対するモチベーションを高めたことは言うまでもありません。

次に私のモチベーションを更に高めたことは、経済学部勉強会のリーダーを3年間務めさせて頂いた事です。私が経済学部の勉強会を率いるようになって新しく行った事は、

「土曜日勉強会」というゼミナール形式の勉強会を開催したことです。この土曜日勉強会について少し振り返ってみたいと思います。

この土曜日勉強会は毎月1回、日吉キャンパスにあるメディセンターや教室で「経済原論」や「統計学」などの科目について学習発表や課題に関するディスカッションを行っていました。参加者は事前に与えられた課題について学習をし、レポートとして纏めてくることを必須としておりました。私はこの土曜日勉強会に参加してレポートを作成するために書物を読み漁るだけではなく、他の学友の皆様に報告する内容がしっかりと伝わるように、論理的な説明になっているのかしっかりと文章構成を考えたものです。この土曜日勉強会で得たことは後々慶應通信で経済学の応用を効かせた課題に取り組む際に大変役に立ちました。

また、この土曜日勉強会で一緒に勉強した皆さんは見事卒業まで辿り着いたと聞いております。ここまで勉学の思い出についてでした。次は課外活動についてお話したいと思います。

慶應義塾は文武両道を掲げており、私はその文武両道は通学生だけではなく、通信教育の学生にも実践して頂きたいと考え続けておりました。私は同じように文武両道の志を持った学友さんと何度も山登りに行きました。時には泊まりがけで、テントを背負ってキャンプをしながら八ヶ岳の最高峰を制したこともありました。テントを設営し夕食を共にしながら学友さんとは翌日の登頂の成功のみならず、慶應義塾を卒業することを固く誓いました。翌日の八ヶ岳山頂で慶應義塾の旗を立てたことは、私にとって良い思い出です。

最後まで聞いて頂きありがとうございました。申し上げました様に、私は横浜慶友会の皆様に支えられながら無事卒業まで辿り着きました。本当にありがとうございました。今後は横浜慶友会の皆様に恩返しをする時期だと思っております。どのような形であるにせよ、皆様の勉学のお手伝いが出来れば幸せです。また、皆様の卒業を願ってやみません。

今日は、このような盛大な祝賀会を開催していただきまして、どうもありがとうございました。最後に皆様のご健康と慶應義塾大学、横浜慶友会の輝かしい発展を祈念し、謝辞とさせて頂きます。

2023年5月20日

慶應義塾大学横浜慶友会 卒業生代表  
佐藤 勝明

## 【2023年5月28日（日）「鎌倉五山を巡る」散策】

1月の「鎌倉七福神巡り」に続き、今回も横浜慶友会OBの中田幹雄さんの案内で鎌倉を代表する落ち着いた禅宗寺院を巡りました。

北鎌倉駅に集合後は、①鎌倉五山第二位・円覚寺⇒②五山第四位・淨智寺⇒③五山第一位・建長寺を巡り、亀ヶ谷坂切通・岩船地蔵堂を経由して⇒④鎌倉五山第三位・寿福寺へと向かいました。五山第五位の淨妙寺はかなり離れているため、今回は4つの寺院を案内していただきました。

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で人気を博した鎌倉ですが、ドラマとは趣の異なる落ち着いた禅宗寺院をゆっくり巡ることができ、散策後の懇親会でもいろいろな話題で盛り上りました。



寿福寺



建長寺・唐門前にて

## 【2023年6月17日(土)講師派遣】

法学部・大学院法学研究科太田達也教授をお招きして、講演会を開催。演題は「犯罪者による被害者への損害賠償をどう実現するか」。今回の講演は、被害者学という学問分野に基づくもので、開講している大学は少なく、大変貴重な機会となりました。

約3年ぶりとなった会場を使っての講師派遣は、日吉キャンパスD307教室で行われ、参加者は他慶友会からの参加者も含め50名あまりで、会場はほぼ満席となりました。

犯罪被害者は、被害を受けながらも適切な対応が取られておらず、一方、犯罪者は被害者の悲惨な状況を知ることなく、刑には服するものの、損害賠償の実現ができないのが実情で、その実現が課題であると知ることができました。

講演終了後は日吉駅近くのお店に場所を移して、先生を交えての懇親会が行われ、30名程度が参加し、リアルならではの有意義な時間を過ごすことができました。



## ◇◇横浜慶友会・一年の活動◇◇

年月日	活動名	主な内容	会場	特記事項
2022年 9月	9.17日	運営ミーティング 勉強会 意見交換会	Zoom・Webex	
	17.18日			
	17日			2022年度 夏期スクーリングを振り返って
2022年 10月	14日	運営ミーティング 勉強会 定期総会	Zoom・Webex	
	8.22.23. 29.30日			
	22日			スタッフ選出 会長：塚田さん 副会長：笈川さん
2022年 11月	11.19日	運営ミーティング 勉強会 講師派遣・懇親会	Zoom・Webex	
	19.20.26日			
	19日			経済学部 藤田康範教授 演題：コロナ後の日本経済について考える
2022年 12月	9.17日	運営ミーティング 勉強会 クリスマス忘年会	Zoom・Webex	
	17.18日			
	17日			文学部第1類 平山次男さんによる「クリスマス思い出の映画」
2023年 1月	18.21日	運営ミーティング 勉強会 新年会	Zoom・Webex	
	21.29日			
	22日			鎌倉 新春鎌倉七福神巡りツアー
2023年 2月	10.18日	運営ミーティング 勉強会 ミニ講演会	Zoom	
	18.19日			
	18日			法学部甲類卒 西井一博さん 文学部第2類卒 伊澤真弓さんによる講演
2023年 3月	10.18日	運営ミーティング 勉強会	Zoom	
	18.19日			
	23日	卒業式		日吉キャンパス 卒業記念撮影会

年月日	活動名	主な内容	会場	特記事項
2023年 4月	10.15 日	4月例会	運営ミーティング	Zoom
	15.16 日		勉強会	
	29 日	入学式		三田キャンパス 新入生勧誘活動
2023年 5月	13.20 日	5月例会	運営ミーティング	日吉キャンパス Zoom
	20.22 日		勉強会	
	20 日		卒業生をお祝いする会	
	20 日		新入生歓迎会	
	28 日	鎌倉散策	鎌倉	「鎌倉五山を巡る」散策
2023年 6月	9.17 日	6月例会	運営ミーティング	法学部 太田達也教授 演題：犯罪者による被害者への 損害賠償をどう実現するか
	17.18.19 日		勉強会	
	17 日		講師派遣・懇親会	
2023年 7月	10.15 日	7月例会	運営ミーティング	Zoom
	15.16 日		勉強会	
2023年 8月	19 日	夏期スクーリング	夏スク打ち上げ懇親会	日吉 新入会員を含む 27 名が参加





---

### III. 特別寄稿



三田・彫刻『平和來』を望む

# 犯罪者による被害者への損害賠償の実現に向けて

慶應義塾大学法学部教授 太田 達也

被害者は犯罪によって、身体的被害、精神的被害に加え、多大な経済的損害を被ります。特に、一家の主たる家計維持者が殺害された場合、遺族がたちまち生活に困窮することも少なくありません。子どもの進学に影響することもあります。この被害者が被った損害に対し賠償する責任を負うのは犯罪者です。殺人事件の場合、犯罪者は被害者から数千万円から数億円の損害賠償を請求されることもあります。しかし、被害者が民事裁判や損害賠償命令によって損害賠償の権利を得ても、重大事件の犯罪者は刑事裁判で重い刑を科せられ、何十年もの間、刑務所で服役することになります。

もともと資産をもっていないうえ、刑務所での作業には月額数千円から2万円台の報奨金しか支給されないため、損害賠償には程遠い額ですし、刑務所から被害者に送金する制度があり、受刑者にも入所時にちゃんと説明がなされますが、実際に送金する受刑者は殆どおりません。受刑によって贖罪が終わると考えている犯罪者も少なくないようですが、刑務所側も、これまで長年に亘って、賠償は「民事」の問題であるので、刑務所でこうした指導をすることは「民刑分離の原則」違反となるのでできないという間違った解釈を取ってきたことも無縁ではないように思われます。

しかし、自分の犯した罪の清算をすることは「民事」の問題ではなく、正に更生の一環であります。自分の犯した罪の現実（被害）を正面から見つめ直し、その贖罪に向けて努力することが、正に改善更生であります。刑事司法では受刑者の社会復帰という言葉がよく使われますが、社会復帰

とは刑務所を出た後二度と悪いことをしなければそれでよいということではありません。元受刑者の生活も決して楽なものではありませんが、被害者はそれよりはるかにもっと大変な生活を送っているのです。**社会復帰とは被害者の事を忘れる事では決してありません。**

しかし、これまで研究者と実務家のほぼ全員が、重大事件の犯罪者の被害者に対する損害賠償は不可能であるとして諦めてきたため、犯罪被害者の経済的苦境はずっと放置されてきました。犯罪被害者にとって、日本は、「法治国家」ならぬ、「放置国家」そのものでした。犯罪被害者は、重大な犯罪被害を受けるという不幸だけでなく、日本で犯罪被害に遭うという不幸まで背負わされているのです。

これまで不可能とされてきた重大事件の犯罪者による被害者への損害賠償は、わずかずつでも、きちんと被害者に支払いがなされるようにしていく必要があります。実際の遺族の中にも、犯罪者が僅かずつでも、できる限りの支払いを続けていくことが大切だとおっしゃる方もいます。そのための方法は、私はあると考えています。後は、政府が被害者のために動く勇気と意欲があるかどうかにかかっています。





## IV. 2022 年度卒業生 卒業論文概要

---



日吉・卒業式当日

# マルクス・ガブリエル「新しい実在論」の理論と実践

文学部第1類卒 浅井 貞博

指導教員 文学部 石田 京子 教授

## 【はじめに】

今回卒論を要約するにあたり、改めて「哲学」の意味について考えました。「小難しい時代遅れの学問ではないのか?」「科学技術やAIの進歩でそんなもの必要ないのでは?」等々、哲学に対する多くの懷疑があると思います。しかしながら、人類が存在する限り哲学は人類にとって欠かせないものであることは確かです。

「哲学」について再度確認すると、哲学とは英知、つまり「真理」を探求する行為に他なりません。19世紀以降、近代に入ると自然科学が急速に進歩し、「神」という絶対的なものや、人間の精神を扱う人文科学の地位が低下し、哲学から自然科学が独立した形となっていました。元々、自然科学が哲学であったということは、古代ギリシア時代から近世まで、多くの著名な哲学者が同時に著名な数学、物理、天文、医学者などであったことからも容易に理解することができます。例えば、プラトンは主催するアカデミーの入り口に、「幾何学を修めないものは入学を認めない」とした逸話があるようですし、最近知ったのですが、「モナド」、「予定調和」、「充足理由律」で有名なライプニッツ(1646-1716)は、かのニュートンと同時期に微積分法を発見しており、現在使われている微積の記号は彼の影響が大きいと言われているようです。

西洋哲学は、17世紀に入り社会契約説あたりから始まる啓蒙思想、つ

まり、我々人間の英知（理性）によって進む方向に光を照らし、人間が戦争や抑圧により自由を奪われることなく生きていく道を模索しましたが、二度の大きな戦争を経験し、人間理性の敗北という形で哲学の地位は地に落ち、無力感だけが残ることとなりました。しかし、同時に忘れてはならないことは、その戦争で使われたのは何を隠そう、人間を大量に殺戮する目的で科学によって開発された兵器だったのです。大事なことは、それが哲学から独立した絶対的信頼を獲得した自然科学であるという皮肉です。自然科学の哲学からの独立は、人間の意識、道徳、倫理を離れて、目的を見失い独自に進化していきます。遂には、人間の意識、つまり精神を脳に還元し、さらにはシンギュラリティ仮説によると、人間の脳に代わってAIがあらゆることを決定していくという未来図まで描かれるようになりました。それは、人間が人間を捨て去り、他の生物や物と同じように自然種に帰るときです。

人間が人間であるためには、今一度、哲学または倫理と自然科学が共にある状態に立ち返るべきです。今回、卒論のテーマとして、自然主義や還元主義批判を展開するマルクス・ガブリエルの「新しい実在論」をガイドに、なぜ今日このような「世界」であるのかという問いと、それに対する応答という形での「新しい実在論」の実践というテーマで考えてみました。私たちは、神の視点など持ちえない自然種としての生物であるが故に、常に哲学する姿勢（真理を探究すること）と、自然科学、社会科学いずれの分野にも哲学・倫理と共に（道徳的枠組みの中にある）ことが肝要であると考えます。

以下が、卒論テーマの要約になります。

## 【卒業論文の要約】

マルクス・ガブリエルの「新しい実在論」は、「実在論的転回」という形で、意味の無化によって、真実は多く存在するというポストモダン思想を終焉させ、絶対性や普遍性を取り戻そうとするマイヤスーやハーマンらの現代の実在論運動として捉えられている。但し、ガブリエルは、ポストモダンの相対主義のみならず、近代の科学、神、理性に絶対的真理を求める古い形而上学、さらには、現代の実在論運動の非人間主義を批判する。

では、「新しい実在論」の理論の要諦は何か、さらに、この実践哲学は現代の危機の時代にどのように立ち向かうのか。

ガブリエルの実在論は、世界の不在と同時に、心や精神といった世界以外のあらゆる存在を認め、その存在を「意味の場」に求める。この「意味の場の存在論」は、認識と存在、主観と客觀、実在と現象など従来の哲学的課題である二元論を乗り越えることができる。それは、あらゆるもののが、現実（real）から離れることなく意味の場に閉じ込められる存在論であり、認識の多様性ではなく、意味の場の複数性を主張する「存在論的多元主義」であると同時に、物自体は認識可能であるとする「存在論的実在論」であるからだ。

この実在論は、人間主体（思考や認識）と現実が、「共に」〈mit〉という仕方で存在するという主張であり、飽くまで意味の場に現われる real から離れないことが特徴である。それは、今日のように科学中心の世界像を結ぶ自然主義や、形而上学によって「世界」を把握しようという試みのような人間が渴望する超越的な「神の視点」や、事実や真実は存在せず、観察者の視点があるのみという相対主義や構築主義を批判する。

自然法則が支配する決定論の世界で生きる人間は、その中でも自由意志

によって意味を見出し決定論的に生きるのではない。ガブリエルの思想の根底には、無数の意味の選択をしている人間の自由な精神、つまり人間主体の擁護の姿勢が強く感じられる。ガブリエルの「新しい実在論」は、自由の精神による人間の倫理的進歩なしに、人類存続の危機に立ち向かうことはできないとする実践啓蒙哲学である。人類は、自然（宇宙）の一部、つまり現実を構成するものであり、同じ生物的基盤をもつ自然的存在であると同時に、自然種と区別される精神を持った人間自身の存在を思考する精神的存在である。このことは、人類が同じ種の動物であるからこそ、人類存続の危機の意味の場において、普遍的な人間性による倫理的事実は共有・連帯できるということを意味する。したがって、実践啓蒙哲学としての「新しい実在論」は、あらゆる意味の場に倫理的事実という道徳哲学のフィルターをかけることで、全体主義、自然主義、還元主義、相対主義によって引き起こされる現代の人類存続の危機に対抗することができるのである。

# ペラギウスにおける信仰の在り方について —アウグスティヌスとの比較を通して—

文学部第1類卒 磯上しのぶ  
指導教員 文学部 上枝美典教授

## 1. 問題提起とその目的

ペラギウス論争は、「原罪を重んじるアウグスティヌス」と「東方神学由来のパイディア思想を継承するペラギウス」の神学のパラダイムの違いに端を発した。それは主に、次の3点に対する捉え方の違いであり、この違いがペラギウス排斥の根拠となった。

- (1) 原罪による自然本性の壊滅について
- (2) 原罪が全人類に及ぼす影響について
- (3) 神によって注がれる恩恵について

論争の結果、418年のカルタゴ教会会議において、アウグスティヌスが提唱した「原罪論」と「恩恵論」の要点は西方教会の正式な教理として採択され、今もなお、その神学が西方教会の教理の本流となっている。この点において、ペラギウス論争はキリスト教史上画期的意義をもつと考えられる。一方、ペラギウスが提唱した神学は、現在においても異端のレッテルを貼られたままに留まっている。

このように、現在も立場の明暗が際立っている状況であるが、ペラギウスの思想は、本当に異端視され続けるに値するものなのであろうか。思想そのものがアウグスティヌス神学の強い影響下にある西洋とは異なる環境において、また現代において自由な発想を以ってしたならば、ペラギウス

が提唱した思想を別の角度から捉えることができるのではないだろうか。

本論では、この問題について提起をした。そして、長きにわたりペラギウスに貼られ続けた異端というレッテルを一度取りのぞき、神学のひとつの位相としての「信仰」を通して、改めて、ペラギウスが向かおうとしていた方向性を明らかにすることをその目的とした。

## 2. 問題に対する考察と総括

提起した問題を考察する上で、4段階のプロセスを基本構成とし、各プロセスを章立てとリンクさせて執筆を進めていった。

### 第1章 ペラギウスとアウグスティヌスにおける思想の背景

- ・論争が起きた時代背景を確認し、両者の思想を生み出した根源を探る。

### 第2章 ペラギウスとアウグスティヌスにおける思想の特質

- ・恩恵論と原罪論に対する考え方を比較考量する。

### 第3章 ペラギウスとアウグスティヌスにおける信仰の特質

- ・信仰論に対する思想の特質の違いを考察する。

### 第4章 問題設定に対する帰結

- ・ペラギウス神学の排斥についての再考し、アウグスティヌスとの比較において、ペラギウスが目指した世界を明らかにする。

以上の流れをふまえ、アウグスティヌスは「原罪論を核とした、自身と神とのユニークな関係における信仰」をもとに神と人間との正しい関係の構築に、それに対しペラギウスは「キリストの模範に根ざす、社会に開かれた生きた信仰」を軸に正しい人間関係の構築に努めたという構図を明確にし、総括とした。

### 3. 卒論完成までの経緯

#### (1) テーマの選定と経過

当初、アウグスティヌスの恩寵論と東方正教会の神学的理念を比較し、キリスト教会の「分離」から「共存」への道を模索するための問題を扱おうと目論見た。しかし、関心を抱いている内容が漠然としていて卒論のテーマとしては適切ではないのでは、という指摘を頂いた。そこから「神の恩恵と自由意志」をキーワードとして軌道修正を行い、3回目の指導の際にテーマをペラギウス論争に決定、4回目の指導でアウトラインが確定した。

提起した問題を検討するにあたり、主なテキストとしてアウグスティヌス自身の著作と金子晴勇氏の著作を、ペラギウス側からは『キリストの模範（山田望, 1997）』を用いた。ペラギウスはローマ滞在中に『三位一体の信仰』三巻、『聖者の選択』一巻、『聖パウロの手紙注解』を執筆しているが、最後の著作だけがヒエロニムスの著作の中で残っているにすぎない。また、ペラギウス論争の的とされ、反論や弁明として記された文書のほとんどは失われてしまい、論敵たちの著書の中に、もはや断片的にしか残されていないのが現状である。本論において、ペラギウス側のテキストとして、ペラギウスを異端者と見なす偏見から極力離れてペラギウス神学の本質的特徴と、道徳的教育者としての本来的意図の解明を目的として著された『キリストの模範』を選んだのは、このためである。

#### (2) 卒論指導（計5回）

- ・初回：2020年春、オンライン

- ・第2回：2020年秋、オンライン
- ・第3回：2021年春、オンライン
- ・第4回：2021年秋、オンライン
- ・第5回：2022年春、対面

### (3) 卒業試験（2022年9月）

資料は使用せず、卒論について口頭で説明をした。（第5回卒論指導時の指示）何を問題にし、それに対してどのような考察を行ない、どういう結論に導いたか。これを軸として15分ほど説明をし、その後20分ほどの質疑応答、全体で45分ほどの試験であった。

## 4. おわりに

週末に仕事があるため、横浜慶友会の活動に参加できたのは数えるほどだったが、皆様からのアドバイス、皆様の進捗の様子が大きな原動力となつた。特に、卒論に入ってしばらくは五里霧中の状況が続き、不安もあったが、卒業された先輩方の背中を追って邁進することができた。慶友会の存在が有形無形に大きな励ましとなり、卒業に至ることができたと思う。深謝。

## 中高年の感情労働のあり方

文学部第1類卒 角谷 佳子

指導教員 文学部 岡原 正幸 教授

スクーリング、テキストでの単位取得を終えて、卒論に向き合うことになりテーマを選ぶところからとても苦労しました。学問に向き合った自分が強く惹かれた分野を振り返り、様々な論文を乱読したのを覚えています。テーマ選定の経緯は『埠頭 64 号』に記載しています。

テーマ「中高年の感情労働のあり方」

### 【要約】

サービス産業の発展に伴い、第3の労働である感情労働はますます増えている。感情労働の先行研究は、看護医療や介護、教育などの職業での偏りがあり、さらに年代別での研究は確認できなかった。40年、50年と過ごしてきてこれからは安定した日々を送るだけと思っていた中年期に、自分自身の老化、親の介護、看取り、子どもの巣立ちといったことが心理的に大きな危機を誘発することがある。また、今の40代、50代は昇進できない人も多く、自分の理想と現実が乖離していることに気づき、むなしさにかられることになる。主流の役割から外れ、後輩の支援であったり、手本になることを求められたりと役割が変わり会社員としての締めくくりの時期に向かう。そのような時期にどのように感情管理をし、どんな感情労働を行っているのだろうか。

本論では、感情が社会の影響を大きく受けることを論じ、政策、法律改

定の状況、公共機関などの調査結果から、中高年をとりまく社会的認識や労働状況を明らかにした。さらに7名にインタビューを行い、中高年の感情労働の実態と中高年特有の事象、感情管理の変化を調査した。インタビューでは、①人間関係や仕事を円滑に進めるための気遣い感情労働、②自分が快く仕事に従事するための自衛的感情労働、③会社から常に前向きに求められる感情労働があることがわかった。中年の危機に見舞われている人、女性管理職登用の影響を受けている人もいた。また、6名が中高年で感情管理の変更を行っている。①自分の理想に近づくための感情管理、②組織のルールによってデザインされた感情管理、③職場の居場所を確保するための感情管理がなされていることが明らかになった。

ストレスが大きく負担がかかる感情労働をしている人はいなかったが、中高年期に感情管理を強化している人、中年の危機で心理的負担を感じている人がいた。現役世代をサポートするステージに立った時、中高年が年齢による卑屈さを伴わない感情労働であるべきである。

指導教員は感情社会学の権威であった岡原正幸教授におねがいしました。多くの通信生を指導されている先生でしたし、優しい先生という評判を耳にしていたのですが、2回目の指導の際に「僕はそんな論文読みたくない」と指導され、1から書き直しました。ひどく落ち込んで1か月くらい卒論から離れて冷静になってから、4か月くらいで書き上げました。3回目の指導の際には提出許可が出て、卒業試験の際には「これまでの感情労働の論文の中でも1番おもしろいものになった」と講評いただき、苦労が報われたと歓喜したのを覚えています。

介護は終わりがないもの、仕事は短期決着と様々な時間軸がある中、私

にとって卒論は中期計画の自分だけの贅沢な時間でした。時には焦りましたが、あきらめずに 1 歩 1 歩進むことを自分自身に言い聞かせてゴールできました。学びを積み重ねていくことは並大抵のことではなかったけれども、真剣に向き合った時間はかけがいのないものになっています。



三田・東門

## 女子受刑者における職業訓練の可能性について

文学部第1類卒 田島 真由美  
指導教員 商学部 木島 伸彦 准教授

刑事施設での職業訓練は、本人の希望によって訓練を受けているにも関わらず、日常生活での規律違反によって、職業訓練が途中で終了となる受刑者が現れる。規律違反を一度でも行うと、職業訓練はその時点で終了となってしまう。受刑者にとって職業訓練は、出所を早め、資格取得や就労のチャンスであり、社会復帰への大きな第一歩である。しかし、なぜ毎回のように職業訓練中の大切な時期に、規律違反をする受刑者が出てしまうのだろうか。これらの要因として、人生や職業においての取り組み姿勢や成熟した考え方の欠如、そして志向性の差によって生じるのではないかという仮説に至った。

本研究では、女子刑務所において、受刑者のさまざまな心理傾向の違いが、職業訓練内の資格取得や、職業への意識に作用するのか検証を試みた。調査は、特殊な場所での質問紙調査の為、慎重な対応が求められた。その為、刑務所での質問紙調査は本調査のみとし、予備調査では、本調査で用いる質問項目の妥当性、信頼性を測ることを目的に慶應義塾大学の通信課程生を対象とした調査を行った。予備調査では、卒論指導へ至ることを従属変数とし、通信課程生を3つに分類し(1. 卒論指導を受けている 2. 卒論指導を受けていない 3. 卒論指導登録のみ)、本調査では、資格取得（訓練終了）を従属変数とし、受刑者を4つに分類し（1. 職業訓練を受けている 2. 職業訓練を希望したが受講できなかった 3. 規律違反によって職業訓

練が途中で終了となった 4. 職業訓練を終了した) 検証を行った。

調査内容は、下山（1986）が作成した職業未決定の状態を測定する尺度、成人キャリア成熟尺度（坂柳，1999b）、達成動機測定尺度（堀野，1987）、個人志向性・社会志向性尺度（伊藤，1993）、信頼度尺度（天貝，1995）を使用し検証を行った。

従属変数を説明する独立変数として決定、未熟、混乱、猶予、模索、安直、自己志向性、社会志向性、自己充実的達成動機、競争的達成動機、関心性、自律性、計画性、自分への信頼、他者への信頼、不信を仮定し、結果に至る上で、どのような関連があるかを検証し、取り組み意識を明らかにした。統計解析ソフトは、SPSS27 for windows を使用し、Microsoft Excel に統合したデータを SPSS に読み込み、データ調整・解析を行った。

その結果、予備調査と大きく異なる結果を示した尺度が、達成動機測定尺度の自己充実的達成動機と競争的達成動機であった。この尺度は、困難なことへの挑戦や、成功させたい動機、競争心の強さであり、予備調査では、卒論指導を受け、卒業へ向かっている通信課程生に高い傾向が見られた。しかし本調査では、規律違反によって職業訓練が途中で終了となった受刑者に 1 番高い傾向が見られた。刑務所内での規律違反とは、決して重大な違反ではなく、具体的には、受刑者同士の物の貸し借り、食べ物をあげる、もらう、私語など些細な内容である。「利他の心」とも捉えられる規律違反もあるが、刑務所内では「規律違反をしたら職業訓練が受けられなくなる」という罰則がある。自己充実的達成動機と競争的達成動機の高い受刑者たちが、途中で職業訓練を終了してしまうことは、非常に遺憾である。果たしてこの罰則が、再犯防止や更生につながるのか検討の余地があると考える。

さらに相関関係の検証では、達成動機尺度の自己充実的達成動機には、関心性、他人への信頼、自分への信頼、競争的に正の相関が認められ、計画性に負の相関が得られた。宮本(1994)らは、人間は、年をとるという不可避な制約を受けながらも、自己への有能感をもち、自己の動機を高く保っていれば、いつまでも自己への可能性を持ち続けることを示唆している。これは、物事を最後までやり遂げ、困難なことへも挑戦する意志は、自分を信じ、関心性を持つことで達成できることであり、宮本(1994)らの結果を支持していると言える。

質問紙の最終頁には、職業訓練に対する自由記述欄を設け 100 名中、56 名の記述があった。刑期を考慮した職業訓練内容の検討と、職業訓練者の人数増員を希望する声が多く、職業訓練が強制的なものではなく、受刑者が訓練を望んでいる姿勢が伺えた。しかし、職業訓練で資格を取得しても、出所までの期間が長い受刑者は、資格を活用できず、不安を抱え、混乱している記述があり、これは心理尺度でも同じ結果が得られていた。職業訓練終了後も、受刑者に対するフォローが必要であり、受刑者の刑期と職業訓練期間が見合っているかの検討も必要である。

職業訓練は、出所後の実用性を考慮したプログラムであることが望ましく、雇用のニーズが高い職種を把握した上で、職業訓練内容を再検討すれば、社会情勢と合致するプログラムとなり効果的である。刑事施設における職業訓練は、知識や技能を高めるためだけではなく、社会復帰の為に更生すること、そのために出所後の就職に必要な知識、技能を身につける目標を与え、精神面からもサポートすることが重要である。職業訓練を通して、自分に自信を持ち、過去のさまざまな依存から乗り越え、自分の生きがいや、やりがいを見出し、社会から必要とされる喜びを感じてほしいと

考える。

#### 参考文献

- 天貝由美子 1995 信頼度尺度 心理測定尺度集II サイエンス社  
伊藤美奈子 1993 個人志向性・社会志向性尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討心理学  
研究、64、115-122.  
坂柳恒夫 1999b 成人キャリア成熟尺度 心理測定尺度集II サイエンス社  
下山晴彦 1986b 職業未決定尺度 心理測定尺度集II サイエンス社  
堀野 緑 1987 達成動機測定尺度 心理測定尺度集II サイエンス社  
宮本美沙子・中田美子・堀野緑 1994  
大学生と高齢者における可能自己と達成関連動機との関係について 5(1)、22-30.

#### ～卒論への取り組み姿勢について～

卒論に入る前に、卒論単位という表面上のことには捉われず、何のために慶應義塾大学へ入学し、なぜ慶應義塾大学でなければならなかったのか原点に立ち戻り、取り組むことをお勧めします。自分の問い合わせに対する答えを求めて入学された方も多いはずです。

初回の卒論指導では、緊張もあり、自分の想いを漠然としか伝えられないと思いますが、点と点を線にして導いて下さる先生もいらっしゃいます。積極的に先生と関わり、最短でも1年半かかる卒論を有意義な時間にするために、自分の想い込みは捨て、自分のミスを受け入れる勇気を持ってください。すべては自分が源泉であり、人や環境のせいにすることは自分の思考を停止させ、ある意味、楽な現実逃避もあります。卒業することは自分で決めた道ですから、自分と向き合い、傲慢さは捨て、壁に突き当たった際には、慶友や指導教員に相談できる素直さを持つことが大切だと思います。

「社会の先導者」として、慶應義塾が求める社会に貢献できる人材となるよう、人間性も高めながら、横浜慶友会のみなさんに心から祝福される卒業生になることを願っております。

## つながるカフェ ～サードプレイスとしての役割をめぐって～

文学部第1類卒 吉田 揚子  
指導教員 文学部 近森 高明 教授

### 【卒業論文の要約】

近年、街の至る所でカフェを見かけるようになった。しかしながらその利用形態は多岐に渡る。カフェとは単なる飲食を提供する商業施設としての役割を果たしているだけでなく、ペットとくつろげる癒しの空間であったり、飲み物を安価で飲める町内会の集まりもコミュニティカフェと呼んだりする。また、全国に展開するスターバックスなどのコーヒーチェーン店は、公私が混在した空間の提供を試みている。オルデンバーグはこのようなカフェなどの公共の場を「第三の場所」とし、人々が生活する上で欠かせない場所であると定義した。

本論では、「第三の場所」という視点を基準として、公共の場としての現代のカフェの社会的役割を歴史的文脈と社会的文脈から考察した。考察するにあたり、まず先行研究の整理とオルデンバーグの定義の確認を行い、「第三の場所」の必要性を再確認した。そしてそもそもカフェはどのような役割を果たしていたのか、フランスと日本におけるカフェの歴史をたどり、まずは歴史的な文脈からカフェの果たす役割を明らかにした。次に現代のカフェの具体例として、3つの形態の違うカフェを取り材し、それぞれのカフェがオルデンバーグの定義した「第三の場所」としての機能を果しながら、社会的ネットワーク（社会関係資本）の創出に寄与しているこ

とを証明した。

結論では、創出される社会的ネットワークを3つに分類した。①社会的ネットワークを結束する場、②社会的ネットワークを構築する場、③社会的ネットワークを広げる場である。これらの結果を踏まえながら、最終節では今後期待されるカフェとして次の3つの要素を提案した。①空間の提供（社会的地位に関係なく、平等な立場で居られる空間の提供）、②主体性の尊重（自主的な活動が生まれる場）、③緩やかな関係性の維持（家庭内や職場などでは実現できない人間関係の維持）である。

以上のことから本論では、オルデンバーグの定義する「第三の場所」が自然発生的なものを前提にしているのに対し、人為的に「第三の場所」を作ることが可能であるという事を明らかにしたとともに、オルデンバーグの「第三の場所」の定義に社会的ネットワークの創出に寄与するといった点で、再検討が可能であることが考察された。

## 徳川斉昭の国家構想とその特徴について

文学部第2類卒 伊澤 真弓  
指導教員 文学部 上野 大輔 准教授

### ・はじめに

歴史は実に様々なことを我々に語りかけてくれる。歴史を紐解くことで我々は先人たちが遺した文化や思想に触れることができる。日本の歴史の中には、これまで何回かの対外危機がある。白村江の戦い、2度にわたる蒙古襲来、そして、1792年ロシアの南下に始まる西洋列強との闘いなどがそれである。この中で私は江戸時代末期の日本に焦点をあて1人の人物を取り上げた。その人物とは第9代水戸藩主徳川斉昭で、江戸幕府最後の將軍慶喜の父である。彼は明治政府が樹立される30年も前に、天皇を頂点とする仁政の必要性を説き、揺らいだ幕藩体制の立て直しを図り、藩を越えて日本という国を考えた人であった。彼の名は歴史から抹殺され現在ほとんど知られていないが、後世に与えた影響はその後の歴史をみれば明白である。東南アジアの国々が次々と植民地化される中で危機感を募らせた斉昭が將軍家慶に対して何を訴えたかったのか。彼が將軍に上呈した『戊戌封事』をもとに検証した論文の概要を記し、その後の感想も付け加えた。

### ・論文の概要

本論文の課題は、徳川斉昭の国家構想とその特色を論ずることにある。斉昭の国家構想については、彼の主張が込められている「戊戌封事」を取

り上げて考察し、その特色については彼の思想の根底に流れる「尊王攘夷」に着目して論じた。また、彼の「尊王攘夷」の思想を育てた水戸学についても触れ、齊昭自身の人物像や彼が行った藩政改革（天保の改革）とともに、彼の国家構想の一端を担う事柄も付け加えた。

齊昭が生きた寛政 12 年（1800）から万延元年（1860）までの 60 年間は、時代の大きな転換期であった。いわゆる内憂外患と呼ばれる時代である。貨幣経済の発展は封建制の根幹を揺るがし、天明・天保の大飢饉がさらに追い打ちをかけた。凶作による米価の高騰は食糧難を引きおこし、人々の不満は各地で百姓一揆や商家の打ちこわしとなって現れた。そして、江戸時代後期におけるもう一つの問題が、西洋列強の日本への出没であった。彼らは、交易を目的として日本近海に近づき、各地で争いを起こしていた。

社会秩序の乱れや西洋列強からの脅威に対し、天保 10 年（1839）6 月 20 日、齊昭は「戊戌封事」に「副書」を付けて、徳川家慶に上呈した。「戊戌封事」は、「内憂」と「外患」という二つの事柄をそれぞれ 7 項目に分けて、一つ一つ問題を提起したものである。これを読み解けば、彼の国家構想が浮かび上がってくる。

齊昭には、天皇を頂点とした国家体制を構築して新たな社会秩序を目指すという明確な国家構想があった。天皇は祭祀を通して日本国民を守り、幕府はその頂点に立つ天皇を崇敬した仁政を行ない、その仁政が安泰な世の中を築くというものである。西洋諸国がキリスト教を信仰するように、日本は古代から神道儒道を信仰した神国である。その日本人の精神性を呼び起こし、国家を統合して対外危機に立ち向かうことを、幕府・藩の存在を認めた上で齊昭は主張した。

齊昭は、東南アジアの国々が、スペインやポルトガル、そしてイギリス

やオランダ、ロシアによって植民地化されている現状を熟知していた。交易は彼らの植民地政策の一環であり、オランダを含め西洋諸国を信用してはいけないと彼は主張した。「尊王攘夷」のスローガンの下に編み出された国家構想は、独立国家としての日本がどのように国を護っていくのかを提示したものである。齊昭は、国家イデオロギーを日本の歩みとともに考えた藩主であったと言える。

#### ・おわりに

論文指導のうち本指導の2回目は特に重要と考える。なぜなら1年後の卒業が認められるか否か、この指導にかかっているからだ。そして1年後の卒業が認められても最終指導までの時間はあつという間に訪れる。9月卒業を目指していた私は6月中に卒論を提出しなくてはならない。古文書（『戊戌封事』）の内容を読み解くことがこの論文の重要課題なので、これを一つずつ丁寧に訳していたら随分と時間を要してしまった。その他、分厚い史料に悪戦苦闘をしてほとんどの日々を論文に費やした。提出した直後の思いは、「やったー」という解放感より、もっといいものが書けたのではないだろうかというものだった。しかし、ここで確実に言えることは一つの山を無事乗り越え、自分の中に自信が持てたということである。論文を書き上げるのに近道はない。一つ一つの積み重ねの先に卒業が見えてくる。

皆さまの目標が無事達成され、卒業の日を迎えることを願っております。

# 石川家の近代における農業経営について

文学部第2類卒 根岸 優子

指導教員 文学部 井奥 成彦 教授

## 卒論テーマ決定の経緯

横浜開港とともに重要な輸出品となった生糸に興味を持ち、日本各地に存在する生糸と織物の産地の一つである八王子の資料館を訪れた。そこで、『石川日記』を見つけ、天保5（1834）年から現代まで石川家の当主が代々書き継いでいること、また、年間の農産物の生産量が記載されていること、当時の出来事がほぼ毎日記録されているところに意義を見出し、卒論テーマの文献としました。

## 卒業論文の目的

先行研究によると、近世では、徳川家千人同心として仕え俸禄を受ける武士である傍ら、自作農として農業を営み、大麦を中心に穀物の収量を増加させ、煙草、刈大豆、茶を商品作物として栽培したが、幕末には養蚕を主な収入源とするようになった。近代になり、千人同心の解体に伴い扶持米を失い、帰農した石川家の農業経営は、どのように変化したのか研究しました。

## 卒業論文の概要

明治2年から45年までの主要作物（大麦、糀、小麦、粟、大豆等）と、明治政府が生産を奨励した茶、繭それから觀賞用の百合根の年間生産量を

グラフにした。次に日記に代金や相場が記載されている場合はそれにより、ない場合は、神奈川県統計書と東京府統計書を用いて生産額を算出し、生産額の推移を視覚化した。さらに、支出について、特に大きな桑の葉の年ごとの販売額と購入額を明らかにし、また、質の良い生糸を得るために決め手となる蚕種の仕入れ先の変化について検討した。最後に日記に記されている活動を田畠仕事、養蚕、内仕事、山仕事、その他に分けて、その活動の移り変わりに焦点を当てて、石川家の生活全般について理解を深めた。

結果は、主要穀物の生産量の合計が、明治4年に最高となり、穀物の中で最も生産量が多かった大麦も明治5年が最高の生産量であり、地租改正以後再び回復しなかった。茶は、漸時、増加しており、主な収入源である繭については、養蚕回数を増加させ、村の有志共同で養蚕教師を雇い、知識や技術を学び、自前の桑畠を拡大し、蚕種の入手先も吟味するようになったため繭の質、量ともに高くなり、明治40年には96貫と最大の収量をあげた。

生産額は、繭については生産量の増加と相場の安定により明治40年には458円と明治10年代の繭の暴落以来、最も高くなっている。また、明治39年には百合根の栽培と販売が始まり、明治43年以降には相場の高い米の生産量が倍増したため、石川家の生産額は松方デフレ期を除いて右肩上がりに上昇した。明治30年代には日記の作者、源助が、国會議員の投票を行った記述があることからも所得税納入の有資格者であり富裕であったと考えられる。

当時は、明治政府主導の勧業政策の後押しがあったが、日記の内容からは、地方の農民が中心となり熱意を持って養蚕技術の指導を行う結社があり、石川家が、新しい知識を吸収し、創意工夫して自主的な努力を重ね、

また、同じ八王子同心であった大貫氏をはじめとする近世から繋がる村の人々との協力関係があったため、農業経営が養蚕、製糸を中心に発展したことが明らかになった。

#### 卒業論文指導について

卒業論文指導は、2018年秋から2022年秋までの合計8回でした。初回と2回目が対面でゼミ形式、3回目と4回目がメールのやり取りで、提出した卒論レポートに対してコメントを頂きました。5回目から8回目までがzoomによるゼミでした。ゼミは、お互いの発表を聞いて、質疑応答をするのですが、次なる課題の発見につながることもあり、楽しくそして大変有意義な時間でした。教授には構成についてのアドバイスや論文執筆に必要な参考文献を紹介頂き、無事卒論が完成できたと感謝しております。

## 江戸時代の寺院と舞踊のつながり －道成寺にまつわる舞踊を中心に－

文学部第2類卒 盛田清子  
指導教員 文学部 上野大輔准教授

本卒業論文では、道成寺にまつわる舞踊を主な対象として、江戸時代の寺院と舞踊のつながりを検討した。

第1章では江戸時代の寺院と舞踊と題し、舞踊の誕生から江戸時代の寺院の役割及舞踊と寺院のつながりを検討し、第2章では舞踊の代表作ともいえる京鹿子娘道成寺を中心にその発祥ともいえる紀州の寺道成寺の歴史を検討、第3章では寺院道成寺にまつわる舞踊の種類と三味線音楽や歌舞伎舞踊を述べ、最終章では道成寺が舞踊に与えた影響を検討した。

以下、卒論の内容を要約する。

出雲阿国が創始者とされる「カブキ踊り」は、茶屋遊びに通う伊達男の「茶屋遊びの踊り」であり、京都や江戸で人気を博していった。

江戸幕府は、これら風紀を乱すものとして、厳しく取り締まり、禁令を出した。

「カブキ踊り」は江戸幕府の禁令が出たびに、「若衆歌舞伎」「野郎歌舞伎」と形を変えながら現在の「歌舞伎」「日本舞踊」となっていく。

一方、江戸時代の寺院は、檀家制度によって寺の経営を支えられており、次第に信仰・修行より寺門経営に勤しむようになっていき、社会的機能を

果たすようになった。特に縁日、御開帳をはじめとする独自の行事・祭りを行い、参詣のために歌舞伎の芝居小屋が建ち、それが信仰と相まって江戸庶民の生活の中に取り入れられていった。

紀州の山深い道成寺は、大宝年間（701年）に建立されたらしい。当時は大伽藍を持つ大きな寺であったが、その後衰退・再建を繰り返し、江戸時代には僅か5石しか給されていなかったこの寺を救ったのが、道成寺縁起絵巻であった。

長久元年（1040年）に完成された『大日本法華験記』巻下129番目に掲載されている説話から、「道成寺縁起絵巻」が作られ、「絵とき説法」として道成寺や熊野詣に参詣する人々に「絵ものがたり」として広く伝わっていき、やがてそれが歌舞伎舞踊として江戸庶民に知られるようになった。

この道成寺縁起絵巻を題材とした能・舞踊には「鐘巻」「紀州道成寺」や道成寺物と呼ばれる所作事の演目が数多くある。18世紀頃からは三味線音楽の普及もめざましく、歌舞伎舞踊の伴奏楽器ともなった。舞踊「京鹿子娘道成寺」は三味線音楽と相まって、当時の江戸庶民の間で爆発的な人気を博した。

「道成寺縁起絵巻」の説話は、熊野詣等の参詣人に絵とき説法を行ったことにより、衰退を辿っていた寺の存亡を救った。と同時に、歌舞伎界・舞踊界で現在にも残る「道成寺物」を生み出した。

しかしながら、寺院と舞踊のつながりについていえば、江戸庶民の篤い信仰心と寺の経営存続の一環として、開帳時に芝居小屋が建てられ、そこで歌舞伎が演じられたという間接的なつながりであった。そしてさらに各演出家・脚本家によって寺を題材とする演目が作られたと考えられるのである。

\*卒業学位記授与式を終えて。

私が慶應義塾大学通信教育部に入学したのは、2008年4月、ちょうど還暦を迎えた年でした。不純な動機で入学したもの最初の3年間は何もできない状態でしたが、横浜慶友会の定例会に顔を出すたびに、頑張ろう！という意欲をいただきました。

あれから14年半。12年が在籍期間満了なのを3年延長許可をいただき、今までうだうだしながら勉強していたのを台風とコロナに助けられながら何とか卒業にこぎつけたという感じでした。

卒業式当日、学位記を胸に抱いたときは言いようのない気持でいっぱいになり、長くかかったけれど諦めずに良かったと思いました。

もう年齢的に黄昏ですが、良い冥土の土産になったと思っています。

社会では元気でも年齢で区別されますが、人間は好奇心を持って、やってみようという気力さえあれば頑張れる事をこの卒業を通して改めて実感しました。

慶友会に入会して、励ましと意欲を戴いたこと改めて御礼申し上げます。

## 百姓一揆後の村落と「義民」の成立

### —郡上宝暦騒動の事例より—

文学部第2類卒 山内 学

指導教員 文学部 上野 大輔 准教授

#### <テーマ設定の理由>

岐阜県郡上市では毎年夏に「郡上おどり」と「白鳥おどり」が開催され、全国のみならず海外からも盆踊りの愛好者がやってくる。私は平成八年に名古屋へ転勤し、その時にはじめて郡上八幡を訪れて以来、毎年のようにこの踊りの輪に加わるようになった。

踊り唄の中に「郡上宝暦騒動」という百姓一揆について触れているものがある。この一揆は最終的には公儀の手により詮議され、郡上藩主の金森頼錦は改易、幕閣の中からも罷免や小普請入の処分を下されたものが出た。そして百姓側には4名の獄門の他、大勢の者が死罪と追放の処分が下された。

私は何度か郡上を訪れるうちに、金森家の後に入った青山家の藩政と、この事件を通じて「罪人」となり「怨霊」として恐れられた犠牲者たちが「何時どのような経緯」で「義民」として「顕彰」されたのか、という疑問が出てきた。そこで慶應通信の卒業論文のテーマとしてこれを取り上げたのである。

#### <本文の内容（指導時に提出した800字程度の要約）>

宝暦4年（1754）、財政難に陥った美濃郡上藩は、定免法であった年貢

徴収法を検見法へ変更しようとしたが、郡上の百姓たちはこの撤回を求めて強訴した。これが郡上宝暦騒動（郡上宝暦一揆）の始まりである。

この騒動は終息までに4年間かかり、幕府の評定所は、騒動に加担した多くの百姓を処刑、追放しただけでなく、郡上藩主金森頼錦を改易、幕府の要職者の一部も改易、小普請入などの処分を下した。この騒動は田沼意次が幕閣として台頭するなど、大きな変化をもたらした。

本卒業論文では、以上の騒動を踏まえたうえで、この犠牲者たちがいつ「義民」と呼ばれ、顕彰されるようになったのかを検討した。

郡上の村々では毎年、騒動の犠牲者供養を「虫供養」という形で実施していた。百姓たちは、犠牲者の靈が害虫を招き作物へ被害を与えるという「迷信」を信じ、犠牲者を御靈や怨靈と恐れていたと思われる。

そのような犠牲者を最初に「義民」として顕彰したのは、明治44年(1911)『濃北宝暦義民録叙』を自費出版した旧北濃村村長の三島榮太郎である。これ以降、郡上各地で義民顕彰碑が徐々に建立されはじめた。

昭和40年(1965)こばやしひろし作の戯曲『郡上の立百姓』が完成、中国公演は絶賛され、国内巡演も好評であった。郡上宝暦騒動はこの時に日本中に知られることになった。

騒動の戯曲化に続き、今度は騒動の映画化が企画された。制作費が思うように集まらず何度も制作中止となることが懸念されたが、平成12年(2000)ようやく映画『郡上一揆』が完成した。

この制作の原動力になったのは、市民・地元企業の協力であった。市民ボランティアは、3500人のエキストラ・食事の炊出し・掃除・小道具の作成などの裏方作業を献身的に行なった。

ボランティアとして映画制作に参加した人々は、自分たちが出来る事を

提供して映画制作に参加し、そして映像という形で「郷土の誇り」を子孫に伝えたかったと語った。

義民伝承は時代により方法と形を変えながら、これからも子々孫々へと伝え続していくことだろう。

#### <本文の章立て>

##### 序章 郡上宝暦騒動とその影響

##### 第一章 郡上宝暦騒動の経緯とその背景

###### 第一節 騒動の経緯

###### 第二節 騒動の背景

###### ①金森藩の財政悪化

###### (一) 第六代当主金森頼旨の時代

###### (二) 第七代当主金森頼錦の時代

###### 第三節 惣百姓の分裂（立者と寝者）

###### ①立者の論理と行動

###### ②寝者の論理と行動

##### 第二章 青山家の郡上入り

###### 第一節 騒動直後の郡上惣村の状況

###### ①浪人となった金森家家臣

###### ②那比村藤吉の墓石破壊事件

###### ③大間見村三郎左衛門の隠遁

###### 第二節 青山藩の運営方針

###### ①切添田畠の調査と免定の改定

###### ②法令の整備

- ③撫民と強硬策

### 第三節 村落の荒廃と「お救い」

- ①天明の飢饉
- ②町方への無心をしようとした百姓たち
- ③農村の荒廃と「ぬけ参り」

### 第四節 郡上青山藩の経済的弱体化と豪農・商人層への依存

- ①負債に悩む青山藩と御用金騒動
- ②武士身分を買う商人・豪農たち
- ③藩専売制の失敗と万延の下川騒動

## 第三章 「怨霊」から「義民」となる一揆の犠牲者

- 第一節 宝暦騒動の犠牲者に対する追善供養
- 第二節 村役人層が躊躇した「犠牲者」の顕彰
- 第三節 宝暦騒動犠牲者へのはじめての「義民顕彰」
- 第四節 現代における「義民の顕彰」
  - ①義民顕彰碑
  - ②戯曲『郡上の立百姓』
  - ③映画『郡上一揆』

## 終章 総括と展望

- 第一節 郡上宝暦騒動
  - ①金森藩の財政困窮
  - ②立者と寝者
- 第二節 郡上青山藩
  - ①配慮と厳正の領民支配
  - ②お救いとその限界

### 第三節 義民顕彰

#### 参考文献

#### あとがき

#### <さいごに>

そもそも私が生まれ育ったのは、東京湾の埋立地「豊洲」であり、親族の中にも郡上市に縁を持つ者はいない。そんな私がこの地に魅せられたのは、「埋立地」という人工的に作られた場所で育ったがゆえ、自然に恵まれ長い歴史と文化がある土地に対して憧れを抱いていたからである。郡上市はその憧憬が現実となったような場所だった。そこで「よそ者」である私の視座で、郡上で起きた「宝暦騒動」を論じてみようと考えた。

今回の論文作成で一番苦労したのは「現地調査」であった。コロナ禍による外出自粛により思うように現地調査が出来ず、完成が予定より1年遅れてしまった。しかし史学論文を書くためには「現地調査」というプロセスは「絶対」に疎かにしてはならない。本論を書くためには、文献を読むだけでは現地のことを理解することは不可能である。現地に赴き、東京では入手できない資料の探索、事件の舞台となった現場に行き地誌・風土の調査、地元の郷土史家の先生へ取材を行い、これらを総合的に検討することで、はじめて論文が書けると断言したい。史学とはまさに「フィールドワーク」でもあるのだ。

## アメリカン・ルネサンスの肖像

文学部第3類卒 羽入田 和夫

指導教員 文学部 佐藤 光重 教授

文学史を振り返る時「ルネサンス」という言葉を度々見ることがあります。この言葉は、ある時期の文学活動の隆盛を意味し、文学は、人生に必要なもの、人間を人たらしめるものとなって、人間の精神のなにかしら重大なものに関わっていた。ノーベル賞が、人類に対する最も偉大な貢献として文学を讃えるのは、まさにそのためではないかと考えます。

文学部に入った限りは、「文学とは何か」と聞かれた時に、せめて一つぐらいは答えを準備しておきたい。そう考えた私は、かねてから興味のあつたアメリカ文学に焦点をあて、英文学の一分野として附属的存在でしかなかったアメリカ文学研究を、ひとつの独立した学問領域に昇格させたという功績で、アメリカ文学・文化論のキャノンという扱いを受けている、フランシス・オットー・マーセン (Francis Otto Matthiessen, 1902-1950) の『アメリカン・ルネサンス』(1941) を主要研究対象とし、マーセンがあげる 19 世紀半ばに登場した人物達が、アメリカの文学だけでなく、当時の多くの人々にもたらした影響について考察し、中でも、思想家かつ詩人でもあったラルフ・ウォルドー・エマソン (Ralph Waldo Emerson, 1803 – 1882) について多くの紙幅を割きました。

マーセンはエマソンについて、「彼は乳牛であり残りは彼からミルクを得た」("he was the cow from which the rest drew their milk.") といって、その功績をとても大きく取り上げています。エマソンの代表作『自己信頼』

を読むと、彼が当時のアメリカ社会に対して抱えていたジレンマや、母国（イギリス）に対するコンプレックスを抱えていたことが伺えます。アメリカ建国当初に掲げられた夢や理念、いわゆる「丘の上の町」('a City on a Hill') が敬虔な思い出と化した当時、時代は母国からの真の独立を実現する、独自の文化を芽吹かせようとする行動を求めていたようです。彼は得意の雄弁術を駆使し、ライシーアム（社会教育運動）に集まつた多くの聴衆に向かって、社会が個人に対してもっとも要求する付和雷同を避け、自己信頼にしたがって行動する、いわゆる民主主義精神の自覚を呼びかけました。しかし、彼の呼びかけは単なるエゴイズムの強化ととられることもあり、決して一筋縄ではなかったようです。さらに、ある時期の講演活動は、経済的困窮から逃れるために行なわれていたというエピソードを知り、彼がアメリカの日常生活の中で、少なからぬ試行錯誤を重ねながら、愚直にチャレンジングな行動を続けていたことを知った時、170年ほど前のアメリカ社会がとても身近な社会のように感じ、彼の言葉が私の身の周りの出来事にも通じるように思えたのは、非常に新鮮かつ有意義な出来事でした。

マーシエンは、「文学は時代を反映する一方で、時代を照射する役割もある」と言います。エマソンと残りの人物達の作品は、まさしく時代を照射し、人生に必要なもの、人間を人たらしめるものとなって、人間の精神のなかにかしら重大なものに関わったと思います。彼らの作品を理解するために、十分とは言えませんが、これまで以上に多くの文献を読了しました。卒論指導受け始め当初は、何から読めば良いか分からず途方にくれることもありましたが、図書館や Google scholar、手に入りにくい英文資料は Kindle、それらを活用し知見を重ねました。孫引きや剽窃がないよう注意を払いながら、見えては消え、消えては見えする筋書きを手繰り続けて、

漸く結びを書き終えた時の達成感は、語り尽くせない喜びでした。実は冒頭の「文学は」に続く一節は、慶應義塾大学名誉教授高山鉄男の言葉です。

横浜慶友会に入って間もない頃、通信での学習法についてどなたかに言われた一言を頼りに、思えば多くの時間（一年休学含む）を費やしていましたが、「埠頭」に寄稿する自らを振り返り、高山先生の言葉をわずかでも実感できたこと、そして続けることの意義を再確認できたことで、全てが報われたような気が致します。レポートや科目試験につまづいたり、言葉が見つからず途方にくれた時は、「諦めずに続けること」、是非実践なさってみてください。

# 日本の生産部門のエネルギー転換

経済学部卒 佐藤 勝明

指導教員 経済学部 大沼 あゆみ 教授

私の卒業論文は日本のエネルギー転換について、産業部門を切り口として論じた。今迄エネルギー転換を題材とした論文は、発電部門について考察されてきたが、私は産業部門に温泉発電を導入する事を研究課題として検討を重ねてきた。

皆様はご自分が研究課題とする分野において、どのようなテーマが先行研究として論じられてきたのかを事前に調査し課題設定をして下さい。

## 【論文概要】

全国には使われていない温泉蒸気や熱水が大型火力発電所 8 基相当分あり、この温泉資源を有効活用してエネルギー転換の救世主にすることが必要である。日本が地熱資源大国であるにも関わらず、地熱発電開発が進まないのは発電所候補地点が国立公園・国定公園内にあり開発困難であることや、地元地域との調整に莫大な時間や労力が掛かることに加えて、地下資源の開発リスクが大きいことが挙げられる。地熱井の掘削には深さによるが 1 本数千万円から 1 億円程度と見積もられ、開発が失敗した時のことやスケール（ゆのはな）による浚渫費用などのリスクを考えると経済的な発電所を建設・運営することが難しかった。キロワット当たりの発電単価は再生可能エネルギーの中で一番高い。

一方で地球温暖化は過去にない速さで進行しており、2022年の夏の気象も私の記憶の範囲ではあるが過去と違った天候が続いた。関東地方では梅雨時期が極端に短かった事、猛暑の日が続いたり局地的豪雨が多く洪水被害が増えたりしている事、海の向こうパキスタンでは国土の1/3が浸水する大雨が続いた事等々、世界的に気候変動が悪い方向に変動してきている。今回の地球温暖化も海洋研究開発機構の調査によると過去の温暖化とは違ったスピードで温かくなっているという調査結果を出している。今回の地球温暖化は温室効果ガスの濃度が過去とは違ったものであると南極やグリーンランドの古い氷に閉じ込められた空気を分解して明らかになった。

温室効果ガス排出削減に対しては、先進国を中心として各国が再生可能エネルギーの採用を増やす努力を鋭意推進している。また、今後金融機関は二酸化炭素を排出する火力発電に対して投資や融資を行わないことを表明している。日本も2050年に温室効果ガス排出ゼロを目指し、国としての号令が発せられ、段階的に火力発電の廃止から再生可能エネルギーの拡大へ移行するものだと期待する。数年前からは市民が立ち上がり太陽光発電や風力発電を市民自ら投資する市民発電所が少しづつ拡大している。東日本大震災後、再生可能エネルギーで発電した電力エネルギーを国が定めた値段で電力会社が固定金額買取制度（FIT）のもとで、再生可能エネルギーの導入が拡大し始めた。その結果、太陽光発電は導入が飛躍的に拡大し、風力発電も発電事業者の頑張りもあって徐々に導入拡大を続けている。それまであまり導入事例が多くなかった農業用水路を活用した小水力発電にも注目が集まり、再生可能エネルギー全体として徐々にではあるが導入が拡大している。しかしながら、2050年までに温室効果ガス排出をゼロにするには課題はまだまだ多い。

温泉発電は温泉井戸の所有者に発電所建設のノウハウが無く、また、井戸を所有しているオーナーは地元ステークホルダーとの調整に手間暇掛かるため、今迄温泉発電が拡大してこなかった。全国で垂れ流しになっている温泉の蒸気や熱水の発電ポテンシャルは発電設備容量で合計 8,330MW と大型火力発電所 8 基分に相当する。仮にこのポテンシャルを全て発電に活用出来たなら日本の産業部門に必要な電力の約 22 % をカバー出来る。

温泉発電は天候や時間帯に左右されず連続運転が可能である。また産業部門のものづくりに必要電力は常に安定して供給が可能な電力エネルギーが必要である。温泉発電は一つひとつの発電容量こそ小規模だが、中小企業の比較的小規模な生産設備向けの電源にぴったり合っており、生産部門のエネルギー転換に必要な電源である。そのためにも、温泉のある地元生産部門に立ち上がって頂きたい。そして、頼りになる商社などの仲介を見つけ、一緒になって地元のステークホルダーと連携を取り、温泉発電の計画を推進して頂きたい。資金調達方法は自己資金や銀行融資だけではなく、今ではクラウドファンディングがあり、資金調達にも選択肢が増え、再生可能エネルギーにとっては追い風である。

温泉は地元地域の大切な財産であり、そこから生まれるエネルギーを活かして地元生産部門のものづくり拠点が新たな利益を作り出し、その利益をまた地元に還元する。温泉発電のことを考えると、そのような小規模エリアで上手く循環する経済を創出することが、これからの中世の中に必要なのだと感じさせられる。

もし、今迄垂れ流しになっている温泉の蒸気や熱水を、地元中小企業の生産設備向けの電力エネルギーに転換出来たのなら、何と素晴らしいことでしょう。

## 持続発展する地域プランディングの研究

経済学部卒 高橋 渡

指導教員 経済学部 里村 卓也 教授

### 論文要約

本論文の目的は、地域が持続発展するために必要な地域プランディングの構築である。筆者は長年稻城市に在住し、この地で46年商売を営んできた。商工会などの様々な組織やワーキンググループに所属し、街の発展と共に地域のいろいろな行事に関わりながら筆者自身も育てられた。これまでの取り組みから、この稻城市に足りないものは何だろうと思いを巡らせ実現したのが、地域認証ブランド創出事業から生まれた「稻城の太鼓判」である。これは筆者のこれまでの取り組みから仮説・分析を行った実践研究である。

この稻城の太鼓判の選考に毎年携わり、そのブランド認証事業についてより良くしたいと考えたのがこのテーマの始まりである。地域ブランド及び地域プランディングは地域経済を活発にし、町興しを担う重要な役割がある。しかし、その実際は審査基準を満たせば応募することができ、そしてその中から優れたものを選ぶという単なる産品の認証作業という実情も存在する。そこで、地域でより良い産品があれば地域が活性化するのではないかというのが筆者の考えであった。

このような考えから、まずは地域プランディングを行っているいくつかの自治体を調査した。地域プランディングで成功するためには何が必要で、それはどのような自治体なのか。また、そこからなにか示唆するものが得

られるのか検討している。

次に筆者は地域でより良い產品があれば地域が活性化するのではないかと考えた。地域ブランドといえば、それはブランド認証をイメージすることが多い。しかし、単なるブランド認証では他との差別化に乏しい。こうした課題を解決するために、パイン＆ギルモアの経済価値の進展と経験をあざやかにする4E領域を用いて分析・考察していく。

さらに、地域ブランディングに本当に必要なものは何か再考し、そこからプレイス・ブランディング・サイクルという考えを導く。この理論から稻城市に不足しているものが何か考察し、稻城市に於けるプレイス・ブランディング・サイクルを提示する。

## 期待インフレ率の決定要因 ～行動ファイナンス的アプローチ～

経済学部卒 樋口 浩子  
指導教員 大学院経営管理研究科 小幡 績准教授

### ＜テーマになったきっかけ＞

仕事を通じ、実質金利の計算に違和感を持った。実質金利は、名目金利からインフレ率を引いたものである。名目金利は、誰もが知ることのできる金利であるが、インフレ率に関しては考え方方が様々であり、そこから計算される実質金利も同様に様々になる。金融市場では、期待インフレ率(BEI)を将来のインフレを予想しているものとして実質金利の計算に使うが、この期待インフレ率(BEI)は、インフレを予想していないのではないかと思った。

### ＜卒論の概要＞

まず、この論文について、米国の金利や米国のインフレ率を対象としており、投資家については、日本の地域金融機関の投資行動から述べている。世間の期待インフレ率のコンセンサスのように議論されている BEI (Break-even Inflation Rate) は、インフレ連動国債と固定利付国債の金利差であるが、名目金利から BEI を引いたものが実質金利だとみなすことが一般化されている。名目金利は、誰もが知ることのできる一つの共通した金利が存在する。一方、実質金利について、皆が共通の認識のある、あの実質金利かのように語られているが、考え方によって異なる実質金利が多

数存在し、いわゆる、あの実質金利は存在しない。

BEI がインフレを予想していなければ、実質金利を金利差の BEI で計算するのは妥当ではなく、金融市場において、実質金利を示すものは存在しないことになる。

期待インフレ率の決定要因を検証する方法として、まず、幾つかある期待インフレ率の中から 2 つを比べた。ひとつは、民間のアンケート調査によるインフレ予想で、ミシガン大学インフレ予想である。もう一つは、マーケットから計算されるインフレ予想（BEI）である。この 2 つの期待インフレ率について、乖離、相関度、変動幅、実際の CPI と比較し、又、インフレ連動国債利回りを実質金利とみなして回帰分析を行った。

この 2 つは常にずれており、ミシガン大学インフレ予想の方が、期待インフレ率よりも高い位置にあり、2 割前後乖離している。次に、この 2 つのインフレ予想に影響を及ぼすであろうもの（CPI、PCE、WTI、SP500、FRB 総資産、供給制約、GDP 成長率）を取り上げて、決定係数を出してみた。どちらも長期のインフレ予想より、短期のインフレ予想の方が相関度は高く、インフレ予想は、足元の物価に影響を受けているようだ。そして、予想と実際の CPI を比較した。予想は、あくまで予想であり、当たっていなかった。変動幅については、実際の CPI より、予想されるインフレ率の変動幅は狭いということを確認した。また、変化率や LOG での回帰分析では、アンケート集計結果のミシガン大学インフレ予想、つまり、民間は、実質金利よりも、実際に取引されている名目金利を意識している。一方、市場は、投資家のセンチメントが影響し実質金利を意識している。

最後に、投資家（地域金融機関）の考え方や事情、投資行動から、期待インフレ率の決定要因を考察した。名目金利よりも CPI（消費者物価指数）

が高ければ、元本が CPI に連動して増減するインフレ連動債が投資に有効だと思われる。合理的な運用を考えると、インフレ連動国債を購入し、名目金利以上の元本の増加を期待する。インフレ連動国債が買われると債券価格は上昇し金利は下がる。固定利付国債の金利が変わらなければ、金利差である BEI は上昇する。しかし、投資家は、元本や利子が変動するインフレ連動国債を一方的に選択するのではなく、ある程度の金利が確保できる固定利付国債を好む。そうすると、固定利付国債が買われ債券価格は上がり金利は下落する。このような投資行動の結果、金利差である BEI は上がりにくく上昇を抑制される。BEI は、複雑な投資家の考え方や投資行動により、マーケットの都合で出てくる金利差に過ぎず、本当のインフレを予想していないということになる。

#### <卒論に向き合って思ったこと>

卒論は、レポートの延長だという考え方もあるようだが、私は全く別物だと感じた。単位取得の延長に卒業はない。卒業論文に関するオリエンテーション（経済学関係）で、卒論について幾つか説明があったが、その中でも、問題を自分で設定しそれに答える、自分で議論を展開する、学術論文の体裁をとるというのが、今までのレポートとは明らかに違うと思った。残す単位は卒論だけあっても、ハードルの高さに心が折れてしまうことがある。進捗していくなくても半年に一度の卒論指導は訪れてしまう。進捗しても、広がりすぎてまとまらなくなり、卒論作成はエンドレスではないかと不安に陥る。どこまでやれば完成するのか手探り状態で途方に暮れた。

卒論を仕上げるための対策のひとつとして、常にテーマについて考え、自問自答し、検証を繰り返すことだと思う。考えていた章立てについても、

提出期限の 1 ヶ月前で大きく変わることもある。卒論執筆に関しては、十分な準備が整っていれば、1 ヶ月で書けるだろう。とにかく、諦めずに探求心を持って、バットを振り続けることが大切だと思った。



三田・南校舎

## アダム・スミスの労働者教育論 —マンデヴィルとの対比を通じて—

経済学部卒 富士原一大  
指導教員 経済学部 壽里竜教授

本稿は、スミスとマンデヴィルの労働者教育論を中心に、両者の労働者観を比較することで、スミスの「自己改善」の意義とその効果、すなわち「思慮」の意義を明らかにすることにある。スミス以前の思想家における下層労働者観は、重商主義政策の影響から下層労働者は最低限の生活境遇であるべきであるというのが大勢の見方であった。それだけではなく当時の下層労働者たちは、ウィリアム・ホガースの版画にみられるように酒・博打におぼれる怠惰な者とみなされていた。だがスミスの場合、下層労働者を見捨てることなく、しっかりと配慮した自由主義思想を展開する。

本稿第1節では、スミスとマンデヴィルの思想的背景を述べる。彼に遡る直接的自由主義の先駆者バーナード・マンデヴィル（彼の場合、重商主義を色濃く内包した自由主義）は、「自愛心（利己心）」＝「悪徳」が社会を豊かにすることを主張した。それに対してスミスは『道徳感情論』において、「共感」、すなわち利己心を内包する利他的情念が社会の根源であると主張する（誤解されるのだが、『国富論』はこの概念を前提に展開される。決して利己心のみではない）。こうした違いが両者の労働者教育論の差としてあらわれてくる。

第2節では、これまでのスミスとマンデヴィルの労働者教育の先行研究と本稿との異同を明らかにし、第3節以降で詳しく考察する。先行研究か

ら導かれる本稿独自の視点として、①マンデヴィル『蜂の寓話』における「慈善と慈善学校についての試論」において、重商主義に影響されたマンデヴィルが下層労働者の陶冶と資産形成を否定していたこと（第3節）、②重商主義に対抗する形でスミスが提唱した「自然的自由の体制（自由主義）」より、彼の経済政策および『国富論』第五篇において示されるイギリス産業革命の負の側面（分業の弊害）に対して展開した労働者教育論を考察し、スミスが「思慮深い人」の育成を目指していたこと（第4節）、③これまで教育論との関係で考察されることの少なかった『修辞学・文学講義』において示される「平明・単純な文体」が、スミスが理想とする労働者教育において求められていること（第5節）、以上の三点である。特に本稿が強調したいのが、これまでの先行研究では明らかにされてこなかった『国富論』第五篇で展開される労働者教育論と『修辞学・文学講義』にてスミスが重要視した「平明・単純な文体」表現を結びつけて考察したことである。スミスによれば、古代ギリシャで使用される言語表現は政治家・哲学者や「卑賤な人々でさえ完全に理解されるだろうとおもわれるほどに…平明であった」という（これは今日の各国首脳が多種の有権者に対して平明な表現を使用して演説することと共通する）。スミスは、国民国家形成において当時整備されつつあった自国語である「英語」を、「平明・単純な文体」表現を用いて下層労働者への教育を行ったのだと主張すること、これが本稿最大の独自性である。教育を受けた下層労働者は、次第に自らよく考え自身に配慮するようになる（理解力が身につく）。当然ながら法を理解することにもつながる（自身の財産保持のみならず自然に社会秩序も安定する）。やがて彼らは全員ではないが、スミスが想定した「思慮深い人」として成長する。下層労働者は、自らの職業（当時はついた職業が天職と

なった）を通じて勤勉な職人となって傑作（マスターピース）を生み出す。

それだけでなく彼らは、徐々にではあるが蓄財を経て、場合によっては数代を経て社会的上昇を成し遂げていくものもあらわれる。

以上の考察から、教育を受けた下層労働者が「思慮深い人」となり、天職に邁進することで蓄財を果たし、正義＝法を認識するだけでなくすんで社会秩序を維持する。最終的にスミスは、下層労働者の社会的境遇が漸次的に改善される可能性をしっかりとと考えていたことを本稿は明らかにした。

# 民泊新法を憲法で診る ～180日規制は合憲か？～

法学部甲類卒 西井一博  
指導教員 法学部 小山剛教授

## 概要

1. 「なぜ180日に規制されているか」の法的根拠を調べはじめてわかったこと

民泊は民泊新法で営業日数が180日に規制されている。一方、簡易宿所は旅館業法で規制されホテルとか旅館などと同様に営業日数の制限はない。

まず、制定に至るまでの国会の法案審査過程の議事録などを調べたが、公的な文書は見当たらなかった。文献でも「なぜ180日規制なのか」見つけられなかった。

なので、仕方なく観光局に電話して「公的な文書はありますか」と尋ねたが「ない」と、さらに「なぜ180日に制限されたのか理由は何ですか？」と突っ込んだが「法律で定められているから」との回答しか得られなかった。

2. 「法的にきちんと考察してみなければならない」と考えた3つの理由

1) ビジネス書で「旅館業法上の許可を得て営業している旅館やホテルへの配慮から一定の規制として営業できる日数の上限が設けられており180日とされた。」<sup>1</sup>との記事を見つけた。率直に言って、「本

本当に配慮が法に織り込まれているのだろうか」と驚いた。

- 2) ホームページでタイトル「年間提供日数180日も法案で明文化」<sup>2</sup> のコラムに「本法案は利用される施設が住宅であることを前提として、宿泊業の実施を旅館業より軽微な規制の下で認めるものであるところ、毎日宿泊に供される施設は、もはや住宅とは言えない為、本法案の適用の前提を欠くことになる」という記事を見つけた。  
「民泊用に改造後は前の住宅ではなくなっているにも拘らず、改造前も後も同じ住宅として都合よく命名しておいて、同じ住宅だから毎日宿泊するのは住宅ではないとするのは理路整然としていないしロジックのすり替えというか、都合がよすぎるのでは」と感じた。
- 3) 「民泊は自己の生計を維持する為に必要な職業と言えるか」考察した。  
年間収入のデータは、文献<sup>3</sup>から引用した事例6ケースである。結果は、全事例とも、民泊だけで180日規制では、生計維持ができるような収入が得られていないことがわかった。

#### 出典

- 1 : 服部真和監修「住宅宿泊事業法と旅館業法のしくみと手続き」三修社 P20
- 2 : <https://www.travelvoice.jp/20170311-847712?page=print2022.07.07> 閲覧「民泊新法の中身を元担当官の弁護士がわかり易く解説」筆者：谷口弁護士
- 3 : みづほ総合研究所「増加するインバウンドと民泊市場の拡大 副題：不動産事業者による民泊活用事例」から引用

### 3. 結論

薬事法判決の判例法理に基づき、考察した結果は「民泊新法の180日規制は、同法の目的の為に必要かつ合理的な規制を定めたものということが出来ないから、憲法22条1項に違反し、違憲である」。

民泊業は、生産や売買などと同様に個人の自由な経済活動のひとつである。これら経済活動を保障するのが、「営業の自由」を含む「職業選択の自由」で、「経済的自由権」のひとつである。憲法 22 条がそれを保障している。

しかし、注意しなければならないことは、22 条は明文で「公共の福祉に反しない限り」という制約が課せられていることである。

「経済的自由権」である「営業の自由」については、その性質からして公的な規制の可能性が留保されていることは否めない。しかし、それが恣意的な形で行われたりすると困る。

また、薬事法判決は、経済的自由の領域で、とりわけ詳細に合憲性審査・違憲審査の基準を示している。なので、民泊の「180 日規制は合憲か」について、薬事法違憲判決で示された判例法理にならい、規制目的に着目して、それを実現する為には、「民泊の 180 日規制」という日数制限手段が合理的なものであるかどうかを、事実に照らして厳格に検証した。

薬事法判決は、「薬局等の設置場所の地域的制限の必要性と合理性を裏付ける理由はない」と判決している。

民泊の営業日数の 180 日規制の必要性と合理性を裏付ける理由として、本法案は「利用される施設が住宅であることを前提として、宿泊業の実施を旅館業よりも軽微な規制の下で認めるものであるところ、毎日宿泊に供される施設はもはや住宅とは言えない為、本法案の適用の前提を欠くことになる。そこで、本法案は届出住宅が住宅としての性質を有することを担保するためには、その営業機会が 1 年 365 日の約半分である 180 回以下である必要があると考え、年間提供日数の上限を 180 日とすることになりました。」という事由は、いずれもまだそれによっ

て必要性と合理性を肯定するに足りない。

薬事法判決を基に、民泊の180日規制が、この「国民の生命及び健康に対する危険を防止若しくは除去ないし緩和するために課せられる規制」かどうか、また「規制の措置は社会公共に対する障害の大きさに比例したもので、規制の目的を達成するために必要な最小限度に留まるかどうか」など、具体的な規制の目的、対象、方法などの性質と内容に照らして、職業の社会的相互関連性、立法裁量などについて考察し、違憲と判断した。

#### 4. 苦労した点やありがたかったこと

180日規制の公的な根拠文書として制定に至るまでの国会の法案審査過程の議事録などを調べたが見つからなかったこと。指導教授の適切なアドバイスと慶友会の学友に感謝。

#### 5. 後輩へのアドバイス

自分が得意な分野や仕事上の問題点などにテーマを絞ることが重要なと思います。

# 香港返還とアジアの通貨危機、そして現在

## —平穏な返還と返還後の変化—

法学部乙類卒 小林 賢一

指導教員 法学部 小嶋 華津子 教授

### 執筆の動機

中国返還前の香港は、英國総監のもとに資本主義を謳歌し世界の金融センターとして役割を果たす国際都市である。その景気は飛ぶ鳥を落とす程の超バブル景気であった。その香港が 1997 年 7 月 1 日の返還の翌日、7 月 2 日のタイに発したアジアの通貨危機により、最初は持ちこたえていた香港もバブルが弾けて真っ逆さまに落ちて行った。その状況は想像を絶するものがあった。底を脱出するのに 2 年、もとに戻るのに 7 年の年月を要した。私がその明と暗を見て来たのが執筆の動機である。

### 概要

1982 年 9 月、英國首相マーガレット・サッチャーが中国北京を訪問し、香港返還の英中交渉が開始された。この返還交渉で中国政府により、「一国二制度」構想と、「港人治港」の内容が提示された。

「一国二制度」とは、社会主義のまま資本主義経済の継続を認めるというものであり、「港人治港」とは、香港の統治を英国人（西洋人）官僚に握られてきたものを香港人（中国人）の手に取り戻すことである。

1984 年 12 月 19 日、英國首相マーガレット・サッチャーと中国首相趙紫陽との両国首相が署名した「英中共同声明（Joint Declaration）」が発表

され、英国は 1997 年 7 月 1 日に香港の主権を中華人民共和国に返還し、香港が中華人民共和国の特別行政区となることが公表された。

この時マガーレット・サッチャーはこの「一国二制度」を天才的と評したものであったが、1997 年 7 月 1 日の香港の返還を経て四半世紀が過ぎた。2014 年に雨傘運動、2019 年に当防犯条例に反対する返還後最大級の 100 万人クラスのデモが繰り返された。政府は「逃亡犯条例改正案」は撤回した。その警官隊との攻防シーンは壮絶なものである。中国政府は 2020 年 6 月 30 日、中国全国人民代表者大会常務委員会は香港に対し「国家安全維持法」を可決成立させ、翌日 7 月 1 日から施行した。これにより 1984 年の「英中共同宣言」の構想は崩れ「一国二制度」は形骸化されたものになった。

本論文はこの中国政府の誤算とはどのような経緯で生じたかを問うものである。

第一に 1989 年 6 月に起きた天安門事件である。香港人に中国に対する恐怖心を増長させ香港返還までに香港市民の 1/10 に該当する市民が海外へ移住している。この頃より民主派と呼ばれる勢力が結成され香港初の本格的政党と言われる香港民主同盟（United Democrats of Hong Kong）を結成した。同組織は、1994 年 4 月民主党に改組され、その後の香港の民主派の核心となっていった。

第二に 1997 年 7 月 2 日香港返還の翌日に発したアジアの通貨危機である。中国政府は香港に対し不干渉政策を取っていたが、香港政府、香港経済界の要請により香港に対し手を差し出したのが経済融合政策である。2001 年後半より実施された。これにより中港融合と呼ばれる協調体制となつて行った。例えば、2002 年に中国本土からの旅行者は年間 700 万人

であったものが 2018 年に約 5100 万人にも達して激増した結果となった。

“中国に貢献する香港”から“中国に依存する香港”へと変化して行った。中国は改革開放により 1992 年に市場経済を導入した。この時、香港は金の卵を産む鶏であったに違いない。改革開放の総士である鄧小平は、香港に 50 年間の資本主義を継続させることを考えていた。この 50 年とは中国が欧米諸国に追いつくのに必要な年数と計算したものであるが、中国は 2010 年に世界第 2 の経済大国となり、わずか 20 年足らずでこれを達成してしまった。

このように香港返還の裏側には中国の目覚ましい経済発展があったのである。

香港は長い間英國の植民地として存在して来た。英國統治下の香港は、低税率政策、英國法に基づいた司法制度、英國教育制度に基づいた人材の登用、英語の公用語としての普及が海外の金融機関にとってビジネスとしての拠点とする条件が整っていたのである。このように英國のもとで育った香港人の意識は歐米人と変わらぬものが根付いていたのである。この香港人意識が不条理なことを押し付けてくる中國中央政府の支配下にある香港政府に対し、市民を巻き込んだ 100 万人規模のデモに発展したのである。このように英國に育てられた香港人の「香港人アイデンティティ」が英國人の思考形態を持つことが理由であることを一つの結論とする。

## 論文構成

### 序章

第一章 香港返還と主権の移譲

第二章 アジアの通貨危機における香港政界、経済界の対応

第三章 経済危機後の香港の変化

第四章 結論





---

## V. 新入会員の声



三田・中庭

# 新たな出会いを求めて

文学部第3類 山根修一

## 1 賞味期限の内に

私は入会してすでに1年半以上が経っておりますが、編集スタッフの方から「まだ新入会員としては賞味期限の内ですよ」という暖かいお言葉をいただき、これも自分を振り返ってみる良い機会になるだろうと思い、原稿の執筆をさせていただきました。

## 2 内面の豊かさを求めてドイツ語でドイツ文化を

私は定年退職後、2021年の秋に文学部第3類に学士入学しました。技術系の仕事を40年以上にわたって勤め、退職は一つのことをやり遂げた達成感とやっと肩の荷を下ろすことが出来た解放感とで、晴々とした充実した気持ちでを迎えることが出来ました。そして、退職後の人生は、今まで仕事を通じて得た知識や経験の延長線上にではなく、今までに経験したことのない新たな世界を初心者感覚で探索してみようと思っていました。

時代はアメリカを中心とした英語文化が主流ですが、あえて時流に便乗せず、ベートーベン、ゲーテ、ヘーゲルなど芸術、文学、思想の分野で優れた人材を輩出したドイツの文化を、ドイツ語を勉強しながら学んで、自分の生活の内面性を豊かにし充実したものにしていこうと新たな目標を設定しました。

### 3 骨董的価値のある通信テキストと不真面目な通信生

当初は自宅近くの大学に通うことを考えていましたが、退職した年はコロナ感染拡大の影響で大学はロックダウンで立ち入り禁止、学生は自宅でテキストを読んでレポートを提出する状況で通信教育となんら変わりません。おまけに学士入学の募集もなくなってしまいました。

そんな折、慶應通信の存在を知り秋入学の消印有効締切日に出願、10月入学にこぎつけました。語学はレポート提出が免除されており1月最初の試験で4科目を済ませました。良かったのはここまでです。専門テキスト科目40単位のうち、ドイツ文学は2科目4単位しかありません。しかも配本は2年目からです。ドイツ文学と関係のない科目をほかに36単位も取らなくてはなりません。英文学は18科目40単位、国文学は15科目36単位あるのと比べて大違いです。そして極めつけはテキストの発行年の古さです。10-20年前のものはまだましな方です。30-40年前のものが多く、ものによっては50-60-70年前のものもあります。まさに骨董的価値のある貴重品と言えましょう。学問の進歩は日進月歩であるのに、通信教育用のテキストは1世代ないし2世代にわたり新版が出ることもなく、貴重な歴史的遺産としてなお現役として重用されています。

慶應ならいい教育が受けられるのではないかと漠然とした期待を抱いて入ってしまいましたが、すべては己のリサーチ不足。当初の目標に向けて、2022年4月からは、別なところで講座を受けるようにしました。なんとも不真面目な通信生でありましょうか。

### 4 転機は夏に訪れた ---- 先生との出会い、通信生との出会い ----

2022年夏のスクーリングは2年ぶりに対面で行われ、5科目受講し、

そのうち語学、総合、専門の3科目はドイツ文学専攻の先生が担当しました。どの先生も素晴らしい先生でした。講義そのものもさることながら、合間にお話ししていただいた雑談などが非常に有益でした。特に、大学院や留学時代の過ごし方、現在の研究テーマに取り組むようになった経緯など、非常に興味津々で楽しいお話を伺うことが出来ました。また、私のような初心者の質問にも懇切丁寧にお答えいただき、人間的な包容力の大きさを感じ、尊敬できる先生だと思いました。このような素晴らしい先生のもとで卒業論文の指導を受けてみたいと思いました。

夏のスクーリングは、よき通信生との出会いの場でもあり、自分の初心者感覚を再認識させられる良い機会となりました。語学のクラスで一緒になった50代の男性は若いころドイツに留学し博士号を取得していました。私が卒論で取り組もうとしているテーマについては修士課程のときに終えており、いろいろと助言をいただくことが出来ました。そして、実務で使っているドイツ語のレベルの高さは圧巻で、ただただ驚愕するのみでした。

また、総合科目文学のクラスで出会った普通課程の女性はシェイクスピア全集を全巻読んでおり、「ハムレット」は舞台で演じたということです。絶対的な読書量と文学的なバックグラウンドは足元にも及びません。そして、夏スクには毎朝4時半に起きて浜松から通っているということでした。何たる熱意、何たる気迫。

漫然と過ごしてきた私には、夏のスクーリングで出会った先生や通信生が大きな刺激となりました。通信生でも通学生と同じ先生に卒論指導を受けることができます。しかも、通学生に比べて授業料は十分の一です。このことを考え併せれば、謙虚な姿勢に立ち返り、文化遺産として貴重な価値を有する通信テキストを座右の友として玩味し、ノルマの単位数を着実

に取っていこうと心を入れ替えることにしました。

### 5 浜慶での新たな仲間との出会いに感謝

コロナの感染状況が落ち着きを見せた2023年4月の試験は対面で行われ、代替レポートとは異なった対応が求められました。同時に、慶友会の活動も5月からは対面での活動が可能となりました。

入学と同時に入会した浜慶の例会は、オンラインで参加していました。しかし、対面で行われた5月の日吉キャンパスでの例会、鎌倉五山巡りの散策そしてその後の懇親会は特に印象的でした。オンラインで助言をいただいている諸先輩の皆さんと、直接お会いしてお話することで親近感が一気に湧いてきました。試験や卒論の話だけではなく、これから人生をどう楽しんでいくかなどとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

入学の動機や目的は様々ですが、レポートの再提出や試験の失敗など同じような痛みを分かち合い、卒業という共通の目標に向かって、共に歩んでいく仲間がいるということは何とも心強く頼もし限ります。

浜慶での新たな仲間との出会いに感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

## 私と慶友会の出会い

経済学部 安倍 潤子

2022年10月に入学して早くも9か月が経ちました。

横浜慶友会に入会後、企画というお役目を頂いたおかげで、経済学部、文学部、法学部、OBの皆様との人間交際の和が広がっています。新米で何もできない私ですが、皆様が温かく迎え入れ、サポートして下さっていることに深く感謝申し上げます。

実は、出願前には、正直、卒業までの厳しい道のりについて深く考えていました。

ネット検索で通信学部の卒業生の割合は、3%と知りました。その時の驚きと後悔の気持ちは、今でも鮮明に覚えています。

入学式後の経済学部の説明会で、ある先生が「卒業できなくても落ち込まないでください。慶應で学んだことが人生に生かされるのです。」と話されました。(やっぱり、困難な道なんだ。逃げるもやりきるも自分次第……。)とその時、覚悟が決まりました。真実を知ることで、自分の目標達成には、自分を律し「あきらめない気持ち」を持ち続けることが卒業の最良の方策であると再確認しました。

会も終りの頃、ある新入生が、「慶友会に入ったほうがいいですか?」と事務局に質問されました。そこで初めて私は慶友会の存在を知ったのです。(何それ?三田会?慶應の応援団?)今思えば、天からの声ですね。

今なら即答できます。もちろんその答えは「絶対入るべき!」です。理由は、人とのつながりを作り、学習に対するモチベーションの向上になり、

お互いに助け合うことで卒業への近道になるからです。卒業したら、その恩返しをしていく。つまり、後輩の育成につなげる。これが、慶應大学の精神ですよね。

今、横浜慶友会では、会長や副会長、スタッフ、OBの方々に助けて頂き、失敗をしながらも何とかお役を務めている状況だといっても過言ではありません。今だからこそ、諸先輩方の陰の努力によって横浜慶友会が支えられ、持続可能な会として発展してきたことが良く分かります。SDGs を昔から実践してきた団体であり、世界につながる組織だと思っています。

至らないところもありますが、自分の仕事と慶友会での役割の両立を図りながら自分の目標達成や慶友会の発展に向けて邁進していきたいです。

慶應義塾大学を創設された福沢諭吉先生の教育理念をこれから的人生の指針とし、社会に貢献できる人となり、若い世代の人材育成にも携わっていければと考えています。

福沢山脈に名を連ねる先輩方の名に恥じないように、塾生として生涯、勉学と人間性の向上に努めて参ります。

これから横浜慶友会の益々の発展を心から願っております。

## 憧れの慶應義塾大学で法律を学び、社会貢献を目指す

法学部甲類 西井 朗娘ときこ

2023年4月29日の入学式はとても風の強い日で、三田キャンパスに到着すると、正門に掲げられた三色旗が青空に悠々とはためいていました。式に家族は参加できないことを事前に知っていたにもかかわらず、「娘の入学式なのだから。」と、実家の和歌山から上京してくれた母。母と一緒にその三色旗を見上げながら、私は胸にこみあげてくるものを感じていました。「この歳になって、入学式に来られるとは思っていなかった。人生は面白い。」と言って笑う母。そんな母の言葉を聞きながら、母の為に、もちろん自分の為にも、楽しく面白い人生を過ごすにはどうすればいいかと、私はぼんやり考えていました。

入学式から1か月程経過した5月の下旬にこの原稿を執筆しています。入学式の感動も冷めやらぬ中、『埠頭』への寄稿の機会を頂いたことをきっかけに、改めて慶應義塾大学通信教育課程法学部甲類（法律学科）への入学を希望した理由と、今後の展望について考えてみたいと思います。

私は会計事務所に勤務しており、税務会計の仕事を20年以上続けています。この仕事を通じ、確定申告等の申告に関する税務、契約に関する業務など、実務経験を積んできました。実務を続けていくうちに、法律に関する自分の知識不足を何度も痛感する場面に遭遇し、法律についての知識と理解をより専門的に習得する必要性を感じ、法学部甲類への入学を志望するに至りました。

法学部甲類を志望した具体的な理由の一つは、私の過去の学習経験にあります。これまでに税理士試験や宅地建物取引士試験など仕事に関する資格試験の勉強を経験してきました。これらの試験勉強においても、税法や民法といった法律に触れる機会がありました。しかし、これらの試験勉強では、法律の本質や背景について十分な理解を得ることは難しく、法学部甲類に進学することで、資格試験勉強だけでは得られない、より専門的な法律の知識を学ぶことができるものと期待しています。

また、将来の展望も私の入学志望の動機の一つです。会計事務所での実務を通じて税務相談に対応する中で、法的な視点が求められるケースが多くありました。税務の専門家として法律に深い理解を持つことで、クライアントの問題解決につとめ、また社会にも貢献したいと考えています。法学部甲類での学びを通じて、税務の専門家としての知識と法的な視点を融合させることで、クライアントのニーズにより適切に応えることができると確信しています。

以上が、私が慶應義塾大学通信課程法学部甲類への入学を希望した理由と今後の展望です。憧れの慶應義塾大学で法律学を学ぶことは、私にとって大きな転機であり、喜びです。仕事と学業とを両立させることは、時間的な制約がある中での課題ですが、税務の専門家としてのキャリアをより高めるために、法律についての専門的な学びを追求し、社会に貢献したいと考えています。

最後になりましたが、この度は『埠頭』への寄稿という貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

横浜慶友会への入会は、私の学びの場を広げ、新たな知識や経験を得る絶好の機会だと感じています。慶友会の一員として、他の会員の方々と共に学び合い、成長し合いたいと強く願っています。履修科目の選び方もわからない新人ですので、先輩方に教えて頂くことばかりだと思いますが、交流と協力を通じて、少しでも横浜慶友会の発展に寄与できれば幸いです。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



日吉・来往舎

## 慶應通信で果たしたいこと

法学部乙類 澤田 哲男

2023年5月に横浜慶友会へ入会しました。法学部乙類への入学自体は2021年10月に遡り、その動機は企業が海外向け事業を展開するうえで欠かせない法律と政治の基礎知識を同時に得ることができると考えたからです。かつて住んでいた豪州の大学では国際関係論を専攻し、卒業後に就職した航空会社では国際線乗客からの苦情窓口を担当していました。履修した国際法の知識は実務で大活躍しました。例えば、国際運送を規定した約款や多国間条約が絡む損害賠償請求事案では、顧問弁護士への相談時や乗客との交渉の際、論理的かつ説得力のある提案を行うのに役立ち、航空運送実務を理解するうえで大変有意義でした。

しかし、いま振り返ると法律や政治の基礎的な知識が決定的に不足していることに気づきます。当時、社会復帰までの目標年数とその間の授業料や生活費から逆算し、学生に専念できる上限を2年間と定め、少し無理をして修士課程に入学したためです。授業はエネルギー問題、中台関係、南極条約などといった具体的な個別テーマを議論しプレゼンをし、エッセイ作成をすることが学習課程の中心でした。その一方、政治理論や法体系など土台となるべき概念は遠い昔の総合教育科目で習ったまますっかり忘れてしまったか、もともと履修していない分野と思われ、一から学び直したいと考えました。

現在、カード会社の法人営業部門で社内コンプライアンスを担当し、営業活動に対する関係法令・内規運用の知識が求められています。とりわけ、

顧客企業が外国との取引を進めるうえで同部門が展開する様々な活動を支援し監視する機会が増えてきました。基礎学習の先には、法令秩序に基づく行動規範を多国間ビジネスの現場で効果的に応用できるようになるために、多国籍企業としての役割、対中国ビジネスの原則、その理解と取り組み方を深く研究したいと思います。一部、経済学部や文学部の領域とも重なるように思われ、慎重かつ効率的な科目選択と履修に向けて、横浜慶友会の皆様方との交流を図って行きたいと思います。

よそ行きの自己紹介はこれくらいにして、裏の動機も告白します。大学生活は今回で3度目ですが、それは学歴コンプレックスの裏返しそのものです。実は今回、上記の背景から「新入会員の声」ではなく、レポート・試験対策のコーナーへの投稿を懇意にされました。それは無理だと返答した理由は、そもそも過去、そうしたレポート類を一度も書いたことがありません。最初の大学では単位認定試験のみでした。ゼミのテーマはイギリス演劇の歴史でしたので、本来ならばシェイクスピアやショーサーらの研究にあてるべきところ、参考文献の一切無い完全自作の脚本創作を提案し承認されて、あろうことか良い評価をもらい、有頂天のまま最初の大学生活を締めくくることとなりました。振り返れば結局、何も身に付いていないのです。2度目の大学は英語とのバトルであつという間に時が過ぎ、物足りなさだけ残りました。納得の行く日本の大学生（活）をやり直したかったのでしょう。慶應通信に入り早、1年半が経過しました。代替レポートの措置期間に丸々重なり、試験対策はむしろ色々とお聞きしたい側でしたので、慶友会を訪ねることとなりました。

二度あることは三度あるそうですが、三度目の正直をめざし、納得の修学に向け楽しみながら取り組んで参ります。最後まで拙文を読んでくださいありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。



## VII. 入学後の勉強法

---



日吉・食堂棟前テラス

# 私のレポート課題への楽しみ方

文学部第1類 普通課程 高品 敏明

GPT AI で「大学生の勉強とは何か」とインプットすると、

積極的な参加と自己主張：授業やセミナー（＊慶友会や学会等）に参加し、質問やディスカッションに参加することで、より深い理解を得ることができます。自分の考えを明確にし、自己主張することも重要です。主題への関心と情熱として、自分が学んでいる分野に対して関心を持ち、情熱をもつことが大切です。興味を持って学ぶことは、学習の効果を高めるだけでなく継続的な学習と挑戦：大学は知識やスキルを習得する場ですが、自己成長を促す場でもあります。新しい分野への挑戦。自分の限界に挑戦することで、成長を遂げることができます。自分自身の目標や価値観に合った学習方法を見つけることが大切です

\*は筆者付記

概ね、これが AI の生成した大学生の勉強ということです。私にとって大学で学ぶ意義は、自分の考えの正否をアカデミックに検討する事と思っています。つまり持論を仮説前提にして自由に文献や先行研究を批判し議論することだと考えています。誰と議論するのか、そのための慶友会であり、自分の中にある知と資料との議論と言えるでしょう。高校までの学習では先生の教えていただくことが「解」であって、先生に対して反論し持論を主張することは困難だったと思います。その点、大学の自由度の高さはマニュアル的な学習から脱出し知識の幅を無限に広げられると言えます。前回の学生時代と会社では理系でしたので、先行研究の少ないニッチな分野

を宝探しするような生活でした。今回は自由度を活用して楽しくレポートを書くための方法を少しでも、お伝えできれば良いかと考えております（あくまでも我流ですので良否の判断はお任せします）。ただこの様な勉強の方法もあるのかと思っていただければ幸いです。

まずは、私のレポートに対して嬉しかったコメントをお伝えします。「凄く丁寧に書かれており、大変うれしく思いました。但しレポートには不備があり再度提出願います。」「大変興味深い仮説にしたがって論理展開しており、新しい研究のテーマに反映したいと思いました。」「日常生活からこのような発想が出たことに感心しました。是非今後も続けて探究してください。」「凄く精度の高い引用と論述でした。ただし質問の内容に対しては不備のためもう一度別の視点からもアプローチしてみてください。」「面白く読ませていただきました。多少質問とは相違点がありますが無論合格といたします。」最後に「合格レベルに達しておりますが、コメントした点を再度検討してもらえれば更に良くなると思いますのでもう一度提出してください」はっ！？などコメントも楽しみたいですね。他にも紙面には出せないユニークなコメントも有りました。

話を戻しますが、「説明」を求められるレポートであれば書いたレポートの、どこで読み終えたとしても、そこまでの文面から読み手は書き手が何を説明し伝えたいのか理解できることが重要だと考えています。客観的にその人に教えるまで理解して書く必要があり文献の理解できない点は書評や先行研究論文から教えてもらいます。そのための参考文献や資料ですが、テキスト科目履修要領で指定されているものを最低一冊は購入しています。ご存知のように既に入手不可や超高価な本もあるので、購入できた本でメインテーマを決めています。実は新品の指定参考文献が超高価だっ

たため先行研究資料のみでレポートを書きあげ提出。参考文献の記載なしを指摘された経験があります。検索し中古の一番安価なものを購入。購入した本が再度、別の科目で参考資料になる事が何度かありました。

「論ぜよ」の場合には先述したように自由度が高いことを利用し、ある程度自分の生活とリンクした題材を考えています。当然自分自身も参考資料になります（＊勿論参考資料には書けませんが）。よって正式な参考文献や先行研究に対する批判と検証によって持論の正当性の証明が必要になります。持論の正当化は凄く楽しい作業です。あらゆる手段で正当化していきます。（まるで子供の言い訳みたいな感じですね）

資料を読む際には必ず自分だったらどのように表現しただろうか。作者は何故この言葉を選んだのか、言っていることは真なのか疑いながら読むようにすると課題が現れ、有意な課題を指示してくれるでしょう。J-STAGE や CiNii research に登録して検索すると参考文献の書評や自分の批判に対する検証ができるので是非お薦めいたします。またレポートを書く際に適切な単語を選択したい時には AI で意味の違いを明確にしています。そして Word でレポートを書いたら必ずリボン表示から「校閲」を選んで PC に読んでもらっています。それでも一週間弱は寝かせて客観的におかしな点と思い付きを日々更新しています。

私の伝えたかったのは、自分なりに得た知識の成果を採点担当者に楽しんで読んでもらう。そして自分多くの研究論文から無茶ぶり持論の正当性を見つけ出すことを楽しんで学びレポートを提出しています。私のレポートの基本は相互的に楽しくと考えながら書いております。

最後に、本を読むのが苦手な人もいらっしゃると思います。私がそうです。参考文献を一冊すべて読み終えたことは一度も有りません。ノートも

書けませんが大丈夫です。必要なところを読み、書こうとする気持ちがあればレポートは書けます。とりあえず机の前に座ってしまえば何とかなります。さあ とりあえず書いて提出しましょう。100% 完璧な文章なんて誰も書けないんですから。



金沢まつり花火大会 4年ぶりの開催

## 「楽しみながら学ぶ」をモットーに

文学部第1類 特別課程 萩原 佳子

### はじめに

2017年の秋入学なので、そろそろ在籍満6年になりますが、ここへ来てようやく、卒業指導申込をしようかという段階まで辿り着きました。じっくり時間をかけて学んでいるといえば聞こえはよいのですが、学生気分を存分に味わいながら、興味のある、好きな科目を優先して学んでいたら、こんなに時間がかかってしまったというのが実情です。しかしながら、入学当初から最短で卒業しようなどという考えは毛頭なく、むしろ最長在籍期間の12年を満喫するぐらいの気持ちで入学したので、その半分の6年で卒論指導に到達したのは、私にしたら上出来と言ってもいいくらいです。というわけなので、最短で卒業を目指している方には、役に立つ内容ではないので、読み飛ばして下さい。

### 1. レポート科目・科目試験について

2019年末に新型コロナウィルスが発生し、感染拡大防止の観点から2020年4月からの約2年、科目試験は代替レポートに、スクーリングはリモートに…と、慶應通信にも大きな変化がありました。科目試験であれば持込不可で苦戦したであろう科目も、代替レポートに置き換わったことで、比較的ラクに単位が取得できたのも事実です。であるならば、科目試験が通常に戻った今、効率よく単位を取得しようと思うのであれば、何かしら対策が必要でしょう。

まずは、当然のことながら、関連科目を紐づけて学ぶことだと思います。年度によって課題が変わるので一概には言えませんが、例を挙げるならば、哲学－西洋哲学史Ⅰ・Ⅱ－倫理学、教育学－教育史－教育思想史、考古学－オリエント考古学－西洋史特殊Ⅰというように、あるテーマや思想家について学ぶと、別の科目にも繋ることがよくあるので、レポート課題集をめくって各科目の課題に目を通してみることをお勧めします。

また、最近は取り扱いが厳しくなっている過去問などを参考に、科目試験の傾向と対策を練ることも大切だと思います。横浜慶友会の先輩方は過去問をよく分析されていて、勉強会などで話される傾向と対策は、とても役に立ちました。本来ならば、それを次世代へと伝え継がなければならない立場になりつつあるのに、多くの科目を代替レポートで乗り切ってしまったために、傾向と対策、ノウハウを多く持ち合わせていないのが現状ですが、先輩方からのアドバイスを次へと繋げていくことは可能ではないかと思っています。

横浜慶友会に所属するメリットは、なんといっても勉強会やイベントに出席して、会員同士コミュニケーションが取れることだと思います。わからないことがあれば、直接質問できますし、何気ない会話から有益な情報が得られることもあります。ひとりで悶々と勉強するのではなく、わからないことや疑問に思ったことは気軽に聞いて、前向きな気持ちで楽しく学ぶことが、何より大切だと思います。

## 2. スクーリングについて

通信生にとって楽しみなのが、スクーリングではないでしょうか。通学課程と同じ教授陣の授業を受けられること、大学のキャンパスで学べるこ

と、多くの友人に出会えることなど、嬉しいこと尽くめです。授業の前後に先生と直接話が出来るのも、わからないことを質問できるのも、スクーリングならではでしょう。スクーリング期間中に卒論指導の先生を見ついたという話もよく耳にします。夏期スク、夜間スク、週末スクとありますが、時間の都合がつくのであれば、興味ある科目は臆することなく、どんどん受講すべきだと思います。私事ですが、昨夏のドイツ語授業は、生徒は私一人。マンツーマンでの授業という最高に贅沢な時間を過ごさせてもらいました。

E-スクーリングは、私自身はまだ受講したことがないのですが、好きな時間に、何度も視聴できるというメリットがあるので、苦手科目に向いているという話を聞きます。ということなので、私も来期は、卒論に必要になるであろう統計学をEスクで受講してみようと思っています。

### おわりに

勉強法としては、あまり参考になる内容ではなかったかもしれません、この『埠頭 65 号』を手にしているということは、横浜慶友会の会員であることに違いはないでしょう。浜慶の一員であること、それこそが単位取得への近道、卒業への近道なのではないかと思います。一人ではなく、同じ目標をもつ仲間がいるということ。励まし合う仲間がいるだけで、心の大きな支えになります。今まで在籍しているだけで、勉強会やイベントには参加していないという会員の方も多いと思いますが、せっかく籍があるのであれば、ぜひ勉強会やイベントに参加して、仲間を作って、楽しみながら、卒業を目指して共に学びましょう。

## 未知の学びの場へようこそ

経済学部 普通課程 鈴木 陽子

慶應の通信教育課程に入学された皆さんには、「おめでとうございます」という祝辞と、そして「未知の学びの場へようこそ」という言葉を贈りたいと思います。皆さんの姿が、入学した頃の自分の姿と重なるからです。はじめの数ヶ月、入学はしたものの何をどうやればいいのか、途方に暮れる日々でした。

そんな私の背中を押してくれたのが、同じ目標をもつ「仲間」でした。ひとつは夏期スクーリングのスポーツセミナーのテニスで知り合った「仲間」、もうひとつは横浜慶友会の「仲間」です。

経済学部の勉強会では当時、専門科目の内容がほとんどで、普通入学で三分野から始めなければならない私には意味がわからず、まるで外国語を聞いているかのようでした。それでも勉強会には欠かさず出席しました。そのうち、毎月発行される PEN のスタッフに加えさせて頂くことになりました。この頃からはなんとなくひとりじゃない、という心強い気持ちになつたことを覚えています。

課題についてもひとつひとつレポートにまとめ、郵送したレポートが返送されるのが楽しみになりました。不合格のときはもちろん落ち込みましたが、赤ペンの添削には何が不足しているのかが的確に記され、その短いコメントに先生の愛を感じることもありました。合格をもらったときはとても嬉しく、レポートをしばらくのあいだ何度も何度も読み返したものでした。

うまくいった事ばかりではありませんでした。経済学部の必修である経済史はほんとうに時間がかかった科目でした。その年の課題は指定の一般書のすべての章に触れ考察するといったものでしたが、参考文献が多く、かつそれらが高価で入手が難しいという現実に直面。全ての章に触れ、規定の字数にまとめることが難しいと判断し、レポートはある章に絞って書き提出しました。結果は不合格。字数はもっと多くても構わないとコメントをもらいましたが、結局書ける気がせず再提出の期限を迎えやり直し。科目試験は合格していましたが、レポートが期限切れで科目試験の合格もなしになり、本当に一からやり直しました。翌年のレポート課題はひとつの章を選んで書くように変わっていました。気合を入れ直し、レポートと科目試験に臨みました。代替レポートではありましたが、S評価をいただいたときはガッツポーズでした。

いろいろなことがありました。単位は確実に積み上がっていきました。そして積み上がったのは単位という数字だけではないことを実感しています。まだまだ知らないことは沢山ありますが、少なくとも「未知」ではなくなつたと思っています。

何をどうしたらしいのかわからない、という皆さん、同じ道を通ってきた仲間が横浜慶友会にはたくさんいることをお忘れなく。必ず、歩みをやめない才能をもった「仲間」が道を示してくれるはずです。

## 慶應通信 はじめの1年

経済学部 学士入学 渡邊 蘭

### 【自己紹介】

2022年4月、学士入学で経済学部に入学いたしました。

入学までの経歴ですが、短期大学卒業後は4年制大学の夜間部に編入学し、文学部で英語学を専攻しました。大学卒業後は外食産業、小売業に従事、店長職を経て営業企画を担当、社会人大学院に進学し、マーケティングを専攻しました。修了後は、飲食料品のメニュー開発や物販の商品企画、教育その他のサービス業に従事しておりました。

現在は、機器メーカーにて主に市場調査を担当しております。やりがいのある環境ではありますが、職務に必要な経験や知識が不足していたこともあり、ひとつの解決策として、「大学に通い、経済学を体系的に学ぶことも良いのではないか」と考えたことが通信教育課程の経済学部で学ぶことになるきっかけとなりました。

### 【履修・スクーリング】

履修に関しては、自身も日々試行錯誤を繰り返しつつ、学習に励んでおります。ご存じの通り、学士入学の場合は専門科目と卒業論文のほか、総合教育科目の英語と統計学の単位を取得する必要があります。

入学後は英語の単位取得を最優先し、英語I、II、III、VIIの4科目の試験代替レポートを提出、リーディングとライティングはスクーリングを受講し、単位を取得しました。

テキスト科目やE-スクーリング科目については、必修科目を1科目、興味のある専門科目を2科目、合計3科目を並行して進めています（例：経営学、地理学I、民法）。

通学スクーリングでは、自分が学びたい科目（興味のある科目、テキストで進めるには難易度が高い科目）を優先的に履修しています。自由科目として、総合科目や他学部の科目を履修することもあります。

### 【レポート】

自身の場合、四半期ごとに訪れる仕事の繁忙期がレポートの提出締め切り時期と重複し、多くの方がレポート作成を追い込む時期は、仕事中心の生活になります。そのため、自身のレポート作成サイクルは「試験の終了」と同時にレポートに本腰を入れる形です。

書籍や資料の収集に関して、テキストは履修前に購入します。参考文献は可能な限り、県立図書館や地域の図書館で借り、貸出延長期間を過ぎてもまだ必要であれば、長く役立つ書籍だということで購入します。慶應義塾大学の図書館所蔵の文献については、目次と巻末、必要な個所を図書館でコピーし利用します。作業場所は、自宅か図書館の学習スペースですが、仕上げの時期は印刷や手直しや提出などの追加作業が発生するため自宅で行います。

レポート作成で注意している点は2点あります。先ず、引用・脚注・参考文献の記載形式であり、レポート作成用の参考図書に目を通し、特に慎重に準備します。そして、（例えば簿記論のように問題に対する「答え」が明確なものを除き）自身で立てた「問い合わせ」と本文の論理展開を適合させる過程に手間をかけます。考えをまとめるにあたっては、書籍やインター

ネットでの資料収集に加え、その事象に精通している学内外の方々との意見交換、必要に応じてフィールドワークも実施し、情報を集めています。

一つひとつのレポートに時間をかけてでも、着実に「合格」をいただきたいと現時点では考えております。

### 【試験】

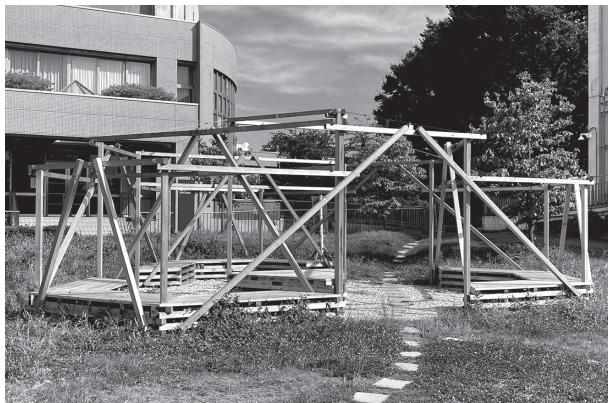
試験前は、先生からお伝えいただく留意点を踏まえ、テキストやレジュメ、小テストやノートを見直し準備します。当日は、与えられた試験時間内を落ち着いて過ごすことを重視します。試験開始直後は心を鎮めて集中し、頭の中の記憶を辿り、一つひとつの言葉をゆっくり紡ぎ、丁寧に文章を作成することから始めます。解答の方向性が自分の中でクリアになった段階で、徐々に書くスピードを上げ、解答に集中しています。間際まで試行錯誤を重ね、少なくとも次につながる「記憶に残る」答案を書きたい次第です（2023年1月までの「試験代替レポート」についても同様でした）。

### 【横浜慶友会】

横浜慶友会（以下、「浜慶」）への入会は2022年の10月でした。入会のきっかけは夏期スクーリングで同じ講義を受講した先輩よりご紹介いただいたことです。2022年度は新型コロナの影響により、慶友会の活動はオンラインで行われていましたが、2023年に入ると、ようやく新型コロナの影響による活動制約が緩和されはじめました。1月には「鎌倉七福神めぐり」のイベントに参加し、浜慶の皆様、OBの皆様とお目にかかり、散策や懇親会の場をご一緒できることは大変有意義な時間でした。その後、先輩のご卒業にともない、学習担当のお役目を引き継ぎました。また、卒業式や

入学式、卒業祝賀会にはボランティアとして参加いたしました。

今、勉強会や講師派遣で皆様と学ぶ機会をいただけていること、例会やイベントでお顔を拝見し、同じ場を共有できていることが、学生生活の貴重な思い出として蓄積されつつあります。横浜慶友会のスタッフとしては大変微力ではございますが、後方支援を通じて浜慶のお役に立てますと幸甚に存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新しい憩いの場 日吉パビリオン 2023年3月誕生

## レポート対策・科目試験対策

法学部甲類 普通課程 小林 香緒里

### 1 はじめに

私は 2007 年法学部甲類普通課程に入学しました。現在、残る 1 単位と卒業論文のみです。就職、結婚、出産と人生のイベントが重なり卒論と 4 単位を残して休学し 2 年前に復学しました。在籍年数が残る 1 年になっていたため再登録し 2 年目となります。当初、4 年で卒業しようとしていたので在籍 3 年くらいでほとんど単位を取り終えていましたが卒論で躊躇踏みをして数年何もしない状態が続きました。今振り返るともったいないことをしたなと思います。実は休学前にも卒論指導を受けており卒業予定申告までもらっていました。しかし復学後は自分の興味が変わり現在の仕事に関するテーマをやりたいと 1 からやり直しているところです。先日の卒論指導でようやく卒業予定申告許可がもらいました。

### 2 レポートの書き方

レポートについては正直なところ、かなり前に単位を取り終えたため皆様にお伝えできることはないかなと思いますが、私のやり方について少し述べたいと思います。

まず私の中で総合科目と専門科目（法律）の書き方は異なると思っています。特に 4 年で卒業を目指している若い方は、まずは一般科目の中でも高校の知識で取得できる単位を選び取得されることをお勧めします。英語は大学受験を目指していればどれも簡単に単位が取れます。私は理系だったので

数学、物理、化学、地学なども単位取得しました。その他、単位が取りやすい、取りにくい科目はあるので慶友会などに入会し先輩などに情報収集しました。

レポートの書き方としては、課題をまず読み込みます。その後、教科書で該当箇所を読み込みます。必要であればその前後も読みます。そして図書館に行き参考文献を4～5冊ほど借りてきて目次で該当箇所を探し読み込みます。そのような事をやっていると章立てが浮かんでくるので描き始めるという感じです。

次に法律の専門科目は、一般科目のようにレポートを書かせる教科と刑法、民法、民事訴訟法など司法試験の科目にあるような科目は問題形式で出ているため、司法試験の論文試験のようなお作法（法的三段論法）に則って回答するとレポートも科目試験も問題なく単位取得ができるようになります。私自身、司法試験の受験のために予備校に通っていて知識を取得していたので法律科目は強かったのかもしれません・・・。ただ仕事でも法律的な文書には書き方がありそれは統一されているので、お作法に則って回答する方が採点する教授もしやすいと思います。分かりにくい方はインターネットで「伊藤塾 法的三段論法」と検索するとコラムが出てきます。よくまとめてあるため分かりやすいかなと思います。

### 3科目試験について

私はどの科目も「テキスト丸暗記法」でやっています。慶應通信では過去問がありますが、どこから出題されるか分からないです。であれば、教科書を丸ごと暗記してしまった方が効率いいと思います。丸暗記と聞くと難しそうに思えますが、私の場合はただ教科書を読むだけです。ノートにまとめた

りすることは時間の無駄だし、勉強をやった気になるだけなのでしません。

ひたすら読むのです。イメージ的には速読法のような感じでしょうか。試験の1ヶ月前から始めます。文字を目で追っていく感じで読み通すのです。初めは難解な単語もあり理解しようとすると時間がかかりすぎるので目に文字を慣れさせる感じで進めていきます。理解するというより目に文字を慣れさせるというのが一番当てはまると思います。何回も試験まで繰り返します。そうすると不思議と回数をこなす毎に意味が理解できるようになっていくのです。通勤時間や家事の隙間時間に集中してやると机に向かわなくても勉強時間を確保できます。私は自分のモチベーションアップのために本の背表紙の逆側白い部分に1回読み終わる毎に蛍光ペンで線を引いていきます。毎回色を変えると今何周目なのか一目見て分かります。試験1週間くらい前になると1~2時間あればテキスト1周できるようになり内容も大体頭に入っている状態です。大学から出されている過去問は1週間前くらいにやってみて不足している知識があれば再度テキストの該当箇所を読み込むという流れです。

#### 4 最後に

私のやり方は学びを求めていらっしゃる方にとっては邪道だと思われるかもしれません。ただ就職などのために学位を取りたいと思っている方も一定数いるのも事実です。私もその一人でした。そういう方の参考になればいいなと思い、今回依頼を引き受け書かせて頂きました。フルタイム勤務、子も小さく週末もほぼワンオペ状態なので（夫は仕事のため）卒論サークルにも参加できておらず、慶友会の皆様と交流できる時間が取れないことが今の悩みの種です。「意志あるところに道がある」私の好きな言葉です。

# 私の履修プランと学習法

法学部甲類 学士入学 桃野 清美

## ◆ はじめに

2021年4月29日入学式は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、オンラインで執り行われました。ショックでした。

—新たな道の決意を胸に、慶應通信入学式に参列する—

そのささやかな願いは叶わず、列席者の誰もいない入学式がライブ配信されていました。どれほどの新入通信生が入学式を待ちにしていたことでしょうか。この異例の入学式は後にも先にもこの一度きり。しかし、この出来事が「慶應卒業」という私の決意を確固たるものにしたのです。

—絶対に慶應キャンパスで卒業式に参列する—

## ◆ 学習計画

入学当初の学習計画は暗中模索ながらも、現在のスタイルが確立しました。

1. 科目試験にむけた学習計画表を作る。

(1)はじめに、卒業までに学習する通信授業(テキスト)の科目を一気に決めます。必修・選択必修・選択科目の卒業要件単位数以上となるよう、開設科目一覧からピックアップします。ここで群を少し意識しながら選び、全部を学習しなくとも多めに候補を挙げておきます。理由は(5)で述べます。

(2)メディア授業(E-スク)放送授業(2022年度終了)の受講科目を決めます。

(3)表を作成し、決めたテキスト科目・E-スク等を群分けします。

(4)今年度に学習するテキスト科目を決め、E-スク等と共に4回の科目試験に振り分けます。

(5)科目試験に設定した科目を学習していきます。途中、学習に行き詰ったら、多めにピックアップしたものの中から別の科目に速やかに切り替えます。

		A群	B群	C群	D群	E群	F群
履修科目	通信授業 (テキスト)		③刑法総論	④憲法(J)	③民法総論		
			②英語Ⅱ		②英語Ⅰ	②英語VII	
		③債権総論	②財政論(J)	①親族法	④民事訴訟法	②破産法	④刑法各論
		①相続法	③社会保障論(J)	②刑事政策学	③債権各論		④刑事訴訟法
		②労働法(J)	②社会政策(J)		②手形法		④行政法
					①ライティング	①リーディング	
科目試験	Eスク春期						②近代日本と福沢諭吉
	Eスク秋期		②Eスク刑法				
	(I) 4月		③社会保障論(J)	①親族法			④刑法各論
	(II) 7月	①相続法	②英語Ⅱ				②近代日本と福沢諭吉
	(III) 10月				①ライティング	①リーディング	④行政法
	(IV) 1月	③債権総論	②Eスク刑法		①ライティング	①リーディング	

例えとなりますが、このような表が出来上がります(数字は単位数)。年度始めに1年間の計画を立ててしまいます。勿論、計画通りにはいかず修正が入りますが、「捕らぬ狸の皮算用」でも構わないと思っています。なぜなら、目標を見える化しないと時間だけが費やされてしまうからです。また、表作成以前は同じ群が被り、一方の科目を諦めた失敗談があります。

## 2. 面接授業(スクーリング)の計画を立てる

年度始めにシラバスから時間割を見て、1年間のうちに受講する科目を

すべて決めてしまいます。しかし、時期が近づかないと仕事の都合で通えない恐れがあるので、候補を期や曜日ごと複数挙げておきます。但し、受講は1期1科目と決めています。過去、キャパオーバーで途中、履修取消をした苦い経験からです。夏期なら3期3科目、夜間なら1科目までです。しかし、予め学習している場合は増やすこともあります。また、スクーリング科目にテキスト科目と同じ科目があれば、先にスクーリングを受講するようにしています。理解度が進んでレポートがとても書きやすいからです。

なお、スクーリング単位数が卒業要件以上になってしまっても、興味ある科目は受講したいと考えています。その理由は、独学では知り得ない専門分野の最新情報の入手、ここだけの裏話などがとても面白いこと、また敬遠しがちな科目的視点を変えてみたいなどからです。

### 3. 英語学習について

自己の反省を踏まえ、私が理想と思う学習計画を提案します。既に見聞きした方も多いと思いますが、まず、入学したら英語を一番に取り掛かる(単位取得する)ことです。その理由は二つあります。一つは学士入学の場合なら、必修外国語科目6単位以上と専門教育科目7単位以上の取得で卒業論文指導登録ができ、それにより慶應図書館での資料の貸出や取寄が可能になるからです。学習を進める上で参考図書は必須ですが、公共図書館には所蔵されていない専門図書が、慶應図書館には多く存在します。

二つ目は、英語が不得手である人に限られますが、早くから課題に取り組むことで、それだけ合格が早まるからです。つまり、英語は積み重ねです。課題も科目試験もいち早くチャレンジしチャンスを増やしましょう。

私の反省点は、しっかり英語の基礎を勉強してからレポートに取り掛かろうとして課題に手を付けなかったことです。わずかな時間で1年間勉強し続けたとしても、そう簡単に慶應教科書が読めるようにはなりません。基礎を学習しながらも同時に課題にも取り組むことが重要です。

### ◆わたしの学習法

失敗と成功体験を踏まえた学習法です。

#### 1. 3週間ルール

慶應通信の長所は課題レポートの合否に関わらず、提出さえすれば科目試験が受験できることです。その利点を生かし、たとえ理解度が50%程度であったとしても、とにかくレポートを作成し提出することを心掛けます。私は過去に福祉大学の通信課程で学んだ経験があります。そこでは課題レポートに評価が下され、且つ合格しなければ科目試験の受験資格が得られません。そのためレポートに時間をかける習慣が身についてしまい、それが仇となってこの2年間は計画通りにレポートが提出できませんでした。その反省から、完璧なレポートは目指さずに学習から3週間で提出→受験資格を得る→試験にむけた学習で理解を深める、と自己を追い込む作戦に変更しました。

#### 2. 反復刷り込み法

専門的でなかなか頭に入ってこない本は、とりあえず意味がわからなくとも調べることをせずに読み終えます。そして、また初めから読み始める。これを繰り返します。すると、理解不能だった用語や文章などもインプットされ、少しずつ意味も掴めてきます。これは昔、インターネットがない

時代にある資格試験を、用語の意味もわからぬまま勉強し習得した技法です。ポイントは、理解できなくても時間をかけず、毎日読み返すことです。

### ◆ おわりに

入学して2年、ようやく横浜慶友会の方々と対面で語り合えました。仲間がいることは大きなメリットだと思います。これまでモチベーションは自然回復でしたが、勉強会や懇親会に参加し、皆さんから刺激を受け、エネルギーを貰いました。同じ志を持つ仲間だからこそ、前向きな姿勢も学習の大変さも共通するものがあります。スクーリングや学習会でお会いしたら、お互いパワーを供給し合って頑張っていきましょう。



2023年5月 慶早戦

## 1年目の履修を振り返って ～特にスクーリング授業の履修方法の失敗に着目して～

法学部乙類 普通課程 岸 伸京

### はじめに

私は慶應義塾大学法学部の通信教育課程に 2021 年春に入学し、早 2 年半が経過しようとしています。今回「埠頭」への寄稿の機会を賜り、改めて過去の「埠頭」を読んでみると諸先輩方は文字数制限の中で勉強法と履修プランについて上手く構成され述べられており、真剣に書けば書くほど、既に諸先輩方が述べられていることと同じような話になってしましました。これでは全く面白くないため、今回は少し切り口を変えて主に私の 1 年目のスクーリング授業の履修方法の失敗について着目し、その失敗がその後どのような影響を与えたか、および回避策について述べていきたいと思います。これからスタートされる方々に対して私の経験が少しでも参考になれば幸いです。

### 1 年目の授業の履修について

最初に 1 年目について振り返っていきます。私は 2021 年春に 75 期生として入学し、当初は慶友会に入会はせず家に届いた資料と教科書を読み、インターネットや SNS で情報を収集しつつ独学で勉強することを選択しました。「埠頭」上でも多く述べられている履修のセオリーとして最初に英語から着手するのが良いという事は入学時には既に知っていましたが、昔から英語が苦手であったことから（入学前から落第するなら英語が原因に

なるだろうと思っていました。）、英語は後回しにして最初は法学部らしい政治学（A）と法学（憲法を含む）から着手しました。また、夏期スクーリングや夜間スクーリングでは、法学部ではあるものの、幅広い視野を得たいとの気持ちから社会科学系や自然科学系のテキスト科目の無い科目を中心に履修していき、1年目で総合教育科目的スクーリング授業の単位数の上限である12単位を取得しました。1年目に取った単位の構成は以下の通りです。

テキスト科目：政治学（A）、法学（憲法を含む）

夏期スクーリング：中国語初級、社会科学概論、社会学、情報処理

秋季週末スクーリング：統計学、天文学、倫理学

※英語に着手したのは翌年2022年3月頃でした。

## 1年目の分析

次に1年目のスクーリング授業の履修について分析していきます。履修のセオリーは知っていたものの、とにかく自分の得意、興味があるものを優先して履修していました。これにはメリットは2点あり、1点目は得意、興味があるものを優先しているので「勉学に対するモチベーションは高い状態を維持したまま2年目を迎えることができた。」という点が挙げられます。2点目は「幅広い視野を得るために多くの科目に触れることができた。」という点です。これは将来卒論を書く際に役に立つ可能性があります。一方、デメリットは大きく3点ありました。1点目は1年目に英語の単位を取得しなかったことから「2年目に英語のメディア授業を一切履修することができなかった（塾生ガイド2023、P108参照）。」ということです。仮に普通課程最短の4年で卒業することを目標とし、その後

就職等を考えていた場合、1年英語のメディア授業を履修できないことは大きな痛手であり、以後の履修計画を大きく見直さなければならなくなる可能性があります。一方、卒業まで最短で目指すのでなければ1年目に英語を履修しなかったのはあまりデメリットではないかもしれません。2つのデメリットは「テキスト科目との連接がほとんどない。」という点です。通信生は独学がメインとなりますが、独学だけでは理解が難しい科目についてそのテキスト科目に関連するスクーリング科目を履修し、理解を深めてからテキスト科目を履修するという方法があります。しかし、1年目の履修状況を見てみると連接するのは社会学と統計学だけであり、理論上最大6教科テキスト科目と連接できることを考えるとあまりバランスが良いとは言えません。そして3つ目が「苦手分野の履修を考慮していない。」という点です。総合科目は人文科学、社会科学、自然科学の3分野あり、それぞれで最低でも2科目以上6単位の取得が必要です（塾生ガイド2023、P28参照）。私は英語の他に人文科学分野が日本史を除いて苦手という事が勉強を進めていく中で発覚しました。よって、倫理学の2単位に日本史の2単位を加えてもあと2単位を何かしらの手段で取得しなければならない状況に追い込まれてしまいました。以上3つのデメリットのツケを払うことを考えながら2年目以降の履修計画を立てていく必要が生じてしまいました。

### 問題の回避方法

ではこれらの問題を回避するにはどうすれば良かったのかについて考えていきます。今考えれば回避策は簡単で、2点あります。1点目は1年目から苦手な科目を適度に得意科目に混ぜながら履修する。2点目はスケ

リングとテキスト科目の連接を意識しながら履修する。以上2点を意識して履修計画を作成すれば良かったのかと思います。2点目について具体的に述べると、苦手分野のスクーリングを最低でも2科目履修し、その内の1つはテキスト科目と連接するようにする（例：人文科学分野が苦手であれば、スクーリングでその後テキスト科目に連接できる論理学、文学、哲学等を履修し、その後テキスト科目を履修する（「歴史」は同一領域という概念に注意、塾生ガイド2023、P30）。それとは別にもう1科目人文科学分野をスクーリングで履修する。）。またはもしその分野全体が物凄く苦手であればスクーリングで楽単といわれる科目を探し出し3科目取ってしまうというのも今考えれば方法としてあったかと思います。

### おわりに

1年目の履修に関するミスは決して小さなものではありませんでしたが、そこから学んだことも多くありました。また、1年目のスクーリングで知り合った現文学部リーダーの宮澤君の紹介で横浜慶友会に入会し、2023年10月からは私も法学部リーダーを拝命し横浜慶友会の運営を担っていくことになりました（発刊される頃には拝命しているはず…多分…笑）。縁とは不思議なものです。1年目の授業の履修について評価するならば、卒業が目標という観点からすればあまり良くない選択であったと思いますが、人生の充実という観点から見れば決して悪いものではなかったのではないかと思います。慶應の通信課程の門戸を叩く人たちは通学生と比較し、様々な背景や多様な経験を備えています。また、進捗も一人一人違いますが、我々の最終目標は全員が所定の単位を取得し、卒業することにあります。あえて1人で厳しい道を選択することも時には必要ですが、

同じ目標を持つ者同士、お互い助けられるところは助け合いながら切磋琢磨していくのが学生としてあるべき姿であり、そのような場として慶友会は重要な役割と大きな使命を帯びていると思います。

最後の方は少し話がそれましたが、重ねてこれからスタートされる方々に対して私の経験が少しでも参考になれば幸いです。

## 目標に向かってコツコツと

法学部乙類 普通課程 盛岡 忍

2017年秋入学です。仕事をしながら、慶應通信の学生となりました。ところが、同じ時期に義母と実母の健康上、介護の必要なことが発覚して、まさに介護の現実を背負うことになりました。そのため、勉強時間の確保は難しかったです。テキストを読む時間は、通勤電車の往復時、実母の家に向かう新幹線の中、土・日の空き時間、家族旅行の飛行機の中といった具合です。テキストを持ち歩き、細切れ時間を利用しました。意外と本はどこででも読むことができます。天から文章が降りてきたら、すぐにノートにメモします。教科書や参考文献への気づきは、レポートを書く際利用できます。

さて、レポート対策です。必修科目と早く終わらせたい科目からレポートを取り組みました。レポート問題集が前年度分（残り期間が短いので自信がある場合に限ります）と今年度分ある場合、自分の取り組みやすい方の問題を選びました。テキスト科目履修要領を確認して、講義要領・テキストの読み方・参考文献を確認します。参考文献は図書館で借りました。ネットでも探し、買いたい本は購入しました。レポートは問題が分かれていますから参考文献の該当場所を読んでも、それなりに書けると思います。しかし、問題によっては全体を理解できているか試されているような問い合わせるので、テキストと参考文献の何冊かは読むことにしていました。その方が、対立命題など全体が見え理解が深まります。努力のレポートが、

万一不合格であっても、講評欄の先生からのボッコボコのジャブを熱いエールと捉え、指示に従って肅々と再提出しましょう。授業で理解できなかった所を指導してもらった感じでしょうか。不合格後の再提出レポートの合格は、格別な承認欲求を満たします。

レポートはWEB提出が増えて便利になりましたね。レポート締め切り日に郵便局に駆け込んで、分厚い再提出レポートの重さを計ってもらい、郵便局の消印を確認していたことを懐かしく思い出します。

そして、テキストを読んでも全く書いてあることが解らないとき、同名のスクーリングで、先生の講義を受けると理解しやすいという意見は多いです。私は、夜間スクーリングを受けながら、同名のテキストのレポート準備を一緒にしました。

次は科目試験対策についてです。3年に及ぶCOVID-19対応のため、代替レポートで科目試験が行われていました。しかし、リアル科目試験になつたからにはテキスト全般の試験勉強が必要であると私は考えます。私は科目試験の一ヶ月前から、テキスト中心に復習をします。過去問やテキストの中の課題など、試験問題になりそうな課題で科目試験対策用のノートを作ることもあります。科目試験は60分です。論述形式で回答するとして、問題1題につき800字くらいでまとめる訓練は役に立ちます。問題が論述2題なら、字数はもう少し少なくまとめます。試験問題に字数の制限があるかについては、よく確認してください。私の経験では、憲法のスクーリングの先生が、「1時間で回答をまとめて書ける文字数は800字くらいでしょう。」と話されました。ペン書き800字～1,000字の指示で試験を受けた経験から、この文字数を自分の目安としています。

また、実際の科目試験では日頃の勉強不足を痛感させられます。テキストを何度も読んで、あの辺に書いてあったと気づいたとしても、論述できなければ点数にはなりません。テキスト全般を復習しておくと、薄い記憶であっても思い出して部分回答を少しは記入できるかもしれません。（「あきらめたらそこで試合終了です。」BY 安西先生・スラムダンクより）

毎回のテストは1科目でもいいから受ける準備をする、そして毎回何か1科目だけでも合格しようという、ゆる~い目標でしたが、私にはちょうど良い目標でした。

慶應通信は12年という在籍期間が用意されているので、こつこつタイプがいても良いと思います。卒業を急ぎたい人は急ぐのも良いでしょう。皆さんも、自分と相性の良い勉強方法を見つけてください。



---

## VII. 自由寄稿



三田・東門から幻の門へ

## 『現代語訳 文明論之概略』を読む

法学部甲類卒 小田 忠夫

### はじめに

2007年4月、入学式の特別講演で、清家篤塾長が、孤島に一人送られるとしたら、福澤諭吉著『文明論之概略』を持って行きたいと言われた。私も読みたいと思い、この書を買った。しかし、古文調で書かれていて、内容も難しく、積ん読の状態になっていた。そこで、解説書を参考にしながら、『現代語訳 文明論之概略』を読むことにした。

以下、私が重要と思った個所のあらましである。

### 文明論とは何か

文明論とは、人間精神の発達の議論である。ただし、これは一個人の精神発達ではなく、天下の多くの人の精神発達を一体として捉え、その発達について論じるものである。

### 文明とは何か

文明という言葉の意味は、狭くも広くも解される。狭い意味にとれば、“人間の力をもって人間の欲しがるものを増やして、衣食住に虚飾が多くなる”という意味に解される。また、広い意味にとれば、“文明が衣食住を安楽にするものだけでなく、知性をみがき、徳を向上させて人間を高尚にすること”と解される。

## 智徳とは何か

文明は、人間の智徳の進歩である。それでは智徳とは何か。

「徳」とは、徳義ということで、西洋の言葉では「モラル」(道徳)という。モラルとは、心の行儀のことである。一人の心の中で快くして、誰にも恥じることがないということである。「智」とは、智恵ということで、西洋の言葉では「インテレクト」(知性)という。物事を考え、理解し、納得する働きのことである。

徳義にも智恵にも、二種類の区別がある。第一に「私徳」、貞実、潔白、謙虚、律義などの心の内側に属する徳をいう。第二に「公徳」、廉恥、公正、公平、強さなど外のものに接して社会の中で發揮される徳をいう。第三に「私智」、物事に理を究めて、これにしたがう働きをいう。第四に「公智」、人間のやることについて、その軽重大小を区別して時と場所によって優先順位をつける智の働きをいう。この四つの中で最も重要なのは第四の「公智」である。

## 国の智徳とは何か

西洋にも頑固で愚かな人間はいるし、アジアにも智徳に優れた人材がいる。だが、西洋諸国は文明国といい、アジア諸国は半開国といわれている。なぜ、そういう状況になるのか。これは個々人の賢さや愚かさによるものではなく、国全体に行き渡っている気風によるものである。したがって、文明のあるところを求めようとすれば、それはその国を制している気風がどういったものかを観察する必要がある。気風は、その国の人民が持つ智徳のあらわれであって、進歩も退歩も増減もするものであり、一瞬たりとも止まることはない。要するに、国の智徳とは、国全体に存在する智徳の総量をいう。

## 文明論の課題

日本の文明は、西洋の文明より遅れたものと言わざるを得ない。文明の先後というものがあるとしたら、先にあるものは後のものを制し、後にあるものは先にあるものに制せられることは道理である。自分たちの文明が西洋に及ばないことを知り、また進んだ文明が遅れた文明を制する道理を知った時、その人民がまず考えることは何か。「わが国の独立はどうなるか」、これ以外にはあり得ない。

## 外国交際

いまわが国が困難な状態にあると言っても、日本は依然として元のままの日本で、なんら変わったということもなく、特に心配すべきこともないよう見える。にもかかわらず、わが国の状況を以前と比較すれば、さらに状況は困難になり、心配はいっそう募るとは、いったい何を指してどんな困難を憂えているのか。識者が憂えているのは、この病だと断言できる。私(福澤)は、これを「外国交際」(国と国との交際=外交のこと)と名づける。

近頃は、人民はみな同権だという説を唱えているものが多い。なのに、いま利害を別にし、人情を異にし、言語風俗や風貌骨格に至るまで違っているはるか遠くの外国人に対して、なぜ権力の不均衡を主張しようとしないのか。

外国交際は、わが国的一大難病であり、これを治療するにあたって頼みになるのは、自国民において他にない。その責任は重大である。

## 国の独立とその手段

暗殺とか攘夷というのは、もちろん論外であるし、さらに、一步進めた

軍備による方法も実用には適さない。また、国体論やキリスト教や儒教もまた人心を維持するには足りない。では、いったい何をどうすればよいのか。

目的を定めて文明に進む。それしかない。ではその目的とは何か。内外の区別を明らかにして、わが国の独立を保つことである。そして、この独立を保つ手段は、文明の他にはないのだ。

終わりに

『文明論之概略』初版本は、1875年（明治8年）、いまから約150年前に、出版されている。それでも、いまなお、示唆に富む記述がいたるところに述べられている。みなさんも一読されるよう、お勧めしたい。

#### 《参考文献》

1. 福澤諭吉著 斎藤孝訳『現代語訳 文明論之概略』、筑摩書房、  
2014年2月（第1刷）
2. 福澤諭吉著『福澤諭吉著作集 第4巻 文明論之概略』、  
慶應義塾大学出版会株式会社、2004年11月（初版第2刷）
3. 丸山真男著『「文明論之概略」を読む』上・中・下、株式会社岩波書店  
2008年5月、1986年3月、1986年11月

## 浜慶から三田会へ

経済学部卒 竹原 貢

2023年3月23日(木) ここ日吉校舎独立館へのエントランスに浜慶会員が卒業生をお祝いしようと集まっており、その中にOBの私も居りました。先人が曰く、通信教育課程の行事のなかで一番心に残る「卒業式」の晴れやかさを楽しむためです。

私は2013年通信課程・経済学部に入学し、2019年9月に卒業しましたが、2020年3月に新装となった日吉記念館での卒業式が、コロナ禍で突然中止となってしまいました。

振り返ると自分は卒業式と縁が無さそうです。高校の卒業式は受験のため家を離れ、一つ目の大学の卒業式は就職前の帰省と重なり、慶應通信は世界が初体験の正体不明の新型コロナが邪魔をしました。

慶應通信入学と同時に浜慶の門をくぐり新入会員歓迎会での厚遇に感激して、即スタッフになり卒業までスタッフ一筋で、気が付けば会員をスタッフに誘うのが役割となっていました。卒業後に現役のスタッフが「スタッフになれば卒業できる」という掛け声を発している場面に遭遇し、浜慶スタッフの懇は繋がったと嬉しく思った次第です。

さて通信三田会についてです。慶應通信の卒業が確定すると、三田会の存在が大学から若しくは浜慶OBの方々(私を含め)から紹介されます。慶應義塾卒業生(塾員)が会社内、地域、卒業年度、職種別等々で組織を作り、いま現在では世界で880位の三田会があります。その中に、通信教育課程卒業生を中心に組織した全国通信三田会、都道府県別の地域通信三田会があり、

私は浜慶の流れからその一つ神奈川通信三田会に入会しました。

神奈川通信三田会は現在約 300 名の会員で組織されています。神奈川を中心とした首都圏の在住者で浜慶、湘南慶友会、母親学生会等々の出身者が多く大先輩諸氏、顔見知りの方々も多く在籍されています。

神奈川通信三田会の活動主体は会員の「人間交際」です。携えているのは過去ではなくいまから、明日への視線での交流です。交流会の参加障壁が低く楽しめるのが同好会です。いま 7 つの集まりがあり太極拳、ヨガ、俳句、書道、読書は月1回ペース、絵手紙は2か月に1回、散策は年に2~3回。私は太極拳・ヨガ・俳句と散策に参加しており、経験豊富な講師陣の指導を受けたあと、会場付近で講師を囲むランチ、散策同好会では名所旧跡を解説付きで尋ね適度な運動量と懇親会で楽しく心身を癒しております。

交際の 2 場面は他地区通信三田会を尋ねての新たな友探し交流会と早稲田 e-スクール卒業生との慶早通教 OB 交流会です。4 月のレガッタ、10 月の神宮球場での慶早野球対抗戦の熱き戦いを控え又は勝ち負け冷めやらぬままの交流で大いに盛り上がります。

交際の 3 場面は知識・教養講座で、毎年 6 月は新入会員による卒論発表会、9 月は会員による知識・研究講座、11 月は慶應義塾の先生をお招きしての講演会です。

浜慶には先人が残したあっぱれな金言があります。「あきらめなければ卒業できる」、それに「スタッフになれば卒業できる」を加え、実践して「全員卒業」です。

ご卒業され新たな友探し、趣味探し、知識探しの旅の共に神奈川通信三田会は如何ですか。

因みに神奈川通信三田会の合言葉は「楽しくなければ三田会じゃない!!」です。

## 1.26

文学部第1類 平山 次男

近未来小説として最も広く知られている作品のひとつに、ジョージ・オーウェルの『1984年』があるのではないでしょうか。

全体主義国家に日常生活がすべて監視されている中で、果敢にも立ち上がる主人公を描いた作品で、出版されたのは、第二次世界大戦後の1949年です。

マーガレット・アトウッドが1985年に発表した近未来を描いた作品である『侍女の物語』は、おそらくこの『1984年』を意識して書かれたのではないかと想われます。

マーガレット・アトウッドは、1939年にカナダのオタワに生まれ、小説・詩・評論・児童書などの多くの作品を発表しています。

この『侍女の物語』は、1984年頃に、東西冷戦下の西ベルリンで構想が練られ執筆がなされたとのこと。1984年は、東西冷戦下の時代で、「ベルリンの壁」が東西冷戦構造の象徴として構築されていました。そして、ソヴェイエト社会主義共和国連邦が厳然と存在していた時代でした。

この作品は、全体主義の本質である権力（合法的暴力）が、すべての領域において貫徹する極限を描いていて、ナチスドイツ（国民社会主義ドイツ労働者党：略称 NSDAP）を彷彿とさせます。

あらすじは、近未來のアメリカ合衆国で、宗教原理主義集団がクーデターを起こし、その結果、全体主義国家（ギレアデ共和国）を設立したことによって、人々の日常生活が激変し、主人公の女性が子どもを産む「侍女」

としての役割を担わされ、不条理に満ちた、この「鉄の檻」から脱出することができるか否かを描いた作品です。女性の尊厳や権利はすべて剥奪され、性の役割があからさまに描かれていることもこの作品の特徴といえます。女性は、子供を産むことの役割を担わされた女性と、それ以外の役割を与えられた女性とに分けられ、その役割は厳格に決められています。

子ども産む機能を要している女性は「侍女」として、ギレアデ共和国の主要幹部（司令官）の子を産む役割としてのみ存在します。

このギレアデ共和国においては、権力を誇示するために男性は黒色の服をまとい、女性はといえば、それぞれの役割を象徴的にあらわす「制服」によって視覚的にあきらかされています。

女性の役割は大きく分けて四つに分けられます。

女性を管理するにあたり、あえて直接的に権力を貫徹するのではなく、間接的に管理する役割を「小母」という役割を作り出し、女性の管理・指導をおこなう権限を委譲しています。

「司令官の妻」は、青色（水色）に象徴されていて、裾の長い水色の婦人服や青い傘と表現され、また「マーサ（女中）」は、家事全般をおこなう存在としての役割を担わされていて、くすんだ緑色の制服を着ることになっています。

「侍女」は、赤いガウン、靴、傘、手袋、そして周りの状況（風景）を見せないためと、他の人（特に男性）から顔を覗かれないために、顔を隠す目的で、白色の帽子で顔を被せられています。

この「ギレアデ共和国」では、女性は社会から隔離されていて、文字や映像などを観てはいけないことになっていますし、タバコを吸うことやお酒を飲むことなどは禁止されていますし、ましてや異性との恋愛は厳禁と

なっていて、発覚した場合には、極刑となります。

統一され規格化された「制服」は、権威を視覚化することによって、日常生活をおくる人々に威嚇を与え、萎縮させる機能を發揮することで、規範を維持し、統治を容易にする効果を有しているといえます。

特に「軍服」は、他とは異なるといけないわけで、同じ軍服はありえないわけです。「軍服」は、敵か味方を視覚的に瞬時に確認できる形・色・材質などから構成されています。

着衣に関して、ペローは、「着衣は紛れようもなく一つの具体的な社会的・政治的な役割を帯びていて、これがある人間にはおのれの存在を主張するのに、別な者には他人への従属を促すのに役立っていた。着衣は各人の地位を表すことによって彼らをその地位に固定していたのである」<sup>註1</sup>と階級の関係を示唆しています。

また、衣服の象徴的意味について、ペローは、「いつの時代でも衣服が露わにするのは、社会が自分自身に向けた視線、つまり自らの階級間差異、人類学的特殊性、性別などに向けた視線である」<sup>註2</sup>ことを強調しています。

『侍女の物語』を知ったのは、『ハンドメイズ・テイル / 侍女の物語』の題名でドラマ化された映像を観てからです。文字を読んだだけですとなかなかイメージが湧かない描写が、映像化されることによって現実味をもって迫ってきました。

緊張した場面の連続で思わず観入ってしまいました。ご興味のある方は、hulu で配信中ですのでご覧いただけます（2023.06.01 現在）。

### 引用文献：

註1：フリップ・ペロー『衣服のアルケオロジー』大矢タカヤス訳

筑摩書房、2022年。 p.21

註2：前掲書 p.36

### 参考文献：

鴻巣友季子『文学は予言する』新潮社、2022

ジョージ・オーウェル『1984年』高橋和久訳／早川書房、2009年。

マーガレット・アトウッド『侍女の物語』斎藤英治訳／早川書房、2001年。

### 参考映像：

「侍女の物語」が、ドラマ化され、huluで配信中です（2023.06.01現在）。



今年も夏スク穏いの場に

## 日本刀が彩る歴史探訪（その3）

文学部第2類 神谷 喜人

### ＜はじめに＞

皆様こんにちは。私事ながら、昨年末にホノルルマラソンを走ってきました。師走にハワイで汗かくのは最高です。さらに、7月15～16日には浜慶例会を欠席して、富士山に登頂。いつも新幹線の車窓から見上げる、あの頂上まで。お天気にも恵まれて友人と良き時間を共有できました。荘厳たる日の出と、まず見ることはないだろう”ブロッケン現象”にも遭遇。感動です。素晴らしい景観、しんどさをも満喫できる、かろうじて耐えうる体力、そして周囲の支えに感謝するばかりです。反面、刀関係はご無沙汰で有ります。

さて日本刀の話、3回目の今回は、ようやく鎌倉時代の話になります。刀剣黄金期。この頃の刀、太刀、薙刀は素晴らしい、後世の刀鍛冶がその作品を目指して鍛錬するも、なかなか辿りつかない刀剣界の頂にあります。最近、博物館や美術館で日本刀をご覧になった方、どのくらいおられるでしょうか。時々、浜慶で開催される「鎌倉散歩」古刹巡りは実に楽しいものですが、鎌倉にありそうでないものが”刀を展示する美術館”ですかね。本場なのに、勿体無い気がします。美術館では、真剣を実際に手に持つ事はできないのですが、日本刀の鑑定会などで鎌倉時代の名刀を手にすると、見かけの割に大変軽く感じる事があります。刀のバランスだけではない、不思議さがあります。また、古い刀は実は研ぎ易いのも特徴です。これは、それなりの研磨経験がないと感じることはないかもしれません、現代刀

を打ち下ろし（出来立ての刀）などを研ぐと、砥石ばかりが減ってなかなか研げません。現代刀工の皆さんも必死で作刀しているのは確かなのですが、鉄の重みを感じる、硬い刀になってしまいます。

さて、かの時代、政治の中心が京都から行きつ戻りつ鎌倉に移るとともに、有名刀工も鎌倉で仕事を開始しました。まだ、頼朝が蛭ヶ小島にいた頃は普通の武士達が、普通の戦備として刀剣を買って所持していた相模、武藏や関東地域。ここでも、刀は作られていたのですが、刀剣史の中でもあまり取り上げられる事はありません。一角（ひとかど）の武士であれば、ちょっといい刀が欲しいですよね。きっと。ましてや、政治の中心となつてゆく鎌倉にあって、堂々たる武士が持つ刀であればなおさらでしょう。

#### <招聘された刀工三名>

しかし、皇都京都などとは違い、有名な刀鍛冶などいません。どうするか。一番凄そうな刀を造ってくれる鍛冶職人を鎌倉に招聘してしまえば良いと、備前国から備前三郎国宗と福岡一文字助真が、山城国より栗田口国綱が鎌倉に来て、当時最高技術で旺盛な関東武士団の軍事需要に応えました。備前（東岡山）や山城は当時の軍事工業地帯と言っても良く、立地条件の良さと技術者（刀鍛冶だけの産業ではなく、原料の玉鋼から、松炭、各種砥石、粘土、石灰などの周辺材料はもとより、研師、鞘師、柄巻き師、白銀師など多数）層の厚さや、販売流通網などの総合評価から、備前（現在の瀬戸市周辺）が随一とされていました。その他に旧都奈良（大和）、京都（山城）などが有名どころでした。

### <自由な環境と時代の要請>

一方で、歴史ある土地ほど、旧癖に縛られたしがらみの世界とも言えます。現代の企業でも、”××の付き合いがあるから〇〇はできない”そんな事がざらにあるでしょう。新しい工夫は、長年の伝統の中では圧殺される。鎌倉時代もその辺は同じだったと推測します。そんな縛りから解放され、新たな土地、鎌倉で思う存分腕を振るい、政府の手厚い産業振興支援もある。なんて素晴らしい環境でしょうか。そんな鎌倉に到着した刀鍛冶、どのような気持ちだったでしょうか。何もないに等しい新たな土地。不安も不便も、膨大だった筈、でも”俺らが、新しい時代を作るぜ！”との気持ちはそれ以上だったとも。

名刀ができるはずです。後世から見れば、同じような事をしていた大昔に見えますが、長年続いた平安時代があって、その当たり前と思っていた環境が揺らぐ時、伴う市場も常識も少しづつ変わってゆく。製造業である刀生産工場？も新しい波に乗るもの、乗り遅れるもの、さまざまな人間模様が繰り広げられた筈です。鎌倉幕府の要請は、恐らくは”武士に相応しい刀を沢山作れ”であり、”良いのができたらまず、俺のとこに持てこい”ぐらいなことは言ったのではないでしょうか。刀の売り買いは、値段だけではなく贈答品としての役割を持つ、當時は人を切るのではなくて、人を繋ぐ役割の方が重要でした。

### <後鳥羽上皇と刀剣>

1221年に討幕を企て、承久の乱を起こす後鳥羽上皇ですが、刀剣への思いは歴代天皇随一です。それは、即位時に三種の神器の草薙剣が無かつたから、剣や刀に執着したとも言われていますが、鎌倉幕府に対抗するた

め刀剣産業を強化して、十分な武器製造を企図したものだと思います。さらには後鳥羽上皇は、刀鍛冶達を月番を決めて水無瀬宮（大阪・三島郡）に呼び寄せて、作刀させると共に、自ら焼き入れをするなどチャレンジャーでした。そうして作った刀に菊御紋を入れて、北面、西面の武士を始めとした”味方”に数多く配布したと記録されています。現存するのは僅かですが、身分卑しい人々が御所内で後鳥羽院と共に作刀できるなどという事は、光栄の極みです。これは、頑張らない訳にはいきません。菊御紋の刀を頂戴する方も、有り難いばかりではなく、いざとなれば院をお守りする契りの証として受け取ったものと推測されます。このような状況下、刀鍛冶達は、在らん限りの技術と努力と魂を焼き込んだ作品を作ろうとした事でしょう。そんな刀鍛冶達には所領、官位までが与えられ、多くの人が夢を目指して刀鍛冶になり腕を磨きました。後鳥羽上皇は承久の乱では敗者となりましたが、負けるなんて考えられないほど自信があった、その理由の一端ぐらいにはなっているかと。鎌倉幕府が出来、対立軸の京都ではこんなことが起きていた時代、素晴らしい刀は偶然ではなく、競い合い、高めあう環境が作り上げた必然だったように思います。

人もをし 人をうらめし あぢきなく 世を思ふゆゑに 物思ふ身は  
後鳥羽上皇詠歌（小倉百人一首 99 番目）

時代は武士の世となり、さらに刀が必要となる事態に向けて突き進みます。来年は国難・元寇と刀剣との関係から鎌倉幕府の終焉までを紡ぎたいと思います。皆様も、良ければ美術館もしくは刀剣店で真剣を是非ご覧になってください。刀鍛冶の熱き想いが伝わるかも。但し、購入するのはや

めておいた方がいいです。少なくとも、これを読んで刀買ってしまった、  
なんてことは無いようにお願いします。

(次号に続く)



日光助真：国宝 日光東照宮蔵（東京国立博物館寄託）加藤清正から徳川家に。家康の愛刀とされる。福岡  
一文字派の絢爛重奏な美しさと強さを併せ持つ。刃長 72.21cm、反り 2.88cm



## VIII. 勉強会活動の振り返り

---



日吉・校舎間から望む武藏小杉方面

## 総合科目

リーダー 前村孝子

サブリーダー 北河文子

今年度の総合科目勉強会は副会長・笈川さんの協力のもと、リーダーとサブリーダーで情報交換会を実施しております。学部勉強会のような形式ではなく、情報交換会のみで、「どの科目を選択したらよいか」「スクーリングは何を取ったらよいか」等の先輩方からのアドバイスを中心に進めてきました。

総合科目勉強会の位置づけは、学部を超えて学習の疑問や悩みを解決する場として参加していただくことです。参加者の多くは普通入学、特別入学の方で、中にはレポート作成が初めて、何から手をつければいいかわからない、教科書の理解に躊躇して先に進めない、など総合科目勉強中の方の悩みを共有して単位取得とモチベーションの維持のお手伝いをしています。

5月からリアルな例会が開催されています。リアルのタイムスケジュールの中で総合科目の設定時間が難しく、オンラインの勉強会を併用して進めていきます。リアルの勉強会のメリットとオンラインのメリットを合わせることで参加者のニーズに対応していきます。

単位取得のスランプに陥っている方、悩んでいるうちに時間だけが過ぎてしまっている方、是非総合科目勉強に参加してみてください。情報交換を通して、他の人の悩みに共感し、アドバイスを参考にすることで、自分が悩んでいるのではないことを感じていただけると思います。相談することで偏った考え方になりがちな学習法の修正や学部を超えた会員のつな

がりができます。総合科目勉強会は頑張る力を維持する場所です。

なお、統計学は経済学部の必修、文学部も心理教育統計を取得したい方がおり、学士入学の方でも参加可能です。

#### ■ 2022年9月～2023年7月 総合科目情報交換会 実績

月日	内容	参加者	会場
<b>2022</b> 09/18(土)	夏期スクーリング報告 10月科目試験について	8名	Zoom にて開催
10月お休み	週末・夜間スクーリングと重なるため		
11/26(土)	週末スクーリングについて 夜間スクーリング(途中経過)について	6名	Zoom にて開催
12/17(土)	メディア授業・夜間スクーリング について	7名	Zoom にて開催
<b>2023</b> 01/21(土)	統計学などのアドバイス メディア授業・夜間スクーリング について	8名	Zoom にて開催
2月お休み	ミニ講演会と重なるため		
03/18(土)	4月科目試験に向けて	9名	Zoom にて開催
04/15(土)	統計学などの分野別の科目について	11名 (見学1名)	Zoom にて開催
05/22(月) 夜	スクーリング・メディア授業の申込等に について	9名	Zoom にて開催
06/19(月) 夜	夏期スクーリングに何を選択するか等の アドバイス	4名	Zoom にて開催
7/15(土)	夏期スクーリングについて 統計学のアドバイス	9名	Zoom にて開催

## 文学部

リーダー 宮澤 輝明

文学部の運営は、リーダー1名、スタッフ2名（平山さん、伊藤さん）と、途中からスタッフ2名（高品さん、山根さん）にも参加していただき、計5名で勉強会と情報交換会を実施しています。私は今期が初リーダーということで、皆様に支えられて運営してきました。運営スタッフ、そして勉強会参加者の皆様、ありがとうございました。

今期は卒論、新入生などで参加者が段々と移り行く状況、そしてオンライン（Webex→Zoom）からリアル（日吉キャンパス）、更にはハイブリッドに環境が変わる状況の中、どのように会を盛り上げていくかを考えてきました。

まずは会の肝である勉強会を盛り上げるため、全体的にハードルを下げて交流を盛んにするようにしてきました。特に講師役については「良い成績でないと」「資料作りが大変そう」という声がありました。しかし勉強会で大切なのは勉強だけでなく、経験や情報の共有もあるという声があります。そのため、講師の方には交流の種を撒いて頂く役として、科目の様子や講師の経験をお話しいただくような方向性でお伝えしています。他にも文学部メーリングリスト（文学部ML）を立ち上げ、例会以外での交流の場を考えました。

また、勉強会で行うことを科目に留めず、時期に応じてスクーリングや参考文献の情報交換会を実施してきました。講師対参加者の構図ではなく、横の広がりを持った協力関係をつくっていける会になればと思います。

幸いにも勉強会には毎月 15 名ほどの仲間が集い、勉強会、情報交換会を盛り上げてくれました。慶應は独立自尊、半学半教。今後とも、皆様の積極的なご参加・ご意見・ご協力をお待ちしています。そして、全員で会を盛り上げていきましょう。

また、勉強会を運営するスタッフも積極的に募集してきました。特にお伝えしているのは「まずは雰囲気だけ」。まずは縁の下の世界を見ていただくことで、自然にご自身のできること・やりたいことが見えてくることでしょう。

#### ■ 2022 年 09 月～2023 年 07 月 勉強会・情報交換会実績

月日	勉強会科目	類	担当講師役	会場
2022 09/17	教育学	I	塚田さん	Web 勉強会
10/29	夜間スク情報交換会	—	参加者	Web 情報交換会
11/19	西洋哲学史Ⅱ	I	萩原さん	Web 勉強会
12/17	パワーポイント スキルアップ講座	—	宮澤	Web 勉強会
2023 01/21	夜間週末スク情報交換会	—	参加者	Web 情報交換会
02/18	論理学	I	高品さん	Web 勉強会
03/18	国語学系	I	伊藤さん	Web 勉強会
04/15	歴史系	II	平山さん	Web 勉強会
05/20	新人紹介	—	参加者	日吉キャンパス
06/17	参考文献情報交換会	—	伊藤さん、高品さん	日吉キャンパス
07/15	夏スク情報交換会	—	参加者	Web 情報交換会

## 経済学部

リーダー 野本一昭

2019年12月初旬に、中国武漢で第1例目の感染者が報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に世界中に蔓延し私達の生活に多大な影響と変化をもたらしました。そのコロナ禍もようやく落ち着いてきて、わが国でも今年5月8日に5類感染症に位置付けが変わり、私達の生活もコロナ禍以前の状態にほぼ戻って来た感があります。そのような状況の中で、慶友会としての活動も大きな制約を余儀なくされ、コロナ禍においては例会や勉強会もリアルでの開催ができなくなり、オンラインでの開催という形へ変わりました。

このコロナ禍における経済学部の勉強会を振り返ってみると、オンラインの開催になったことで、移動することなく勉強会に参加する機会が増え、多少なりとも参加へのハードルが下がったかとも思いましたが、過去のリアルでの勉強会と比較して参加者が少なくなっていることは否めません。この現状については、結局、コロナ禍による変化が一義的な要因ではなかったように思われます。

通信教育は基本的に個々人がそれぞれ計画を立てて自主的に勉強に取り組みます。多くの皆さんの最終目的は通信教育課程の卒業を目指すことだと推察しますが、皆さんそれぞれの置かれている立場や環境、そして考えが異なりますので、同じ最終ゴールを目指してはいるもののその過程は人それぞれ様々です。慶友会は学生間の学習上の啓発を目的として、自主的に結成している公認の学生団体で有志の団体です。そしてまたその中の勉

強会も有志の集まりです。皆さんの中の慶友会や勉強会の位置付け、期待することは異なるものと推察しますが、自分で計画を立てて自己管理を行い、その計画通りに目標を達成できると考えているのであれば、必ずしも慶友会に入ったり勉強会に参加したりする必要はないのかもと思います。因みに、私の慶友会や勉強会参加の目的は、他のメンバーの方々の勉強方法などからヒントを得たり、その他いろいろな情報を集めること、そして他のメンバーの方々との交流から自分自身の勉強へのモチベーションを上げることにありました。私にとって、横浜慶友会に入り、今まで何の接点もなかった様々なバックグラウンドを持った方々と少なからず接点を持つことができたことは、とても有意義なことだと思っています。

今後、勉強会活動がより活発になって有意義なものになることが望ましいとは思いますが、先に述べたように個々人の勉強会の位置づけが異なり、それぞれの異なるニーズにすべて応えることは不可能ですので、それぞれの状況によって勉強会には参加していただき、 参加していただいたことで何等か得るもの、少しでも役立つものが得られればよいのかと思います。

そのためにも経済学部スタッフとして、勉強会活動をよりよい方向へ持って行ければと思いますので、皆さんのご意見やご希望をお待ちしております。引き続きご協力の程、よろしくお願ひ致します。

## 法学部

リーダー 鈴木 佳寿子

新型コロナウイルス感染の拡大と沈静の繰り返しにより、2020年7月から法学部MTGはすべてオンラインで行ってきました。ようやく2023年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、それを機に慶友会活動に対して大学の教室の使用が認められるようになり、5月の法学部MTGは日吉校舎で開催することになりました。オンライン開催では地方や海外在住の会員の参加や、同日に他の予定が重なっても容易に途中参加・退出、移動中の車からの参加など、オンラインだからこそできることが多くありました。そこで対面の法学部MTGを再開するにあたり、日吉の教室とオンラインのハイブリッド開催にしようという話になりました。事前にスタッフでハイブリッド開催を試行して音声やカメラの位置・方向など検討を重ね、5月17日に日吉校舎の会場とzoomのハイブリッド開催が実現できました。それまでリモートではおなじみの皆さんも、“初めまして”的挨拶を交わしました。2022年秋入学と2023年春入学の会員も含め、日吉校舎参加者15人、zoom参加者6人が集いました。まさに法学部MTGのコロナ後再出発の1日でした。これからはその時々に応じて開催方法を選択して、多くの方が参加できる法学部MTG活動ができるでしょう。

翌6月にはハイブリッドで法学部MTGを開催した後、日吉校舎独立館の教室を会場に、法学部教授太田達也先生を迎えて講師派遣を開催しました。対面の講演会はコロナ禍以降初めてでしたが、太田先生の熱のこもっ

たご講演と教室を埋める受講者の熱気にあふれ、素晴らしい講演会でした。

ポストコロナは元の状態に戻るのではなく、法学部 MTG 活動は参加者によってさらに進化するものと思います。

法学部 MTG の最近の状況について報告します。

### 1. 運営

#### ・スタッフ

鈴木佳寿子 竹田瑛 鳴戸千鶴 渡部外彥 岸伸京

運営に関わる業務・役割はスタッフで分担し、意見交換をしながら無理せず助け合って活動の継続を図っています。

#### ・法学部 MTG（法学部ミーティング）の内容

講義形式の勉強会+情報交換会を基本スタイルにしています。

勉強会のテーマは参加者の希望を参考に決め、講師役は担当してくれる参加者のほかに卒業生にお願いすることもあります。

情報交換会は参加者誰もが気軽に対話できる場です。取り組んだ科目で苦労したことや失敗したこと、役に立ったこと、それぞれの勉強方法でうまくいったこと、わからないことや困っていることの相談があれば、誰かがアドバイスや少しでも参考になる情報提供をするという具合です。

毎回参加者の活発な意見のやりとりがあり、入会間もない方から卒論に取り組んでいる方まで、誰もが誰かの役に立つスタイルです。

#### ・LINE グループ（浜慶法学部 MTG）

法学部の LINE グループで連絡や情報提供を行っています。法学部卒業生の参加もあり、卒業生との連絡もあります。

## 2. 法学部 MTG 実施状況 2022 年 9 月～ 2023 年 7 月

実施月	テーマ	進行	講師
'22 年 9 月	特別講座「京都大学相続・遺贈セミナー」 (外部セミナー)		武田 (OB)
10 月	テキスト科目、スクーリング授業 成果報告・まとめ	渡部	渡部
11 月	情報交換会のみ (経済学部講師派遣のため時間短縮にて)	竹田	
12 月	生活に役立つぞー法律学	渡部	渡部
'23 年 1 月	国際法（基礎編）	竹田	湯浅
2 月	統 国際法	竹田	湯浅
3 月	科目試験対策 ～代替レポートから対面試験へ 4 月第 1 回科目試験にむけて～	渡部	渡部
4 月	法学の勉強の仕方 ～慶應通信法学部の基本的な勉強の仕方～	渡部	渡部
5 月	法学部 MTG の案内 情報交換会 & 新入生・在学生懇談会	岸	鈴木 岸
6 月	情報交換会のみ（法学部講師派遣のため） 講師派遣 「加害者による被害者への損害賠償を どう実現するか」	岸	太田達也教授
7 月	講師派遣報告と刑事政策学学習のすゝめ 科目試験の傾向と対策	岸	鈴木 岸

## 卒論サークル

リーダー 渡部 外彦

卒論サークルでの情報交換会は、例会日の午前中にはほかの勉強会と時間をダブルしないようにずらし開催している。それは、通信生は日々忙しく、時間の捻出が大変であるも、少しでも多くの方が参加いただけるようにとし、開催時間だけでなく方式も Zoom による遠距離参加を可能にし、この5月、6月では学校に校舎利用が可能になった際にはリアル開催と併用したハイブリットを実施した。参加者の発言情報が卒論情報として共有性があり、その情報がやがて卒業論文の完成に至ることを目指している。

卒論は通信生にとっては避けて通れない重要な事項であり、学問が進んだ段階で関心事項に集中して、その領域から研究テーマを見出して研究するものである。研究には周辺論文の収集から分析それに加えての知識を研究して論理展開して学問領域を広げることになるが、初めての方は勿論のこと、論文作成に経験を持った方でも研究領域探求には困難なことが多いとの意見が聞かれる。

そこで、論文に関する情報交換会で集まる方々の情報を話していただき、未経験者から卒業生までの集まったメンバーの情報により問題解決につながったりするなど、共有することにより体験情報を得ることになると見て進めている。

「卒論はどんなテーマを選択するのですか」

「卒論指導の教授はどのように決めるのですか」

「卒業指導をどのように受けるのですか」

など、基本的質問から専門領域での教授とのやり取りと自分での研究がまとまりをもつときの話など、これらは個別な事項であるもののその情報が自分に広がりを持たせられればサークルの意味があると考える。

卒論サークルのスタッフは4名で進めてきたが昨年、田島さんが卒業され、今年の3月に樋口さんが卒業されOBで応援を受けていて、福田さんを加えて3名体制で活動している。スタッフの卒業による変化を補うメンバーを募集して継続していきたいので、応援のほどよろしくお願いします。

卒業生を多く輩出する横浜慶友会のその基本にある卒論サークルがよい効果を生むことができるよう、これからも皆様の意見を聞きながら進めます。



三田・大学院校舎裏

## 鹿嶋特別講座「3分間省エネ卒論」

講座案内役 渡部 外彦

この講座は 2021 年 11 月より 2023 年 7 月で 20 回目を迎えた。約 1 年半の継続講座である。はじめは卒業論文の難しさからそれを少しでもやさしく理解して書く方法がないだろうかと考え、以前に「ロジレポ講座」を開催して OB 会員にずっとおられた鹿嶋さんに声を掛けたところ快く引き受けていただき、実施しているものである。

開催日は勉強会と重ならない日曜日の昼過ぎの 2 時間半を当て、方法は Zoom 方式にしている。対象となる方を初めて学ぶ方から卒業された方まで広く募り、資料は継続性を持たせながら、鹿嶋さんのオリジナルに作成されたものを毎回配布している。講座内容は資料の説明を前半にし、後半は参加されている方との意見交換が中心で、参加人数は毎回 10 ~ 15 名ほどである。

最近の講義資料のタイトルを記載する。

20 回：分節記載テクニック・第 4 段（7 月 16 日）

文章のパラグラフ・場面展開を上手く書くコツ

19 回：<感激・感謝レター> 憂いことが起きた！！（6 月 18 日）

麻生区に住んで 35 年。この感謝レターを書いて涙が出てきました！！ 鹿嶋英實

18 回：分節記載テクニック・第 3 段（5 月 21 日）

やさしいテーマ（日常の 1 コマ）を探し、それを論述すればよい。

17回：分節記載テクニック・第2段（4月16日）

卒論攻略を説明しながら、アウフヘーベン論述の訓練も兼ねてできる凄ワザを披露している。

16回：分節記載テクニック・第1段（3月19日）

分節構造について論じ、格調高く、思考の深い論文を書く要領について検討していく。

15回：論理的記述方法・第4段（2月19日）

おとぎ話の桃太郎は、3歳の子供でも理解できる。何故か。

14回：論理的記述方法・第3段（1月29日）

フレームという概念を提案し、そのフレームを造る過程で、人類の流れという哲学的観点を加味して、レポートが受けりやすい思考手順を提示している。

13回：論理的記述方法・第2段 続編（2022年12月18日）

レポートが何故難しいのか。

それは、第1に、レポートは書面主義だからである。レポートは文章で記述し、学生の理解度を示し、合格レベルにする必要があるからである。

12回：論理的記述方法・第2段（2022年11月20日）

本稿全体は長いので、複数段（第1段から第4段）に分けている。人類の流れ理論に基づいてレポートにつきフレームという概念について説明してきた。

11回：論理的記述方法・第1段（2022年10月23日）

レポートを作成するコツは教授の指摘（深く考える、自分の言葉で書く）を満たすことが必要であり、そのためにレポートのフレームを提倡している。

10回：写経訓練の応用（2022年9月18日）

写経訓練をしたが、その応用はどうなのか。応用について説明していく。実情では社会学がかなり難しいので、社会学のうちとりわけ命題を問題提起して論ずる例を示す。

以上





---

## IX. 横浜慶友会の活動 (2)



横浜・MM21

## ◇ PEN 卷頭挨拶集 2023 年度◇

PEN は横浜慶友会の機関誌で、8月を除き毎月発行され、会長・副会長をはじめとするスタッフや各勉強会リーダーから寄せられる様々な情報を掲載しています。

そのはじめには皆さんからお寄せいただく巻頭言を掲載しています。そこには筆者の熱い思いが詰め込まれ、勉強法や日々の気づき、卒業を目指すノウハウにも触れることができます。勉強に行き詰ったとき、なんとなくやる気が出ない時などに、ぜひ読み返してみてください。きっと共感できる、励まされる一編に出会えるはずです。

2022 年 9 月  
今、思うこと～コロナ禍の中で～

経済学部 野本 一昭

総務省をはじめ関係省庁においては、以前からテレワークの導入を推進してきました。 そのような中、新型コロナウィルス感染症の出現により、その拡大防止のための方策として、改めてそのテレワークの有効性と必要性が見直しされました。 私達は今まで毎朝混雑した電車に揺られて出社し、そして仕事が終わればまた電車に揺られて帰宅する。それは多くの人々が長い間何の疑いも持つことなく、当たり前のこととして繰り返してきたのではないでしょうか。 新型コロナウィルス感染症の出現で、どこにいても仕事はできることが社会的にも認知され、皮肉にも私達の働き方考え

方を大きく変えることを後押しすることになったといえるでしょう。

私達の学習においても新型コロナウィルス感染症の拡大により、ここ2年近く大学での対面授業や試験が中止となっていました。通信教育の学習の基本は個人とはいえ、夏期・夜間スクーリングなど実際に大学の教室での緊張した空気の中で、講義を聞いてみたいと思った方も少なからずいらっしゃるのではないかでしょうか。私もその一人ですが、今年度はようやく対面授業など、完全ではないにしろ以前のような状態に戻っていることはとても嬉しいことです。

大学のオンライン授業については、テレワークと同様メリット、デメリットについていろいろと取り上げられていますが、実際に大学に行って同じ学生同士で時間や場所を共有することには大きな意義があると思っています。通信教育の学生の立場としては異なるのかもしれません、学生同士の結びつきが強まり、帰属意識、一体感を呼び起こし、学習意欲を少なからず刺激してくれるものと思います。

今後もライブ配信やオンデマンドの授業形態は引き続き継続され相対的に増えてくるのかはわかりませんが、コロナ禍が一刻も早く収束し、今まで以上にバランスの取れた学習の日常が戻ってくれればよいと思います。

2022年10月

例会に参加して「半学半教」を実践しよう

法学部甲類 鈴木 佳寿子

慶應通信は4月入学と10月入学があります。新入学生の方はご入学お

めでとうございます。そして、ようこそ横浜慶友会へ。横浜慶友会の1年は10月がスタートです。今月22日は年1回の定期総会が開かれます。ぜひ参加してみてください。こんなに大勢仲間がいることがわかり、心強く思うでしょう。

通信の学生は、通学生に比べると実に多様性にあふれています。そもそも入学の動機も一様ではありません。高卒認定を受けたという若者もいれば、映画鑑賞が割引になるシニアもいます。皆さん様々な背景をもち、社会での役割や家庭での役割もそれぞれです。それまでの経験や知識が入学学部の学びと関連ある人もいる一方で、全く関係ない人もいます。この通信生の「多様性」と今はやりの「diversity」の意味するところとは少々ずれると言う意見があるかもしれません、SDGs（持続可能な開発目標）全体の理念として「誰一人取り残さない」という考えがあり、目標達成には「diversity」が重要とされています。多様性に満ちている通信生も目標は同じです。慶應通信で学んで卒業することが全員の共有する目標です。そして横浜慶友会の目指すところは、「全員卒業」です。すなわち誰一人取り残さず卒業することを目指し、一人ひとりの学びを互いに助け合い、高め合っていく活動を進めることです。学習上の悩みや壁にぶち当たったり、学習意欲の継続や向上がうまく図れない時には、誰かの言葉がブレイクスルーのきっかけになるかもしれません。選択や手続き上の迷いは経験者が良いアドバイスをくれるでしょう。困っていることなんかないという方こそ、いつでも誰かが誰かの役に立つということを思い出し、お互いに学び教え合う「半学半教」の関係を作っていただきたいと思います。「半学半教」は慶應義塾の精神です。横浜慶友会の例会に参加して実践しましょう。

2022年11月  
会長就任（再任）の挨拶

会長 塚田 光博

10月定期総会では、お世話様でした。昨年に引き続き会長に選出された、文学部I類の塚田です。昨年度、会長職を経験しまして、以前担った企画リーダーとの役割が大きく変わったと感じています。会長の主な役割は、各行事・会進行の統括、ミーティング開催、大学との連絡調整、全会員向けの情報発信、会員からの個別相談等々が、一連の業務です。いかに会全体を把握し、会活動の活性化を目標として「浜慶丸」を無事に航海していくという大役を実感しています。

しかし自身、各行事においては、講師派遣では、大いに学び、新春鎌倉ツアーや下見や実践トーク等の企画行事を楽しみ、日吉で多くの卒業生と喜びの笑顔で対面し、他の慶友会と共に卒祝や新歎を主催し感動を得て、夏期スクでは、浜慶スタッフと初対面するほか、毎月の勉強会では、多くのアドバイスを得たことなど、喜ばしい経験もたくさんあります。ゆえに、慶友会の真価を肌身で感じているわけであります。

ご周知のとおり、2年半を超えるオンラインを中心とした本会の活動は、一定の成果を挙げております。しかし、リアルでない学習活動を継続しているなか、会を担当してきたスタッフも次第に卒業され、その後を担うスタッフ体制を維持することが、難しい状況になっています。運営面では、企画、卒論サークル、埠頭等のスタッフが減少しています。慶友会は、皆様の学習意欲や知恵の結集によって、その価値をいくらでも高める可能性のある

ものと考えます。特に23年度は、各種行事がリアル開催されることを鑑み、新しい会員の皆様に本会の活動を支えていただくことが望ましいですね。先日の定期総会においても、新しい風が吹き始めている予兆を感じています。是非、全会員皆様の叡智と創造あふれる実践行動をもって、半学半教の精神を貫いていきましょう。

最後に、新年度を迎える「全員卒業」を合言葉に、本会活動を皆様とともに、大いに盛り上げていく決意です、本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

2022年12月  
幸せは身边にある

文学部第1類 筬川悦子

2022年も残すところ1ヶ月 ニュースから今年を振り返るとネガティブな話題が次々と思い出される。年内には収束すると期待していたコロナは、ようやく規制が緩和されたもののマスク生活は継続中。2月に始まったロシアのウクライナ侵攻もまだ終わりは見えない。それをきっかけに始まったエネルギー価格の高騰によって世界の経済が混乱。北朝鮮は威嚇のために多数のロケットを発射し、円安と物価高が私たちの日々の生活に影響を及ぼす。情報を得る手段としてテレビやsnsは手軽で便利だが、断続的に流される衝撃的でネガティブな情報に不安や不満、恐怖などの感情が揺さぶられた1年だったと思う。

ネガティブな情報に触れると物事をより悪い方へ考えがちになってしま

い、今年は幸せな年ではかったと考える人はいるだろう。また物質的な問題や環境などの要因で幸せでないと考える人もいると思う。だが、このような時だからこそ幸せを感じる心の感度を上げることが重要なのではないだろうか。家族がいること、住む家がある事はもちろんのこと、大好きなスイーツを食べたとき、見知らぬ小学生がすれ違った時に照れくさそうに「こんにちは」と挨拶してくれたこと（おそらく学校で指導されているのだろう）、そして雲が一つもない青空を見た時など、幸せを感じる心の感度を上げてみると自分の周りは幸せなことで溢れていることに気づく。幸せは特別なものではなくすべての人の身近にあるものなのである。よって幸せに気づく心の感度を上げれば、だれでも幸せになることができる。

まもなく終わる 2022 年、心の感度を上げて身近にある幸せに気づき、感謝しながら 1 年を振り返ってみてはいかがだろうか。そして来たる 2023 年を幸せな気持ちで迎えていただきたいと思う。

## 2023 年 1 月 感動の裏側

文学部第 1 類 出水 田有紀

コロナもウクライナ情勢も終息が見られないままの年明けとなり、今年こそは平穏な日常が戻って欲しいと願うばかりです。

しかし、このような状況の中、2022 年を振り返ってみると、北京オリンピックに始まり、歓喜のサッカーワールドカップで締めくくられ、明るさを届けてくれるニュースもありました。

フィギュアスケート界の王者、羽生結弦選手は、最後のオリンピックとなつた北京で4回転アクセルに挑戦し、平野歩夢選手が大技を決めて日本スノーボード史上初の金メダルに輝きました。記憶に新しいサッカーワールドカップでは、日本代表が強豪国を破り2大会連続の決勝トーナメント進出。大きな感動を与えてくれました。おそらくどの選手も、コロナ禍の中活動が制限され、予定していた大会が中止や延期となり、苦悩の中で迎えた大舞台であったであろうと思います。私たちが目にするのは、輝かしい感動の一瞬であるけれど、その感動の裏側には、目に見える一瞬の何倍も何千倍ものトレーニングが積み重ねられているのでしょう。力があってもその力を発揮する舞台を奪われてしまった選手もいるかもしれません。SNSが発達している現代では、勝てば賞賛の嵐、負ければ叩かれるという時代でもあり、自分自身だけではなくあらゆるものと闘い続けていかなければならないのだろうと想像します。だからこそ、彼らが与えてくれる輝かしい一瞬に静かに感動し、その感動の裏側にある姿に大きな賞賛を捧げられる、そんな心を持ち続けていきたい。私たちがチャレンジしている慶應通信の世界も、溢れる情報に惑わされず、自分自身と向き合う真の学びの場だと思います。諦めず、歩みを止めず、今年も頑張ろう。そんな誓いを立てました。

2023年2月  
横浜慶友会スタッフのすゝめ

(企画) 文学部第1類 正岡 純代

200名を超える会員の皆さんにとって、横浜慶友会は心強い支えになっているでしょうか。「スタッフって、何?」と思われるかもしれません、この会は30人ほどのスタッフによって運営されています。私は2018年4月29日、入学式当日に横浜慶友会に入会しました。独力で通信教育をやり遂げる自信がなく、その不安の解消は横浜慶友会の入会にあると考えていたからです。会の運営のことなど何も知らず、5月に日吉キャンパスの定例会に参加すると、先輩方の堂々とした姿が眩しく、その日からすっかり頼りにさせていただきました。

2019年10月には企画のスタッフになり、この会の運営がスタッフの裏方の努力で成り立っていることを知って、今まで恩恵を受けていた勉強会も情報誌PENも徒や疎かには出来ない思い、通信生活のモチベーション維持となりました。スタッフとして定例会に出席することで先輩、同輩、後輩の方々とつながることもできました。3年余りスタッフに携わっていますが、その間はほぼコロナ禍に重なります。手探りでZOOMによる活動が始まり、対面での交流が難しい時に、ZOOMで多くの方々と話し合うことができました。現在企画スタッフは私1人ながら毎月を乗り切れているのは、その時の交流のお蔭で、他のスタッフの皆さんのサポートがあるからです。通信教育は基本的に独りの世界ですが、スタッフの活動は、身边に仲間の存在を感じ、通信生の余得、役得だと感じています。同じ通信生

をするなら、スタッフを経験して、もっともっと学生生活を膨らませてみてはいかがでしょうか。皆さんはお忙しい中で通信の勉強以上に時間は割けないのが実状かもしれません、1%でもスタッフとして運営に携わってみると、きっと余得があるはずです。そして横浜慶友会では「スタッフになれば卒業できる！」と囁かれています。スタッフを務めた先輩方はみんな卒業されています。卒業への一番の近道は他でもない、スタッフの一員になることです。

だから、来たれ！横浜慶友会スタッフに！スタッフをおすゝめします♡

### 2023年3月 言葉の力～魔法の付箋

文学部第3類 古屋 裕子

3月にご卒業される皆様、本当におめでとうございます！嬉しくもありさびしくもある季節ですね。

先生や先輩から贈られる言葉には、特に不思議な力があると思います。入学式やスクーリングでの先生方の言葉や先輩方の言葉には色々と勇気をもらっています。その中でも私にとって先輩方からの付箋に書かれた一言は、目に見える大事な宝物となっています。

まず、入学時に「通信で学ぶのには、孤独にならうよ慶友会に入り仲間を作るのがいいですよ！」と勧められて、すぐに浜慶に入会しました。その時にOBの方が、「久しぶりの英語を学ぶ人達のために勉強会を開いていますよ！」と声をかけてくださいました。データ以外に一部の資料は紙

で郵送して頂いた時に「がんばってください！」の付箋とともに送ってくださり、「がんばります！」と独り言をいいながら手帳に挟み、日々の励みにしました。

コロナ禍で、対面での慶友会活動が出来ず、オンラインでの書籍譲渡会の時は、こちらから住所を連絡しただけで、その時はご近所だったのも知らず、「近いので取りにきて下さい！」と言われる距離でも、何も言われず送料も負担してくださり、譲っていただいた本には、おしゃれな付箋で「もらってくれてありがとうございます。」とありました。また別の方も送料を負担してくださり、「お役に立てると嬉しいです。」との可愛い付箋と一緒に、「勉強の合間にどうぞ！」とお気に入りの紅茶も同封してくださりました。先輩方の暖かい言葉と心使いには、なかなか学習が進まない私にとって大切な支えになっています。

まだまだ卒論指導登録にはほど遠いですが、英語の卒業所要単位は修得できました。今年も卒業される先輩方を目標に自分のペースではあります  
が、色々と学んで、卒業に向かって頑張りたいと思っています。

### 2023年4月 モチベーションアップ

(総合科目) 文学部第1類 北河文子

長かったコロナ禍を経て、環境が変化していく中、いよいよ来月から、リアルの勉強会が復活する予定です。Zoomでの良さもありますが、リアルでの勉強会は休憩時間や終了後の先輩や仲間の助言、学部を超えたアド

バイスが直接的な学習の支えになります。ちょっとした雑談さえモチベーションアップにつながります。浜慶の皆さんとのパワーを直にいただけたと思うと楽しみでなりません。

そんな中で、最近、コロナ疲れからか、学習意欲がわかないことありませんか。私のモチベーションアップは、「1万時間の法則」です。これは、天才は生まれつきの才能ではなく1万時間の努力の中に宿るというものです。天才と呼ばれる人は皆それだけの時間を費やして努力をしているという事を言っています。

これを、凡人には関係ないと思わず、決意次第で違う自分に出会える可能性があるという捉え方をしてみる。つまり、1万時間勉強してみる。すなわち、1日3時間を10年続ければその境地に達するという計算になります。これは、慶應通信の勉強のモチベーションアップになると思いませんか。私と同じように、合理的な計画、実行ができない方、スランプに陥っている方、あきらめないで学習を続ければ卒業だけでなく、新しい自分に出会える可能性があるという事です。勿論、短期間で卒業するのはすばらしいですが、長い時間かけ積み重ねる事も悪くないのだという事だと思います。

私は、今年度で8年目に入り、惰性で勉強する自分に焦る気持ちがありました。そんな時、横浜慶友会の仲間のアドバイスに助けられ、また、この「1万時間の法則」の考えを自分に寄せて、自分のペースで勉強をつづければ、きっと新しい発見があるはずだと考え、今日も机に向かいます。

さて、令和5年度が始まりました。新たなレポート課題を目の前にして、自分がいかに楽しめるか、今年の計画を立てていきましょう。勉強会での学びを支えにしながら、今年度も一緒に頑張りましょう。

2023年5月  
慶友会を大いに活用しましょう

2022年度経済学部卒 樋口 浩子

慶友会は、みんなで学べる所だと思い入会しました。それは、ただ教えてもらえる所ではないのですが、それに気付くのに時間がかかりました。私が参加していた頃の経済学部の勉強会では、テーマ毎に担当を決めていました。自分でも出来そうなテーマを選ばせてもらい発表に備えましたが、期限までに勉強し、資料を作成しなければいけません。とても大変な事なので担当したくないといつも思っていました。初めて作るグラフにも苦戦し、長時間費やしたことありました。発表するということは、準備をするのに時間や手間がかかり、人前で話すことは大変緊張し、決して楽しいものではありませんでした。

ところが、コロナ禍のZOOM参加での夏期スクーリングで、今まで勉強会で苦労したグラフ作成が役に立ったのです。スクーリング最終日の課題でそれを発揮することができ、高評価を頂きました。これは一人で勉強していたら出来なかったことです。他の発表者のグラフなどを手本に作成の仕方なども教えていただきながら、少しずつですが作成できるようになっていたのです。パワポを使って素晴らしい発表をされる方もいらっしゃいましたが、その時の私には、まだパワポを作成することもできず真似ができませんでした。

慶友会で学んでいることは無駄ではないのです。積極的に勉強会に参加し、発表することは、単位取得の為であるかもしれません、知らず知ら

ずのうちに卒論の準備をしているのです。そして、発表することは、卒業試験の練習にもなっているのです。

慶友会では、何度間違えても、何度トライしても良いのです。共に情報交換し、共に学ぶ場なのです。ぜひ、手をあげて勉強会に参加してください。

そして、卒論サークルにも参加してみてください。困った時だけではなく可能な限り参加することをお勧め致します。自分が聞きたいことは、これから直面する問題のほんの一部に過ぎません。卒論サークルでは、多くの方の問題やその解決策を聞くことが出来る気づきの場であり、沢山の情報が詰まっています。歴史ある横浜慶友会は、学ぶ体制が整っている素晴らしい慶友会です。卒業に向けて、慶友会を大いに活用しましょう。

## 2023年6月 とにかく動く！

法学部乙類 福田 恵子

今頃は皆、試験対策に励んでいらっしゃることと思います。不慣れなリアル試験にドキドキされつつ。私も初めての試験の際「準備すれば合格する筈の科目に、対策不十分で行くのは馬鹿らしい」と、英語の受験を逃げていたのを思い出します。

しかし、その場に臨んでみなければ判らないことが多いのがリアル試験。過去間に掲載の無い科目的設問形式や時間内に書ける文字量等、本質的なことのみならず、持ち物の準備（時計、消せる＆消せないPEN、修正液、持ち込み可のもの等々。学生証、受験受付票は勿論）、掲示板で試験のお

部屋や変更事項を確認すること、席の座り方、気持ちの切り替え方…。まずは「場慣れ」のつもりで試験に参加し、お友達を作る機械にしては如何でしょう。

卒論に着手しなければならない私は、そうは言いつつ、手付かずのままで早2年半。レポ提出や試験という火事場の無い卒論で、先延ばし癖に浸り切っていました。以前の『埠頭』で、「モチベーションの維持のためには、感情より習慣化」的な事を教えていただいた筈なのに、それが出来ていなかった自分を悔やむばかり。「自転車は漕ぎ始めが一番大変」なのを痛感しています。

まずは小さな1歩を踏み出す！ 考え込まずに動く！ 動かし始めれば回っていく。ノット広がる（次にすべきことが見えて来る）！ こう自分に言い聞かせている毎日です。

他の方の進捗を伺って触発されたり励まし合う事も、気持ちを搔き立ててくれます。各勉強会や卒論サークルや懇親会に1つでも多く参加することで気付きが与えられると再認識。浜慶の皆様のお力をお借りして、改めてゴールを目指したいと思っております。

## 2023年7月 勉強するということ

文学部第1類 宮澤 輝明

7月となり、新入生の方では初試験を迎える方が多いと思います。私は今年で3年目になりますが、実は2回目の試験となります。皆様お察しの

通り、このペースでは 12 年かけても単位が足りません。しかし私はそう思いながらも折れずにまだ在籍しているのは、ある意味自分のペースを守っているからこそ、そして学友の皆様のサポートがあるからこそだと思っています。

通信教育課程では、自己学習が基本です。しかし、元々勉強したり本を読んだりする習慣がない私にはとてもハードルが高く、結局単位を取る意欲はなくなりました。卒業にハードルを感じた私は卒業を一旦脇に置き、勉強することを楽しむことにしています。ポイントは毎年必ずスクーリングを受講することです。スクーリングへ通うことで科目の外延を知ることができ、ついでに図書館を利用することでテキスト科目にも取り組む機会となっています。まだ後 10 年、卒業はまだ射程範囲内です。これからも自分にあったペースを更新していくことで、より勉学に励んでいきます。

一方、こんな状態でも大学を続けていられるのは、慶友会やスクーリング、Twitter で出会った皆様との交流によって支えられているからです。特にコロナ禍でもしっかりと人間関係を形成できたことはありがたいです。

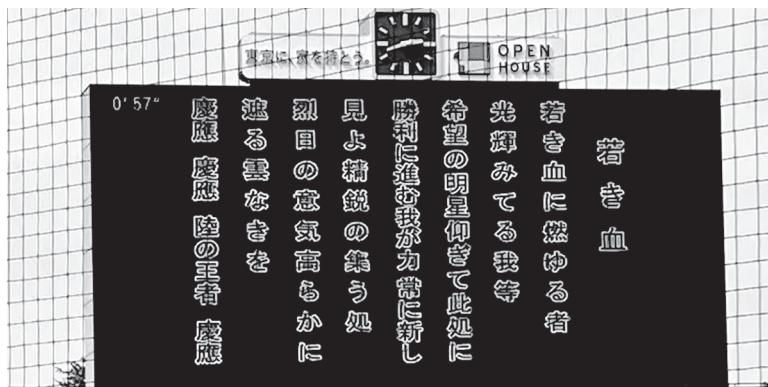
大学で勉強すること、それはただ科目を履修することではなく、自分の内面に潜む興味と問題意識の探求なのだろうと思います。ただし私にとってはそれ以上に、自分自身に向き合っていく機会となっています。

なお今回巻頭言でこのテーマを選定するにあたり、ふと入学当時の志願理由書を見てみました。するとそこには、どういう目的や方針で勉強したいかがしっかりと現れていました。そして、それを忘れていた自分に気付きます。志願理由書ではなくとも、自分が本当に思っている目的からブレないことは大切な指標だと思いました。入学してしばらく経っている方は是非確認してみてください。そこには当時の心境とともに、勉強する目的や自分を思い出すきっかけがあるかもしれません。

甲子園 優勝おめでとう



2023年8月 107年ぶりの全国制覇に夏スクも日本中も大熱狂



## 危機管理における横浜慶友会の基本姿勢

2023 年度横浜慶友会会长 塚田 光博

横浜慶友会は、学生間の学習上の啓発を目的として自主的に結成している公認の学生団体です。本会会員は、慶應義塾大学の塾生としての自覚をもち、責任ある行動に努め、有意義な学生生活を送るように努めてください。

塾生ガイド・イントロダクション「学生生活上の注意喚起」には、第一に「協生環境推進憲章」（2019年9月20日制定）を遵守し、つねに「気品の泉源、智徳の模範」にふさわしい行動・言動をこころがけること、第二に「具体的な学生生活上の諸注意」が記載されています。本会会員は、これらを最低限の原則として、遵守してください。

学習活動においては、メール、SNSの使用やオンライン会議等の機会が多々あります。その際に他人を傷つけ、人権を侵害するような発言は、許されるものではないことを十分自覚してください。また「不適切な行為の禁止」、「危険な飲酒行為の禁止」、「性加害行為の禁止」の項目については、リアル活動が復活した現在、各種行事においては無論のこと、仲間内の会合においても、これら諸注意を厳守してください。また塾生ガイド・学生生活編「学生生活のサポート」の章には、「ハラスメント防止のガイドラインとハラスメント防止委員会」が記載されていますので、一読することをお勧めいたします。

横浜慶友会規約では、第11条（迷惑行為の禁止一本則）、第11条の2（迷惑行為—情報漏洩の禁止）、第11条の3（迷惑行為—情報目当て行為の禁

止)、第13条(個人情報の取り扱いについて)の各条において、危機管理に関する内容を定めております。本年度は幸いにも、これらの規定が適用されるトラブルの報告はされていませんが、相手の寛容さに許されている場合や、時間の浪費になるため問題を表面化させないということもありますので、一人一人が良識ある自覚をもって、行動するよう努めてください。

横浜慶友会は、年齢層やおかれている社会背景など、様々な多様性をもつ人たちの集まりです。この多様性を認め合い、お互いの人格を尊重し、協力しあう大切な仲間の集いとして学習活動に参加されるよう、お願いいいたします。

## 横浜慶友会規約

### 第1条（名称）

本会は慶應義塾大学通信教育部学生が自主的に結成する地域団体であり、名称を「横浜慶友会」と称する。略称は「浜慶（カタカナ、ローマ字表記も使用可）」とする。

### 第1条の2（所在地・事務所）

本会の所在地は原則として会長宅に置く。ただし、資金・口座管理は会長の委任を受けた会計が行い、口座管理上の事務所の所在地は会計宅に置く。

### 第2条（目的）

本会は会員相互の学習上の啓発を目的とし、各種行事を行う。

### 第3条（会員の対象）

本会は慶應義塾大学通信教育部の学生、および本会出身の卒業生で構成する。

### 第4条（会員の資格と審査が必要な場合）

本会は、定められた会費を納入した者を会員とし、会員証を授受する。11月の月間機関紙（P E N）発行日まで前年度の資格とし本会での権利を得、義務を負う。ただし第10条、第11条各項の要件に該当する者は、会員資格について運営スタッフの審査を受ける。会員は、規約を遵守しなければならない。行事により見学者等、会員外の参加を認めることがある。

### 第4条の2（届出事項の変更と退会）

会員は、学籍番号、学部、住所、氏名等に変更がある場合、および年度途中で退会する場合は、会長に届け出なければならない。指定期日迄に年会費が未納の場合も退会の意思とみなす。

### 第4条の3（会員証の発行）

本会は会員に対して会員であることを証明するために会員証を発行する。

### 第5条（会長および運営スタッフ等の設置）

本会は会の運営を円滑に行うため、会長および運営スタッフを置く。運営スタッフは第5条の2の運営単位とするが、相互に協力して本会の事業を運営する。また、必要により相談役（アシスタント待遇）を置くことが出来る。

### 第5条の2（運営スタッフの主な役割）

本会は次の通り役割を分担する。

- |             |     |  |
|-------------|-----|--|
| 1. 会長       | 1名  | 会を代表し、これを統括する。   |
| 2. 副会長      | 1名  | 会長を補佐する。   |
| 3. 法学部リーダー  | 1名  | 法学部勉強会を代表し、これを統括する。  |
| 4. 経済学部リーダー | 1名  | 経済学部勉強会を代表し、これを統括する。   |
| 5. 文学部リーダー  | 1名  | 文学部勉強会を代表し、これを統括する。  |
| 6. 総務       | 3名  | 入会に関する広報と会場手配を行う。  |
| 7. 会計・会員管理  | 2名  | 会の財政と会員管理を行う。  |
| 8. 企画       | 2名  | 親睦行事、入学式勧誘、講演会の企画実行・記録、卒業生を祝う会を行う。   |
| 9. P E N 編集 | 4名  | 月間機関紙「P E N（ペン）」の編集・発行を行う。   |
| 10. W E B   | 2名  | 横浜慶友会H P（ホームページ）及び各メーリングリスト（F B、ツイッター等を含む）の管理・運営、ニュースレター寄稿を行う。                 |
| 11. 学習資料    | 4名  | アンケートなど会が収集する学習資料の整理・発行を行う。  |
| 12. 埠頭編集    | 3名  | 年間誌「埠頭」の編集・発行を行う。  |
| 13. 勉強会等    | 若干名 | 卒論、総合科目、教職、その他の科目履修に関連して、会員は任意に勉強会の企画・運営を行う。<br>スタッフおよびアシスタント、O B会は兼任することができる。 |

**第5条の3（会長および運営スタッフの任期）**

会長および運営スタッフの任期は11月1日から翌年10月末とし、会長の任期は原則2期2年迄とする。ただし、総会で承認を得た場合は、会長の任期を1年単位で延長することができる。

**第5条の4（会長および運営スタッフの選出と任命）**

会長および運営スタッフの選出は、定期総会で行う。会長の任命は、総会で承認を得なければならない。運営スタッフは、会長が推薦・提案し、総会で報告しなければならない。中途退任が出た場合は、アシスタントで補充し例会等で報告しなければならない。

**第5条の5（アシスタント）**

本会の運営に当たっては、スタッフのほかに運営単位ごとに会員の中から補助要員としてアシスタントを募ることが出来る。

**第5条の6（OB会の設置）**

本会では、本会出身卒業生を特別会員としてOB会を構成する。

**第5条の6の1（OB会の役割、監査、選挙管理）**

OB会は本会目的の達成のため、各行事に協力するとともに、会計および運営監査、選挙管理を行う。会計監査および選挙管理は年1回（10月）行う。任命に当たっては会長が推薦し、総会で承認を得なければならない。

**第6条（総会）**

会の最高議決機関である。原則として10月に定期総会を行う。

**第6条の2（総会の手続きと成立）**

総会の召集・議案提出は会長が行い、召集は「H P」または「P E N」、「ニュースレター」、その他文書で公示する。総会は、会員の5分の1以上の出席により成立する。ただし、会員は「H P」などを用いた電子的な委任宣言または委任状をもって出席に代えることができる。

**第6条の3（総会の議決）**

総会の議決は出席会員の過半数により成立する。

**第6条の4（臨時総会）**

会長は必要があると認めたときは、総会を臨時に召集することができる。

**第7条（運営ミーティング）**

運営ミーティングは、運営スタッフおよび一般会員で構成され、会の運営について協議する。ミーティングは会長が召集し、原則として月1回例会日に開催する。

**第7条の2（紛争や問題の処理）**

本会内で発生した紛争や問題の処理は、臨時ミーティングで協議し、法と本会規約に照らし合わせて処理をする。ミーティングの形態、出席対象はその都度事前に会長が指示する。必要によりオブザーバーを出席させることができる。

**第7条の3（情報公開）**

会長および運営スタッフは、本会内で発生した重要な問題への協議結果について例会を基本として、会員に情報公開しなければならない。ただし、プライバシーへの配慮と守秘義務を負う。

**第8条（会費と収入・支出）**

次の1.2項を会費とする。途中入会でも会費は規定に従い割引かない。次の各項をもって会計を運営する。

1. 正会員 年会費2,500円。ただし4月以降入会の会員は1,500円とする。
2. 特別会員（卒業生） 年会費1,000円
3. 寄付金、雑収入など、会費以外の収入。
4. 会合、行事に際し、別途参加費を徴収することができる。ただし本会の会計には取支を反映させない。
5. 本会の運営、各種行事等に必要な費用の支出を行う。適宜、事業・実施要領を作成する。

### **第8条の2（会計年度と予算）**

本会の会計年度は、10月1日より翌年9月30日までとする。毎年簡易な予算案を作成し総会で報告する。

### **第8条の3（会計報告）**

会計は、年度末に会計監査を行い、10月の定期総会において会計および監査報告を行わなければならぬ。

### **第8条の4（運営に関する報酬）**

本会は、運営に携わるスタッフやアシスタント等に年会費相当額までの報酬を年一回支払うことが出来る。支払の有無、および支払い方法、その報酬額、対象については、ミーティングで年度毎に基準を見直す。会場予約や三田会など行事対象が強制的で指定日に限る場合は必要により交通費、会費等を支払うことが出来る。

### **第9条（行事）**

本会は、その目的を達成するために次の行事を行う。毎年簡易な活動概要・活動案を作成し総会で報告する。

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 例会（月例会、夜間例会）            | 5. 他の団体との交流            |
| 2. 学習会および研究会、合宿等           | 6. 講演会                 |
| 3. レクリエーション、卒業生を祝う会        | 7. 各種学習アンケート           |
| 4. P E N および埠頭の発行・W E B 運営 | 8. その他（これに該当しない情報交換会等） |

### **第10条（会員の権利および義務）**

本会の諸行事への参加は全員の権利であり義務である。情報を得る以上、会員相互のコミュニケーションや情報交換は会員の義務であり権利である。会員は、本会主催の定例会に年1回以上出席しなければならない。

なお、定例会に一度も出席しない者は、第11条に準じて本会の権利を停止することがある。

### **第10条の2（会員証の提示）**

会員は、例会および勉強会、情報交換会その他本会の行事の一部に参加する際には会員証を携帯し、これを掲示するものとする。一部行事については会員証を携帯していない場合は参加を断ることができる。一部行事の具体的な内容についてはミーティングで議論し、例会で報告するものとする。

### **第11条（迷惑行為の禁止一本則）**

本会の名誉を著しく損ね、本会を商行為に利用するなど、本会の秩序や公序良俗に反するような迷惑行為を犯した者はミーティングで議案し、出席者の過半数の賛成により、退会または行事への参加停止にすることが出来る。なお停止の期間は最長1年間とする。また、学則違反やセクハラ防止ガイドラインに抵触する行為をした者も同様とする。

### **第11条の2（迷惑行為－情報の漏洩の禁止）**

本会から提供する情報は、会員相互の協力で得られる貴重な情報である。よって、本会の承諾なしに本会が提供する情報を会員以外に漏洩させた事が発覚した者は、第11条に準じて処分する。

### **第11条の3（迷惑行為－情報目当て行為の禁止）**

本会の行事に参加せず、本会または会員より得られる情報のみを目当てに在籍することが発覚した者は、第11条に準じて処分する。

### **第12条（会員への連絡方法）**

本会から会員への連絡事項については、原則H Pで公開するP E Nおよび例会で行うが、期日までに連絡できない等緊急を要する場合にはメール通知システムによる連絡を持って全会員に通知したとみなすことができる。

### **第13条（個人情報の取り扱いについて）**

会員から提供されたプライバシーに係わる個人情報の取り扱いについては運営スタッフ、勉強会スタッフ

で適切に管理して、本会からの連絡やお知らせ等の送付及び勉強会等の学習交流を目的とする場合に使用し、会員の許諾若しくは同意なしに第三者へ提供することはないものとする。

ただし、慶應義塾大学通信教育部より年1回提出を義務付けられている塾生会員名簿（学籍番号、氏名）の提出に関しては、個別に同意を得ることなく提出を行う。

#### 第14条

本規約は総会において改正され、即時に効力を発生する。

附則（施行） 本規約は昭和40年4月1日より施行する。

第21次改正	平成12年10月22日	一部改正	第22次改正	平成13年10月28日	全面改正
第23次改正	平成14年10月27日	一部改正	第24次改正	平成15年10月26日	一部改正
第25次改正	平成16年10月24日	一部改正	第26次改正	平成17年10月23日	一部改正
第27次改正	平成18年10月22日	一部改正	第28次改正	平成19年10月28日	一部改正
第29次改正	平成20年11月2日	一部改正	第30次改正	平成21年10月25日	一部改正
第31次改正	平成22年10月24日	一部改正	第32次改正	平成24年10月28日	一部改正
第33次改正	平成27年10月31日	一部改正	第34次改正	平成28年10月23日	一部改正
第35次改正	平成29年10月28日	一部改正	第36次改訂	平成30年10月21日	一部改訂
第37次改正	令和2年10月17日	一部改正			

名称・所在地

名称：慶應義塾大学 通信教育課程 横浜慶友会 会長 塚田光博

所在地：(個人情報のため省略)

## <編集後記>

『埠頭 65 号』が発刊の運びとなりました。

原稿を書いて下さった会員の皆様、OB の方々、ご協力下さったすべての方に感謝致します。ありがとうございました。また、講師派遣による講演および特別寄稿して下さった太田先生に、この場を借りてお礼を申し上げます。

●浜慶の一員となって比較的すぐに埠頭編集チームに加わり、あと一年、もう一年…とあっという間に 4 年も携わり続けています。卒業しない限りこのお役目が続くのではと思う反面、新しい方や若い方に、この伝統ある『埠頭』に新風を巻き起こしていただけたらとも思っています。「本好き、活字好き、イベント好きな方、来たれ！ 埠頭チームへ」と、この場を借りて編集メンバーの募集をさせていただきます。（萩原）

●今回はご卒業の先輩方が多く賑やかな紙面となり嬉しく思っています。埠頭チームに加えられて以来、原稿やお写真を提供くださる方々とのやり取りが楽しくて続けていますが、慣れた最近は、内容に加え皆様の文章・語彙・構成力にも大変教えられています。埠頭 65 号で 1 年を振り返り、気合を入れ直して、皆様と一緒に頑張って行きたいと思います。（福田）

●先日卒業生祝賀会の時に OB の元会長さんから、横浜慶友会の伝統ある機関誌の『埠頭』が、編集委員のなり手不足により発刊の危機に見舞われることが度々あったとお聞きしました。それでもなんとか 65 号の発刊の運びとなったのは皆様のご協力のおかげだと思っています。これからもよろしくお願いします。（古屋）

---

2023年  
『埠頭 65 号』

2023年9月30日

発 行 横浜慶友会  
編 集 横浜慶友会 埠頭編集担当  
古屋裕子 萩原佳子（文学部）  
福田恵子（法学部）  
写真提供 伊藤裕子 竹原貢 新沼裕嗣 萩原佳子  
平山次男 福田恵子 渡部外彦  
印 刷 ハラマチ印刷

---

無断での複写・転載を禁じます。

【写真】表紙：三田・東館  
表紙見返し：三田・中庭から望む南校舎  
裏表紙見返し：日吉・福沢諭吉像